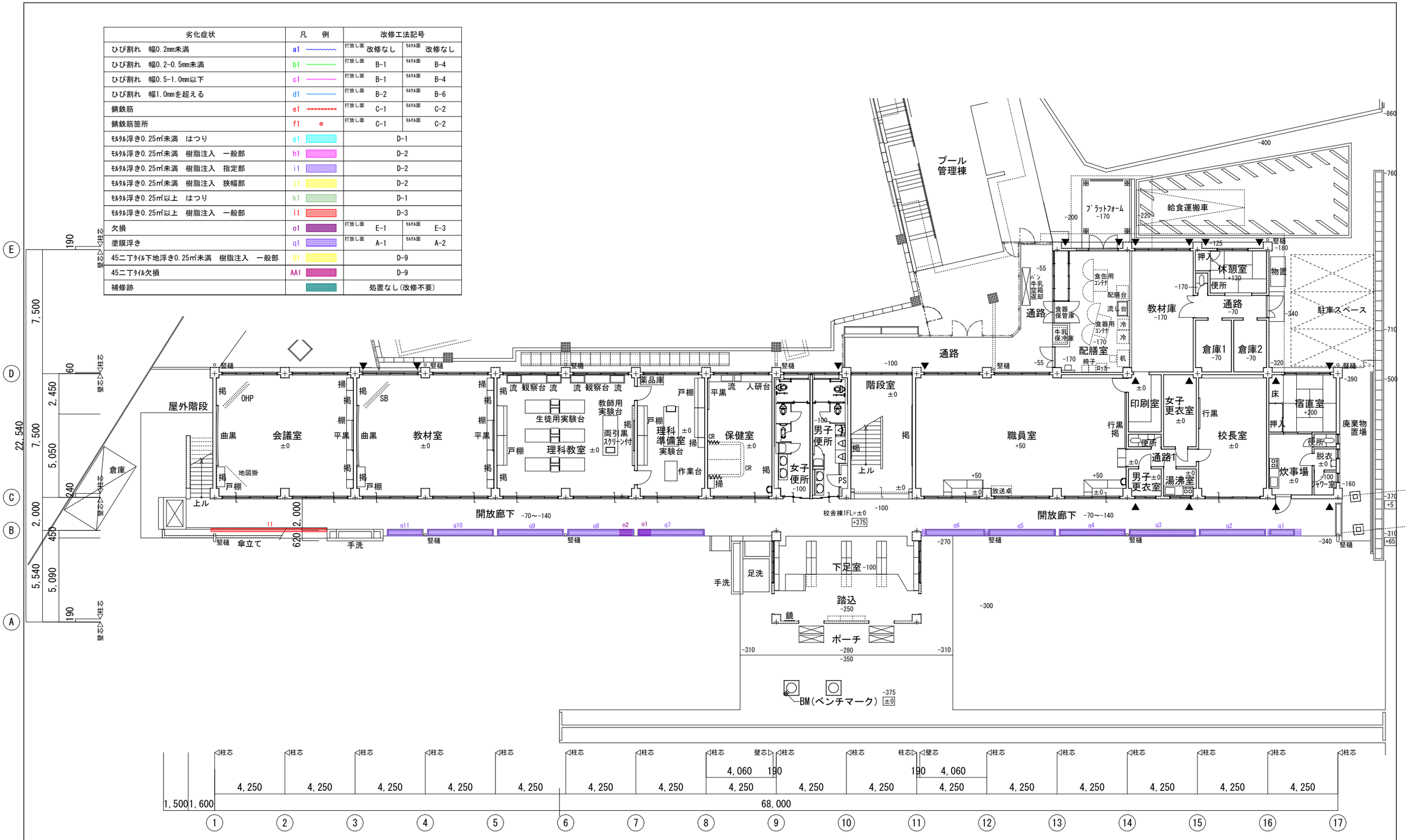
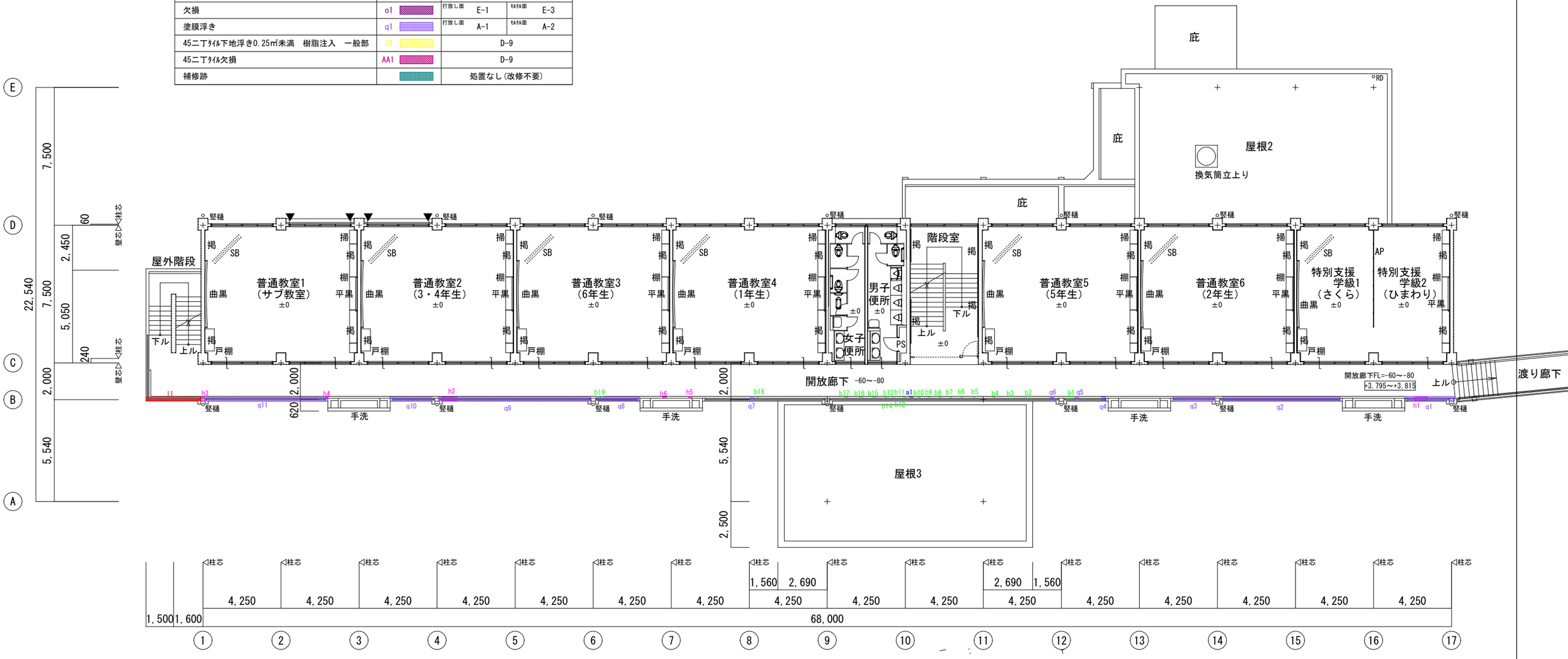
劣化症状	凡　例	改修工法記号	
ひび割れ　幅0.2mm未満	a1	打放し面 改修なし	ﾓﾙﾀﾙ面 改修なし
ひび割れ　幅0.2-0.5mm未満	b1	打放し面 B-1	ﾓﾙﾀﾙ面 B-4
ひび割れ　幅0.5-1.0mm以下	c1	打放し面 B-1	ﾓﾙﾀﾙ面 B-4
ひび割れ　幅1.0mmを超える	d1	打放し面 B-2	ﾓﾙﾀﾙ面 B-6
錆鉄筋	e1	打放し面 C-1	ﾓﾙﾀﾙ面 C-2
錆鉄筋箇所	f1	打放し面 C-1	ﾓﾙﾀﾙ面 C-2
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　はつり	g1	D-1	
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　樹脂注入　一般部	h1	D-2	
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　樹脂注入　指定部	i1	D-2	
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　樹脂注入　狭幅部	j1	D-2	
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡以上　はつり	k1	D-1	
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡以上　樹脂注入　一般部	l1	D-3	
欠損	o1	打放し面 E-1	ﾓﾙﾀﾙ面 E-3
塗膜浮き	q1	打放し面 A-1	ﾓﾙﾀﾙ面 A-2
45二丁ﾀｲﾙ下地浮き0.25㎡未満　樹脂注入　一般部	U1	D-9	
45二丁ﾀｲﾙ欠損	AA1	D-9	
補修跡		処置なし(改修不要)	



【　1階平面図　】

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事		図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	施工実施外壁調査図（1階平面図）	縮尺 (A2:100%　A3:70.7%) 1/150	A-1169

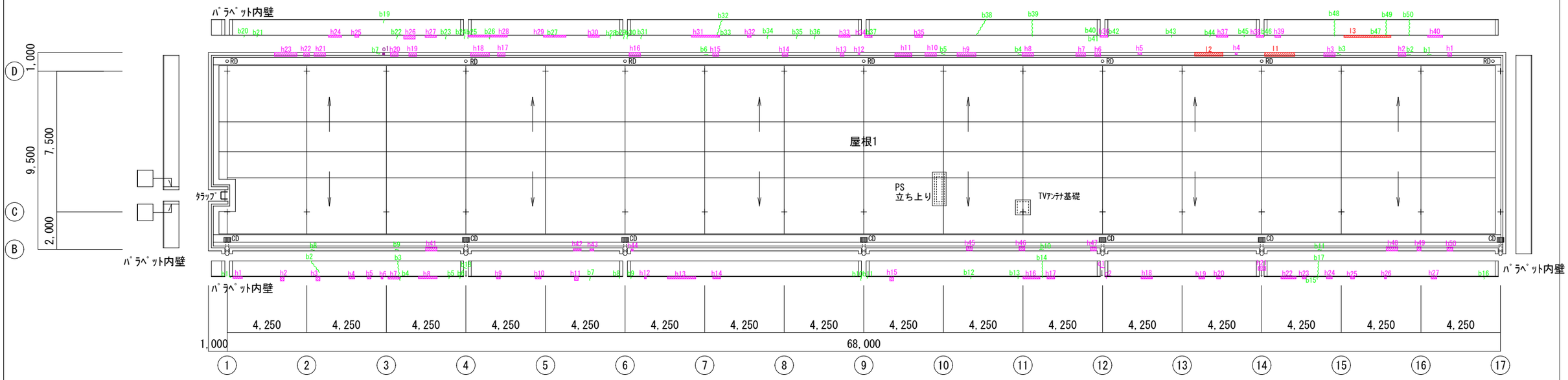
劣化症状	凡　例	改修工法記号	
ひび割れ　幅0.2mm未満	a1	打放し面 改修なし	ﾓﾙﾀﾙ面 改修なし
ひび割れ　幅0.2-0.5mm未満	b1	打放し面 B-1	ﾓﾙﾀﾙ面 B-4
ひび割れ　幅0.5-1.0mm以下	c1	打放し面 B-1	ﾓﾙﾀﾙ面 B-4
ひび割れ　幅1.0mmを超える	d1	打放し面 B-2	ﾓﾙﾀﾙ面 B-6
錆鉄筋	e1	打放し面 C-1	ﾓﾙﾀﾙ面 C-2
錆鉄筋箇所	f1	打放し面 C-1	ﾓﾙﾀﾙ面 C-2
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　はつり	g1	D-1	
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　樹脂注入　一般部	h1	D-2	
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　樹脂注入　指定部	i1	D-2	
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　樹脂注入　狭幅部	j1	D-2	
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡以上　はつり	k1	D-1	
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡以上　樹脂注入　一般部	l1	D-3	
欠損	o1	打放し面 E-1	ﾓﾙﾀﾙ面 E-3
塗膜浮き	q1	打放し面 A-1	ﾓﾙﾀﾙ面 A-2
45二丁ﾀｲﾙ下地浮き0.25㎡未満　樹脂注入　一般部	U1	D-9	
45二丁ﾀｲﾙ欠損	AA1	D-9	
補修跡		処置なし(改修不要)	



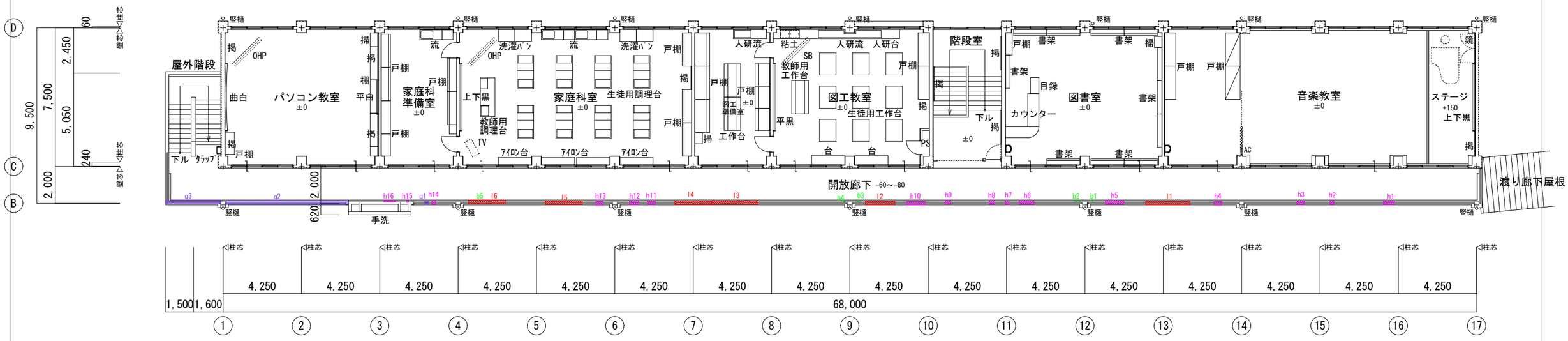
【　2階平面図　】

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事		図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	施工実施外壁調査図（2階平面図）	縮尺 (A2:100%　A3:70.7%) 1/150	A-1170

劣化症状	凡　例	改修工法記号		劣化症状	凡　例	改修工法記号	
ひび割れ　幅0.2mm未満	a1	打放し面 改修なし	モルタル面 改修なし	モルタル浮き0.25㎡未満　樹脂注入　一般部	h1	D-2	
ひび割れ　幅0.2-0.5mm未満	b1	打放し面 B-1	モルタル面 B-4	モルタル浮き0.25㎡未満　樹脂注入　指定部	i1	D-2	
ひび割れ　幅0.5-1.0mm以下	c1	打放し面 B-1	モルタル面 B-4	モルタル浮き0.25㎡未満　樹脂注入　狭幅部	j1	D-2	
ひび割れ　幅1.0mmを超える	d1	打放し面 B-2	モルタル面 B-6	モルタル浮き0.25㎡以上　はつり	k1	D-1	
錆鉄筋	e1	打放し面 C-1	モルタル面 C-2	モルタル浮き0.25㎡以上　樹脂注入　一般部	l1	D-3	
錆鉄筋箇所	f1	打放し面 C-1	モルタル面 C-2	欠損	o1	打放し面 E-1	モルタル面 E-3
モルタル浮き0.25㎡未満　はつり	g1	D-1		塗膜浮き	q1	打放し面 A-1	モルタル面 A-2
				45二丁タイル下地浮き0.25㎡未満　樹脂注入　一般部	U1	D-9	
				45二丁タイル欠損	AA1	D-9	
				補修跡		処置なし（改修不要）	



【　屋根伏図　】



【　3階平面図　】

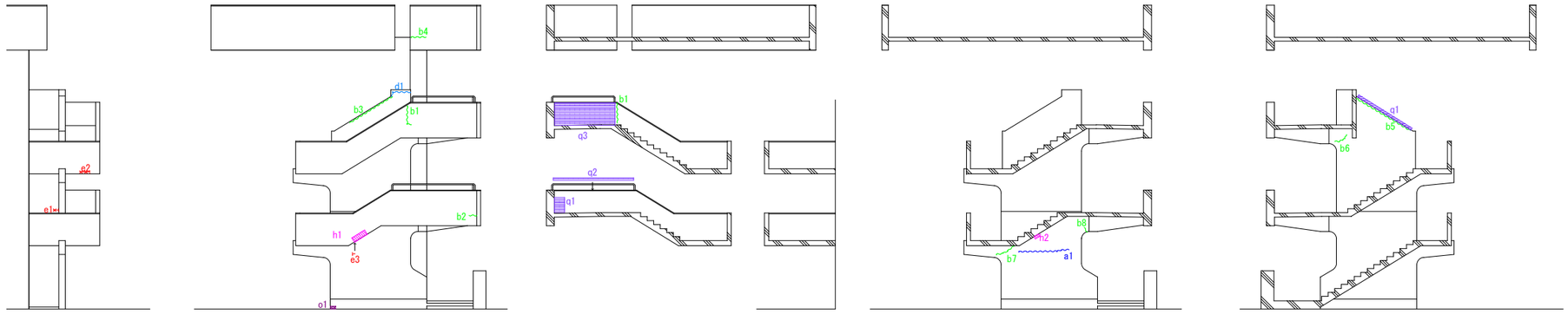
訂正	月．日	

協同組合建築設計団ＳＯＵ間
1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号
広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号

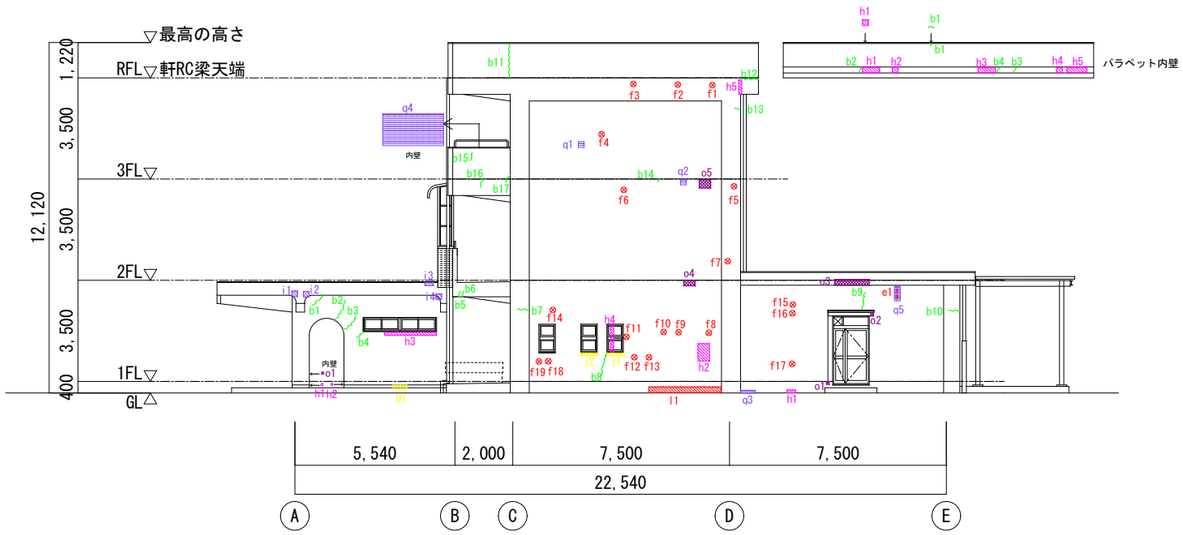
1級建築士 前岡 正伸
第234595号

設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
	製　図	担　当	承認年月日	図面名称	施工実施外壁調査図（3階平面図・屋根伏図）	縮尺 (A2:100%　A3:70.7%) 1/150	A-1171

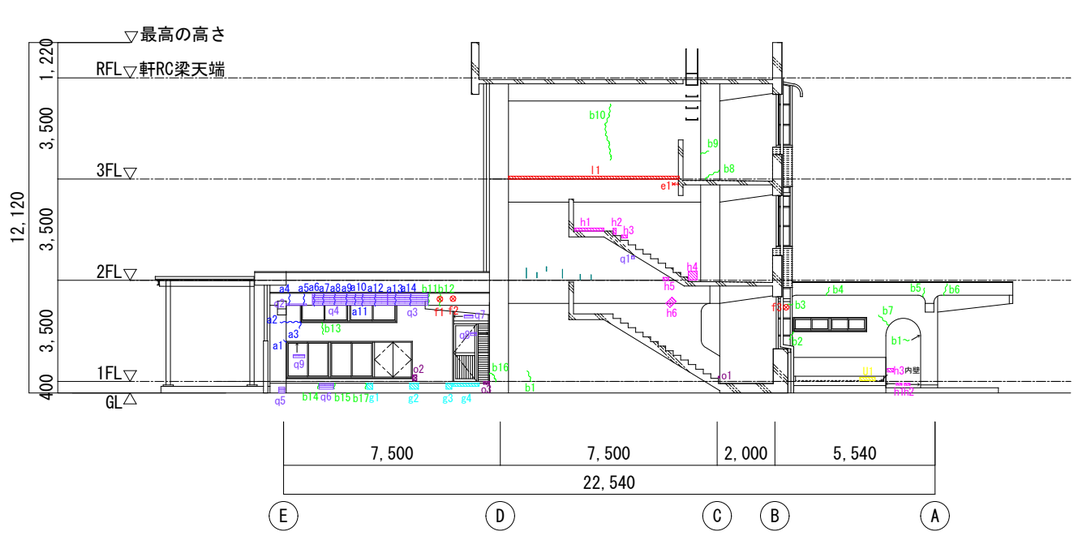
劣化症状	凡　例	改修工法記号	
ひび割れ　幅0.2mm未満	a1	打放し面 改修なし	ﾓﾙﾀﾙ面 改修なし
ひび割れ　幅0.2-0.5mm未満	b1	打放し面 B-1	ﾓﾙﾀﾙ面 B-4
ひび割れ　幅0.5-1.0mm以下	c1	打放し面 B-1	ﾓﾙﾀﾙ面 B-4
ひび割れ　幅1.0mmを超える	d1	打放し面 B-2	ﾓﾙﾀﾙ面 B-6
錆鉄筋	e1	打放し面 C-1	ﾓﾙﾀﾙ面 C-2
錆鉄筋箇所	f1	打放し面 C-1	ﾓﾙﾀﾙ面 C-2
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　はつり	g1	D-1	
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　樹脂注入　一般部	h1	D-2	
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　樹脂注入　指定部	i1	D-2	
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　樹脂注入　狭幅部	j1	D-2	
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡以上　はつり	k1	D-1	
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡以上　樹脂注入　一般部	l1	D-3	
欠損	o1	打放し面 E-1	ﾓﾙﾀﾙ面 E-3
塗膜浮き	q1	打放し面 A-1	ﾓﾙﾀﾙ面 A-2
45二丁ﾀｲﾙ下地浮き0.25㎡未満　樹脂注入　一般部	U1	D-9	
45二丁ﾀｲﾙ欠損	AA1	D-9	
補修跡		処置なし(改修不要)	



【　西側階段展開図　】



【　東立面図　】



【　西立面図　】

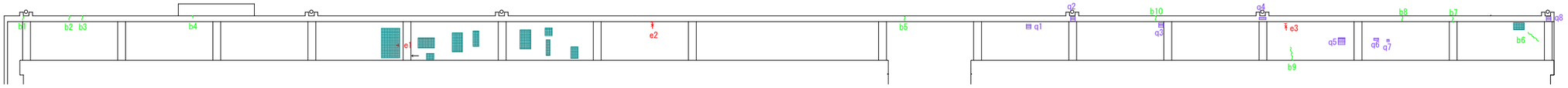
訂正	月. 日	

協同組合建築設計団ＳＯＵ間
1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号
広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号

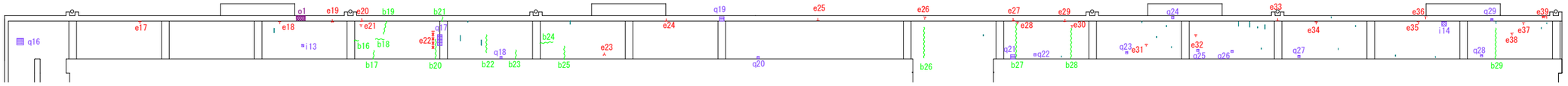
1級建築士 前岡 正伸
第234595号

設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
	製　図	担　当	承認年月日	図面名称	施工実施外壁調査図（東立面図・西立面図） 縮尺 (A2:100%　A3:70.7%) 1/150	A-1172

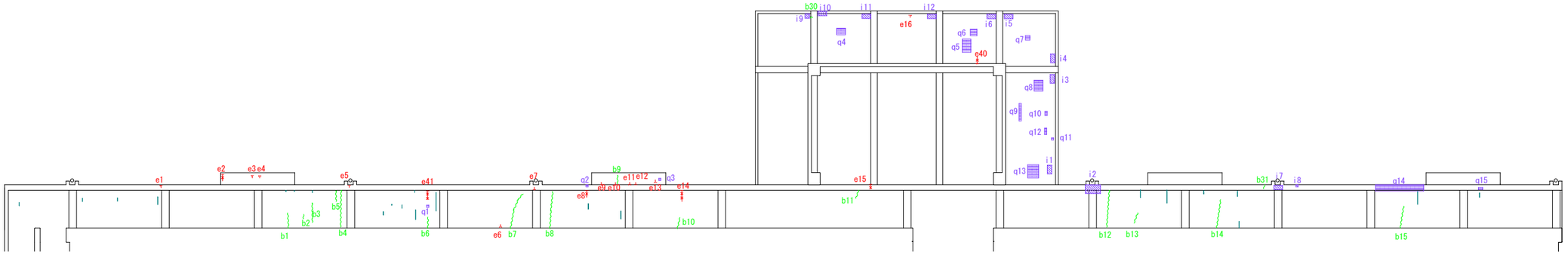
大庇上裏

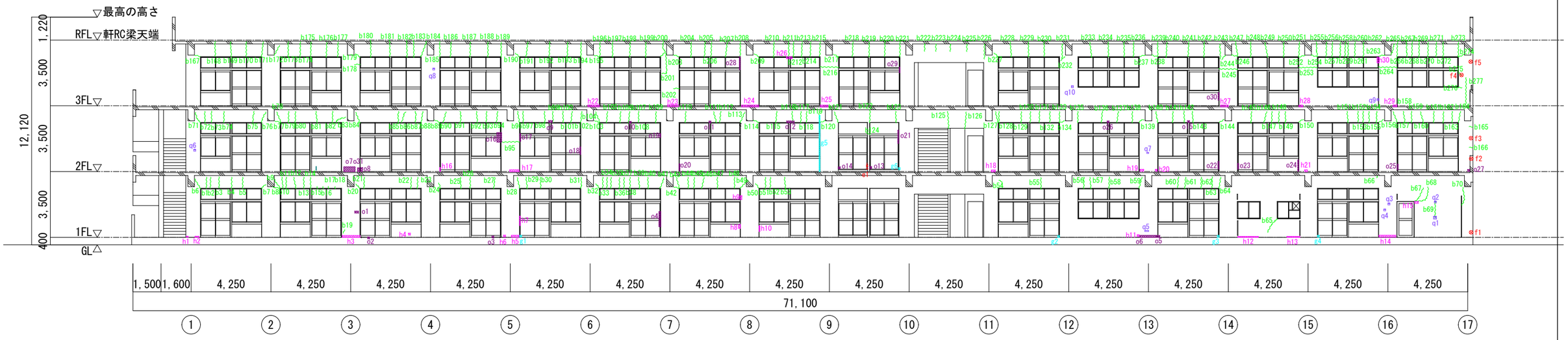


2階庇上裏



1階庇上裏

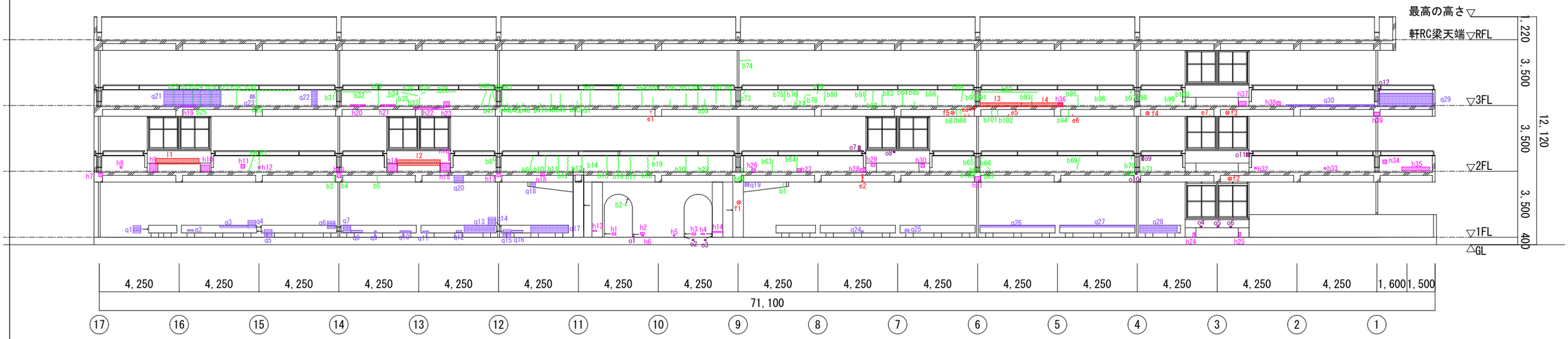




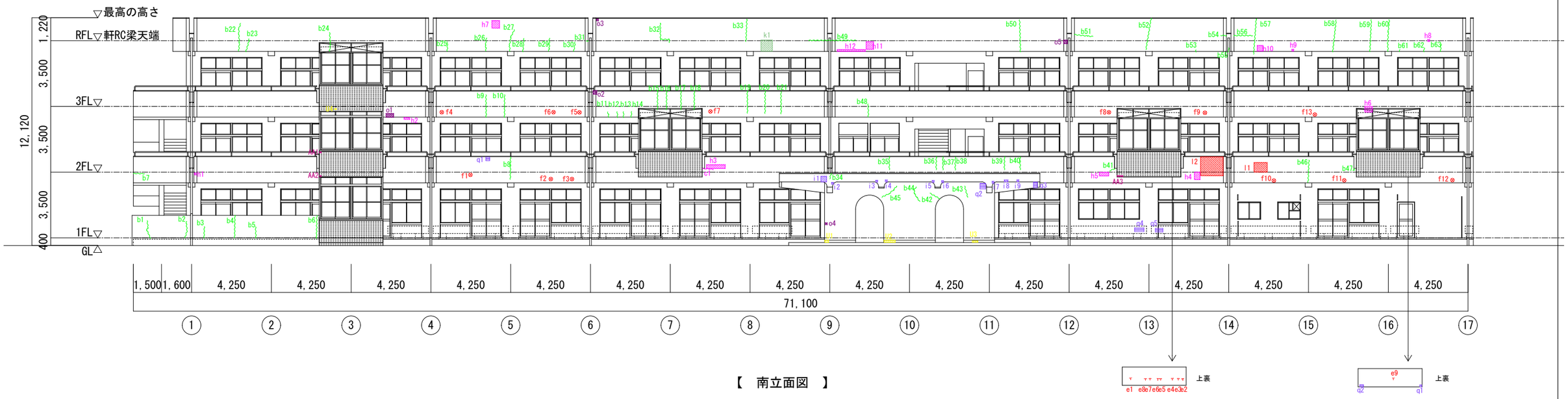
【　南展開図　】

劣化症状	凡　例	改修工法記号		劣化症状	凡　例	改修工法記号	
ひび割れ　幅0.2mm未満	a1	打放し面 改修なし	モルタル面 改修なし	ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　樹脂注入　一般部	h1	D-2	
ひび割れ　幅0.2-0.5mm未満	b1	打放し面 B-1	モルタル面 B-4	ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　樹脂注入　指定部	i1	D-2	
ひび割れ　幅0.5-1.0mm以下	c1	打放し面 B-1	モルタル面 B-4	ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　樹脂注入　狭幅部	j1	D-2	
ひび割れ　幅1.0mmを超える	d1	打放し面 B-2	モルタル面 B-6	ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡以上　はつり	k1	D-1	
錆鉄筋	e1	打放し面 C-1	モルタル面 C-2	ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡以上　樹脂注入　一般部	l1	D-3	
錆鉄筋箇所	f1	打放し面 C-1	モルタル面 C-2	欠損	o1	打放し面 E-1	モルタル面 E-3
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　はつり	g1	D-1		塗膜浮き	q1	打放し面 A-1	モルタル面 A-2
				45二丁ﾀｲﾙ下地浮き0.25㎡未満　樹脂注入　一般部	U1	D-9	
				45二丁ﾀｲﾙ欠損	AA1	D-9	
				補修跡		処置なし(改修不要)	

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長東五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	施工実施外壁調査図（南側展開図）　縮尺 (A2:100%　A3:70.7%) 1/150	A-1173



【　開放廊下　手摺展開図　】

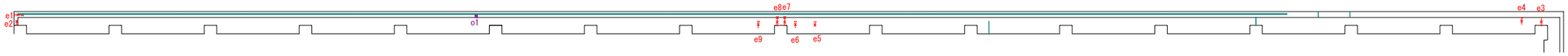


【　南立面図　】

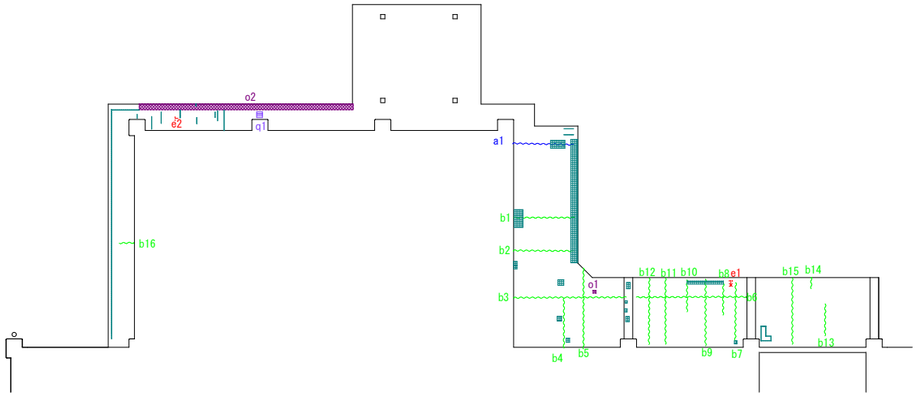
劣化症状	凡　例	改修工法記号		劣化症状	凡　例	改修工法記号	
ひび割れ　幅0.2mm未満	a1	打放し面 改修なし	モルタル面 改修なし	モルタル浮き0.25㎡未満　樹脂注入　一般部	h1	D-2	
ひび割れ　幅0.2-0.5mm未満	b1	打放し面 B-1	モルタル面 B-4	モルタル浮き0.25㎡未満　樹脂注入　指定部	i1	D-2	
ひび割れ　幅0.5-1.0mm以下	c1	打放し面 B-1	モルタル面 B-4	モルタル浮き0.25㎡未満　樹脂注入　狭幅部	j1	D-2	
ひび割れ　幅1.0mmを超える	d1	打放し面 B-2	モルタル面 B-6	モルタル浮き0.25㎡以上　はつり	k1	D-1	
錆鉄筋	e1	打放し面 C-1	モルタル面 C-2	モルタル浮き0.25㎡以上　樹脂注入　一般部	l1	D-3	
錆鉄筋箇所	f1	打放し面 C-1	モルタル面 C-2	欠損	o1	打放し面 E-1	モルタル面 E-3
モルタル浮き0.25㎡未満　はつり	g1	D-1		塗膜浮き	q1	打放し面 A-1	モルタル面 A-2
				45二丁タイル下地浮き0.25㎡未満　樹脂注入　一般部	U1	D-9	
				45二丁タイル欠損	AA1	D-9	
				補修跡		処置なし(改修不要)	

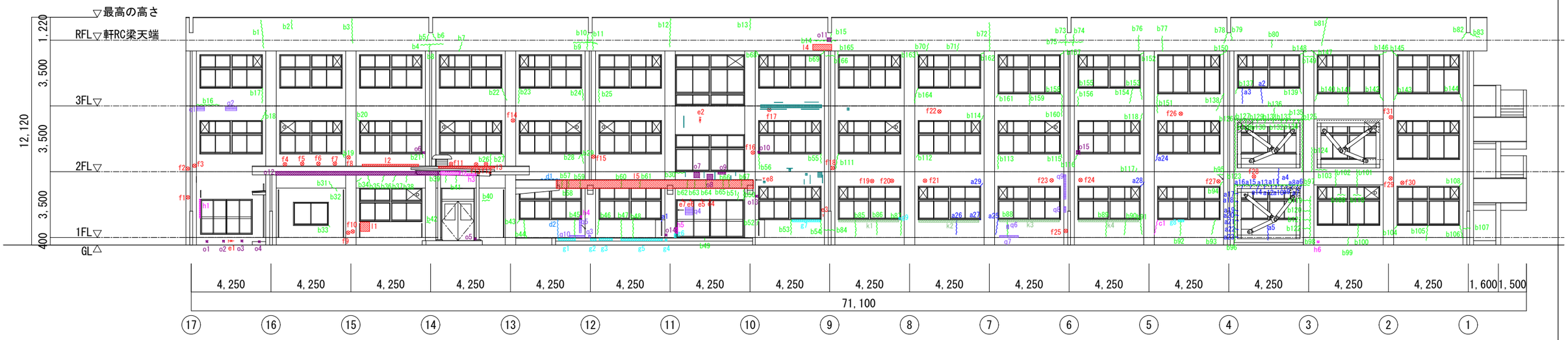
訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長東五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	施工実施外壁調査図（南側立面図・手摺展開図）　縮尺 (A2:100%　A3:70.7%) 1/150	A-1174

大庇上裏



玄関庇上裏





【　北立面図　】

劣化症状	凡　例	改修工法記号		劣化症状	凡　例	改修工法記号	
ひび割れ　幅0.2mm未満	a1	打放し面 改修なし	ﾓﾙﾀﾙ面 改修なし	ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　樹脂注入　一般部	h1	D-2	
ひび割れ　幅0.2-0.5mm未満	b1	打放し面 B-1	ﾓﾙﾀﾙ面 B-4	ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　樹脂注入　指定部	i1	D-2	
ひび割れ　幅0.5-1.0mm以下	c1	打放し面 B-1	ﾓﾙﾀﾙ面 B-4	ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　樹脂注入　狭幅部	j1	D-2	
ひび割れ　幅1.0mmを超える	d1	打放し面 B-2	ﾓﾙﾀﾙ面 B-6	ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡以上　はつり	k1	D-1	
錆鉄筋	e1	打放し面 C-1	ﾓﾙﾀﾙ面 C-2	ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡以上　樹脂注入　一般部	l1	D-3	
錆鉄筋箇所	f1	打放し面 C-1	ﾓﾙﾀﾙ面 C-2	欠損	o1	打放し面 E-1	ﾓﾙﾀﾙ面 E-3
ﾓﾙﾀﾙ浮き0.25㎡未満　はつり	g1	D-1		塗膜浮き	q1	打放し面 A-1	ﾓﾙﾀﾙ面 A-2
				45二丁ﾀｲﾙ下地浮き0.25㎡未満　樹脂注入　一般部	U1	D-9	
				45二丁ﾀｲﾙ欠損	AA1	D-9	
				補修跡		処置なし(改修不要)	

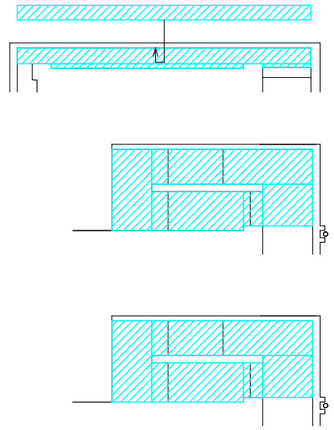
訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	施工実施外壁調査図（北立面図）　縮尺 (A2:100% A3:70.7%) 1/150	A-1175

図面	部位名称	打放し面											モルタル面										
		ひび割れ（幅0.2mm未満）	ひび割れ（幅0.2mm以上～0.5mm未満）	ひび割れ（幅0.5mm以上～1.0mm以下）	ひび割れ（幅1.0mmを超える）	錆鉄筋		錆鉄筋（箇所）		欠損		塗膜の浮き	ひび割れ（幅0.2mm未満）	ひび割れ（幅0.2mm以上～0.5mm未満）	ひび割れ（幅0.5mm以上～1.0mm以下）	ひび割れ（幅1.0mmを超える）	錆鉄筋		錆鉄筋（箇所）		モルタル浮き（斫り）0.25㎡未満		
						錆鉄筋	整形			欠損	整形						錆鉄筋	整形			浮き	カッター	整形
		m	m	m	m	m	m	ヶ所	m	m２	m	m２	m	m	m	m	m	m	ヶ所	m	m２	m	m
	改修記号		B-1		B-2	C-1		C-1		E-1		A-1		B-4		B-6	C-2		C-2		D-1		
	改修工法	改修なし	打放し面樹脂注入工法		打放し面Uｶｯﾄｼｰﾙ材充てん工法	打放し面錆鉄筋部処理		打放し面錆鉄筋部処理		打放し面充填工法		打放し面表面劣化部処理（ｻﾝﾀﾞｰ工法）	改修なし	ﾓﾙﾀﾙ面樹脂注入工法		ﾓﾙﾀﾙ面Uｶｯﾄｼｰﾙ材充てん工法	ﾓﾙﾀﾙ面錆鉄筋部処理		ﾓﾙﾀﾙ面錆鉄筋部処理		ﾓﾙﾀﾙ面はつり		
	部位名称																						
東立面図	外壁	0.00	7.80	0.00	0.00	0.50	0.00	19.00		0.46	0.00	2.54	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
東立面図	内壁	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
東立面図	庇鼻先	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
東立面図	パラペット天端	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
東立面図	パラペット内壁	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.70	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
東立面図	窓面台	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
西立面図	根廻り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.23	4.60	0.00
西立面図	外壁	5.40	6.50	0.00	0.00	0.20	0.00	3.00		1.88	0.05	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
西立面図	内壁	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
西立面図	庇鼻先	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
西立面図	手摺外壁	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	2.00	7.90	0.00	0.90	0.70	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
西立面図	手摺内壁	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.80	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
西立面図	上裏	0.00	0.00	0.00	0.00	4.05	0.00	0.00		0.14	0.00	0.12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
南側展開図	内壁	0.00	172.00	0.00	0.00	0.30	0.00	5.00		0.93	0.00	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.20	8.10	0.00
南側展開図	大庇上裏	0.00	2.70	0.00	0.00	0.70	0.00	0.00		0.00	0.00	0.31	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
南側展開図	庇上裏	0.00	24.90	0.00	0.00	6.30	0.00	0.00		0.08	0.00	2.21	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
南側立面図・手摺展開図	外壁	0.00	3.10	0.00	0.00	0.00	0.00	13.00		0.18	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
南側立面図・手摺展開図	内壁	0.00	0.40	0.00	0.00	1.00	0.00	5.00		0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
南側立面図・手摺展開図	手摺外壁	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	51.90	0.60	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
南側立面図・手摺展開図	手摺内壁	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	61.80	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
南側立面図・手摺展開図	庇鼻先	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
南側立面図・手摺展開図	上裏	0.00	0.00	0.00	0.00	0.90	0.00	0.00		0.00	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
北立面図	根廻り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.42	9.40	0.00
北立面図	外壁	9.60	92.45	0.80	2.00	1.20	0.00	31.00		2.13	0.00	0.80	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.21	5.00	0.00
北立面図	手摺外壁	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	14.70	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
北立面図	大庇上裏	0.00	0.00	0.00	0.00	2.80	0.00	0.00		0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
北立面図	庇上裏	2.10	31.80	0.00	0.00	0.30	0.00	0.00		1.49	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
1階平面図	天端	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
2階平面図	天端	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.20	2.90	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
屋根伏図	天端	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	1.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
3階平面図・屋根伏図	天端	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
3階平面図・屋根伏図	パラペット天端	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	2.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
3階平面図・屋根伏図	パラペット内壁	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	14.70	0.30	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00
調査数量合計		**17.10**	**341.85**	**0.80**	**2.00**	**18.25**	**0.00**	**76.00**		**5.66**	**0.00**	**8.03**	**2.20**	**160.20**	**0.90**	**0.90**	**0.70**	**0.00**	**0.00**		**1.06**	**27.10**	**0.00**

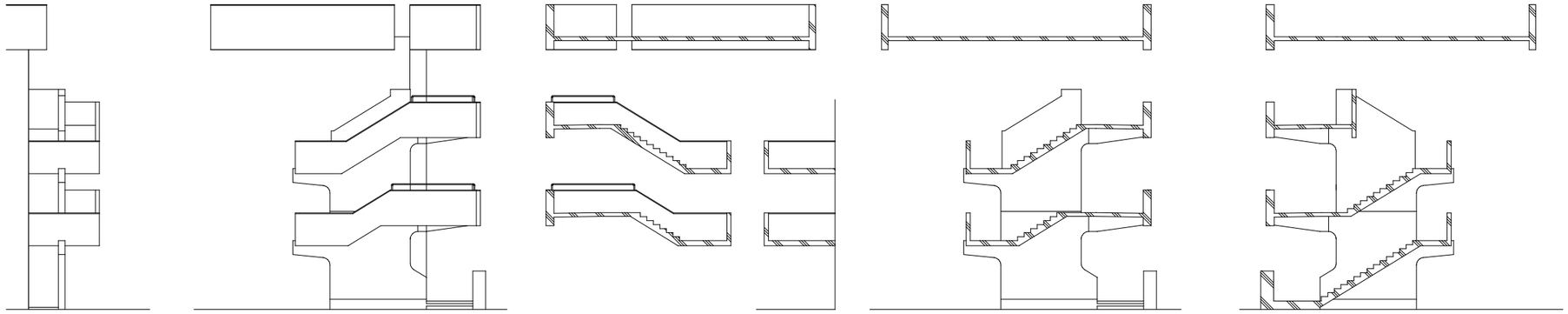
訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	施工実施外壁調査図（集計リスト1）　縮尺 (A2:100% A3:70.7%) —	A-1176

図面	部位名称	モルタル面													タイル面					
		モルタル浮き（斫り）			モルタル浮き(0.25㎡未満)			モルタル浮き(0.25㎡以上)			欠損			塗膜の浮き	タイルひび割れ		タイル下地浮き(45二丁タイル)		タイル欠損	
		0.25㎡以上															(0.25㎡	(0.25㎡	(45二丁タイル)	
		浮き	カッター	整形	(一般部)	(指定部)	(狭幅部)	(一般部)	(指定部)	(狭幅部)	欠損	カッター	整形				未満)	以上)		
		m２	m	m	m２	m２	m	m２	m２	m	m２	m	m	m２	m	枚	m２	m２	m２	枚
	改修記号	D-1			D-2			D-3			E-3			A-2			D-9		D-9	
	改修工法	ﾓﾙﾀﾙ面はつり			ﾓﾙﾀﾙ面ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法			ﾓﾙﾀﾙ面ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法			ﾓﾙﾀﾙ面欠損部処理			ﾓﾙﾀﾙ面 表面劣化部 処理 (ｻﾝﾀﾞｰ工法)			ﾀｲﾙ面撤去		ﾀｲﾙ面撤去	
	部位名称																			
東立面図	外壁	0.00	0.00	0.00	0.59	0.00	0.00	0.50			0.00	0.00	0.00	0.00			0.06		0.00	0.00
東立面図	内壁	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
東立面図	庇鼻先	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
東立面図	パラペット天端	0.00	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
東立面図	パラペット内壁	0.00	0.00	0.00	0.46	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
東立面図	窓面台	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.12	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
西立面図	根廻り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
西立面図	外壁	0.00	0.00	0.00	0.31	0.00	0.00	0.59			0.00	0.00	0.00	0.00			0.06		0.00	0.00
西立面図	内壁	0.00	0.00	0.00	0.05	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
西立面図	庇鼻先	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
西立面図	手摺外壁	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.25			0.00		0.00	0.00
西立面図	手摺内壁	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	2.72			0.00		0.00	0.00
西立面図	上裏	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
南側展開図	内壁	0.00	0.00	0.00	0.98	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
南側展開図	大庇上裏	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
南側展開図	庇上裏	0.00	0.00	0.00	0.00	1.10	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
南側立面図・手摺展開図	外壁	0.00	0.00	0.00	1.21	0.00	0.00	1.55			0.00	0.00	0.00	0.00			0.12		0.03	5.00
南側立面図・手摺展開図	内壁	0.00	0.00	0.00	2.49	0.00	0.00	2.26			0.00	0.00	0.00	1.05			0.00		0.00	0.00
南側立面図・手摺展開図	手摺外壁	0.36	2.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.37			0.00		0.00	0.00
南側立面図・手摺展開図	手摺内壁	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
南側立面図・手摺展開図	庇鼻先	0.00	0.00	0.00	0.00	0.18	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
南側立面図・手摺展開図	上裏	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
北立面図	根廻り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
北立面図	外壁	1.28	26.40	0.00	0.35	0.00	0.00	5.88			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
北立面図	手摺外壁	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
北立面図	大庇上裏	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
北立面図	庇上裏	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
1階平面図	天端	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.40			0.56	4.40	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
2階平面図	天端	0.00	0.00	0.00	0.37	0.00	0.00	0.60			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
屋根伏図	天端	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
3階平面図・屋根伏図	天端	0.00	0.00	0.00	1.40	0.00	0.00	2.50			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
3階平面図・屋根伏図	パラペット天端	0.00	0.00	0.00	4.01	0.00	0.00	0.87			0.01	0.40	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
3階平面図・屋根伏図	パラペット内壁	0.00	0.00	0.00	1.19	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00	0.00	0.00			0.00		0.00	0.00
調査数量合計		**1.64**	**28.80**	**0.00**	**13.59**	**1.43**	**0.12**	**16.15**			**0.57**	**4.80**	**0.00**	**4.39**			**0.24**		**0.03**	**5.00**

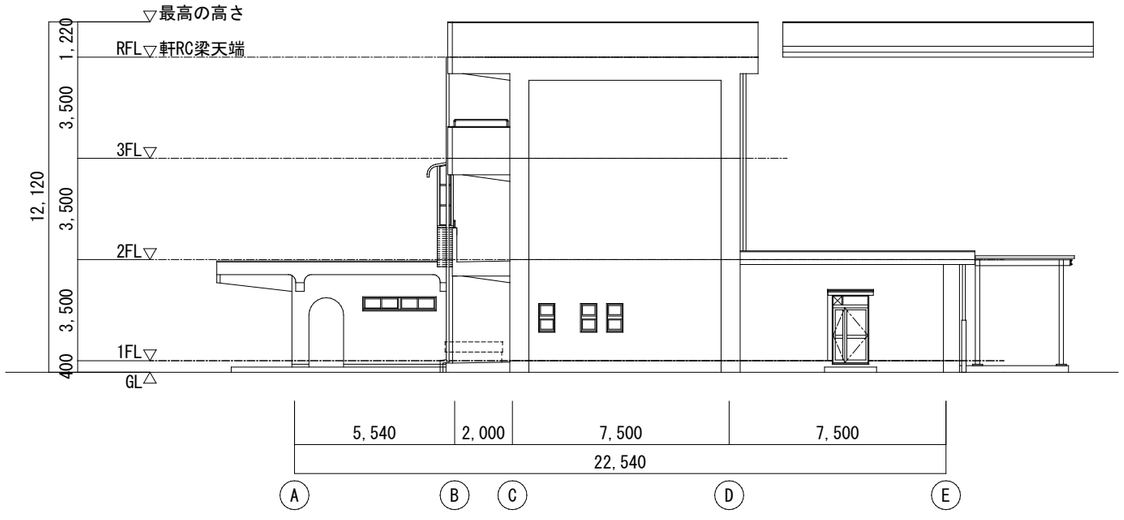
訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	施工実施外壁調査図（集計リスト2）　縮尺 (A2:100% A3:70.7%) —	A-1177



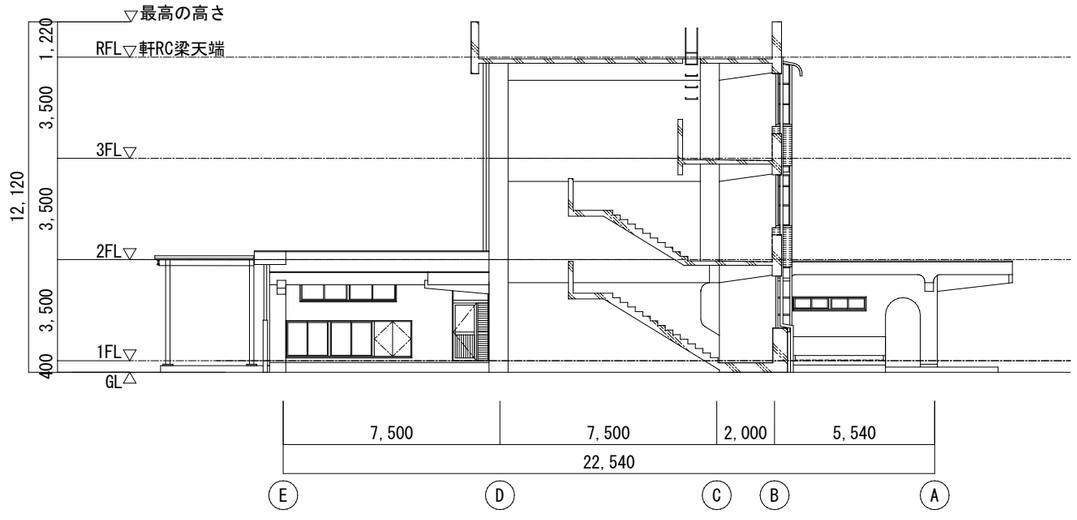
	外壁複合改修工法範囲(西面)	48.24 ㎡
	外壁複合改修工法範囲(南面)	58.39 ㎡
	外壁複合改修工法範囲(北面)	161.83 ㎡
	合　計	268.46 ㎡



【　西側階段展開図　】



【　東立面図　】



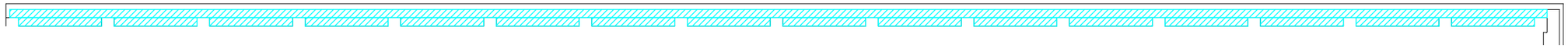
【　西立面図　】

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事		図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	上裏面外壁複合改修工法範囲図（東立面図・西立面図）	縮尺 (A2:100% A3:70.7%) 1/150	A-1178

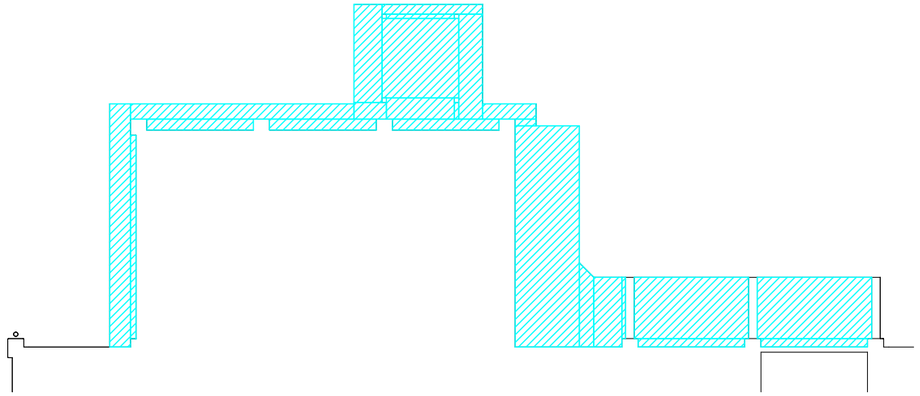
【 南展開図 】

訂正	月. 日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	上裏面外壁複合改修工法範囲図（南立面図） 縮尺 (A2:100% A3:70.7%) 1/150	A-1179

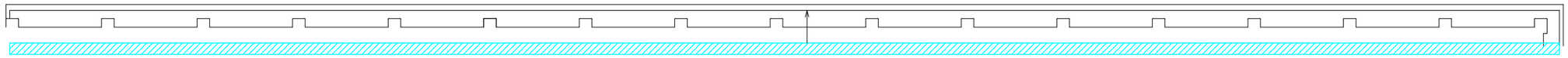
大庇上裏



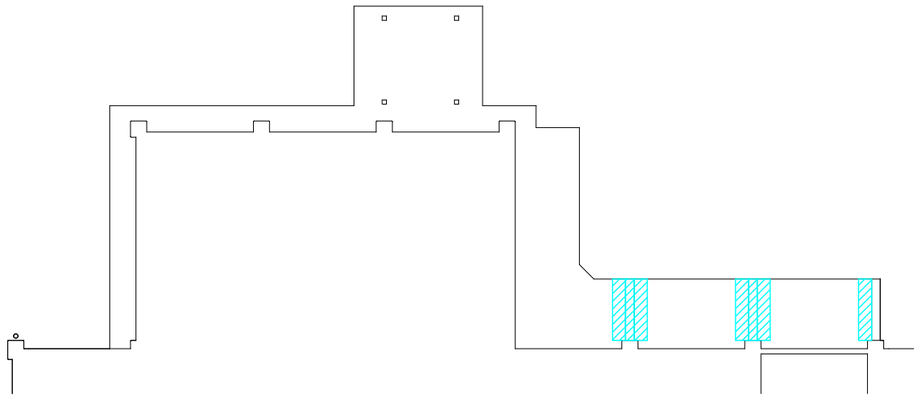
玄関庇上裏

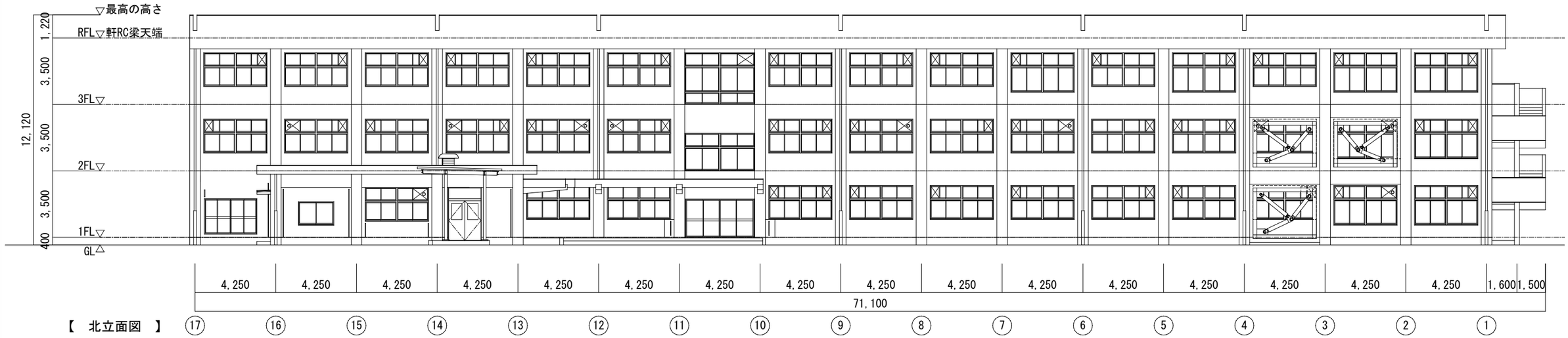


大庇上裏



玄関庇上裏

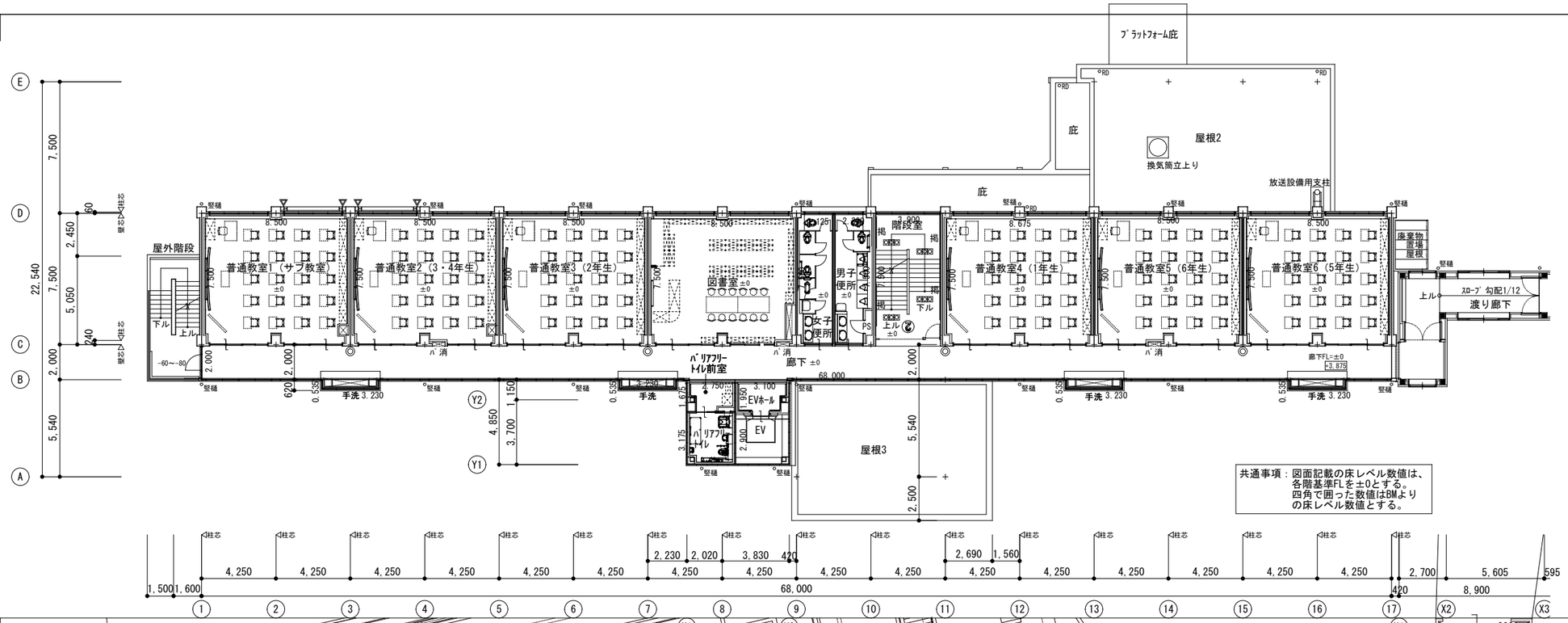




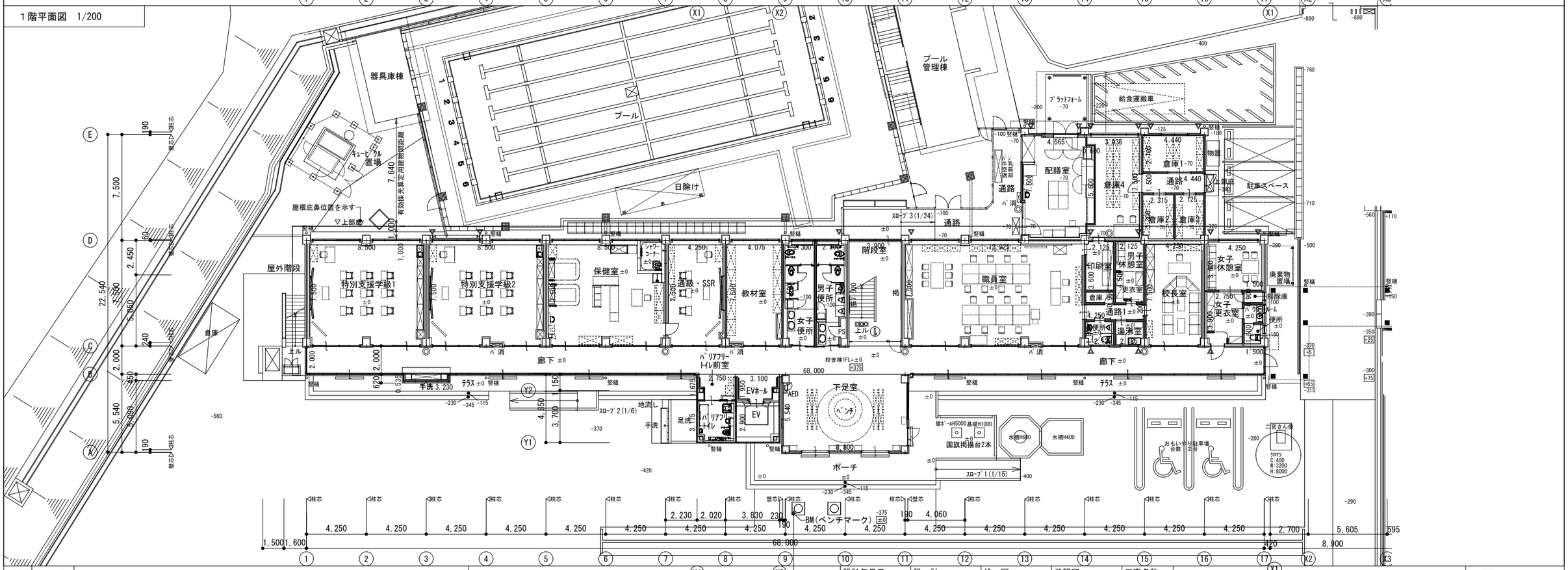
【 北立面図 】

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	上裏面外壁複合改修工法範囲図（北立面図）　縮尺 (A2:100%　A3:70.7%) 1/150	A-1180

2階平面図　1/200



1階平面図　1/200



訂正	月．日	

協同組合建築設計団ＳＯＵ間
1級建築士事務所　広島県知事登録19(1)第5062号
広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号

1級建築士 前岡 正伸
第234595号

設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称
	製　図	担　当	承認年月日	図面名称

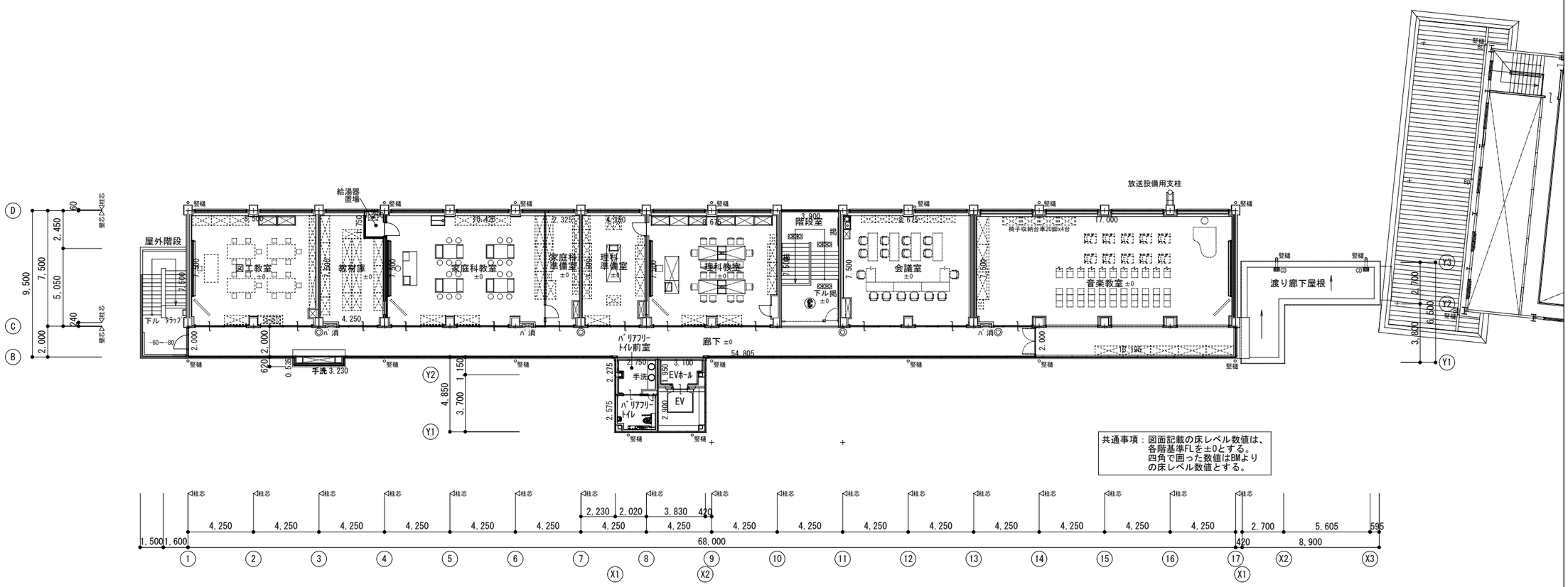
令和6年度 小学校施設整備事業
板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事

1階・2階平面図（改修後）法規チェック

縮尺 (A2:100%　A3:70.7%)
1/200

図面番号
A-1181

３階平面図　1/200



訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録19(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長東五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和6年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事		図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	３階平面図（改修後）法規チェック	縮尺 (A2:100%　A3:70.7%) 1/200	A-1182

階数	室名	室種別	内装 制限	床面積 計算式	小計	合計	必要面積 採光 割合	採光 値	換気 割合	換気 値	排煙上有効な窓 割合	排煙上有効な窓 値	設計面積 有効採光面積 窓面積W 符号	ケ所	計算式	小計	採光補正係数（A） 計算式	計算値	A	W×A	合計	判定	有効換気面積 窓面積W 符号	ケ所	計算式	小計	合計	判定	排煙上有効な窓 窓面積W 符号	ケ所	計算式	小計	合計	判定
1	特別支援学級1	居室	壁天井準不燃	8.5 × 7.5 =		63.75	1/5	12.75	1/20	3.187	1/50	1.275	AW-1A	2	3.2 × 1.5 =	9.6	7.64 ÷ 8.245 × 10 − 1	8.266	3.000	28.8	28.8	OK	機械換気					OK	壁・天井準不燃					OK
	特別支援学級2	居室	壁天井準不燃	8.5 × 7.5 =		63.75	1/5	12.75	1/20	3.187	1/50	1.275	AW-2A	2	3.2 × 1.2 =	7.68	特別支援学級1の計算より明らかに3以上		3.000	23.04	23.04	OK	機械換気					OK	壁・天井準不燃					OK
	保健室	居室	壁天井準不燃	8.5 × 7.5 =		63.75	1/5	12.75	1/20	3.187	1/50	1.275	同上									OK	機械換気					OK	壁・天井準不燃					OK
	通級・SSR	居室		4.25 × 7.5 =		31.875	1/5	6.375	1/20	1.593			AW-2A	1	3.2 × 1.2 =	3.84	特別支援学級1の計算より明らかに3以上		3.000	11.52	11.52	OK	機械換気					OK						
	教材室	室		4.25 × 7.5 =		31.875	—	—	—	—			—										—											
	女子便所	室		2.3 × 7.5 =		17.25	—	—	—	—			—										—											
	男子便所	室		2.3 × 7.5 =		17.25	—	—	—	—			—										—											
	職員室	居室	壁天井不燃	7.5 × 12.925 =		96.937					1/50	1.938	非常用照明									OK	機械換気					OK	壁・天井準不燃（左表より不燃）					OK
	印刷室	室		2.125 × 3.6 =		7.65	—	—	—	—			—										—											
	倉庫	室		2.125 × 0.9 =		1.912	—	—	—	—			—										—											
	男子更衣・休憩室	居室	壁天井不燃	2.125 × 4.5 =		9.562	1/20	0.478	1/20	0.478			非常用照明									OK	機械換気					OK						
	通路1	室		4.25 × 1.2 =		5.1	—	—	—	—			—										—											
	男子便所	室		2.125 × 1.8 =		3.825	—	—	—	—			—										—											
	湯沸室	室		2.125 × 1.8 =		3.825	—	—	—	—			—										—											
	校長室	居室	壁天井不燃	4.25 × 7.5 =		31.875	1/20	1.593	1/20	1.593			非常用照明									OK	機械換気					OK						
	女子休憩衣室	居室		4.25 × 3.6 =		15.3	1/20	0.765	1/20	0.765			AD-3	1	2.63 × 1.815 =	4.773	特別支援学級1の計算より明らかに3以上		3.000	14.319	14.319	OK	機械換気					OK						
	女子更衣室	室		2.75 × 3.9 =		10.725	—	—	—	—			—										—											
	掃除庫	室		1.5 × 0.9 =		1.35	—	—	—	—			—										—											
	ﾊﾞｳﾀﾞｰﾙｰﾑ	室		1.5 × 1.4 =		2.1	—	—	—	—			—										—											
	便所	室		1.5 × 1.6 =		2.4	—	—	—	—			—										—											
	配膳室	居室	壁天井不燃	4.565 × 7.5 = 0.6 × 5.6 =	34.237 3.36	37.597	1/20	1.879	1/20	1.879			非常用照明									OK	機械換気					OK						
	倉庫4	室		3.935 × 7.5 = -0.6 × 5.6 =	29.512 -3.36	26.152	—	—	—	—			—										—											
	通路2	室		4.44 × 1.5 =		6.66	—	—	—	—			—										—											
	倉庫1	室		4.44 × 2.7 =		11.988	—	—	—	—			—										—											
	倉庫2	室		2.315 × 3.3 =		7.639	—	—	—	—			—										—											
	倉庫3	室		2.125 × 3.3 =		7.012	—	—	—	—			—										—											
	下足室	室		8.8 × 5.54 =		48.752	—	—	—	—			—										—											
	ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰﾄｲﾚ	室		2.75 × 3.175 =		8.731	—	—	—	—			—										—											
	廊下 EVﾎｰﾙ ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰﾄｲﾚ前室	室		2 × 68 = 3.23 × 0.535 = 3.1 × 1.95 = 2.75 × 1.675 =	136 1.728 6.045 4.606	148.38	—	—	—	—			—										—											
2	普通教室1（ｻﾌﾞ教室）	居室	壁天井準不燃	8.5 × 7.5 =		63.75	1/5	12.75	1/20	3.187	1/50	1.275	AW-1B	2	3.2 × 1.5 =	9.6	特別支援学級1の計算より明らかに3以上		3.000	28.8	28.8	OK	機械換気					OK	壁・天井準不燃					OK
	普通教室2（3・4年生）	居室	壁天井準不燃	8.5 × 7.5 =		63.75	1/5	12.75	1/20	3.187	1/50	1.275	AW-2A・C	2	3.2 × 1.2 =	7.68	特別支援学級1の計算より明らかに3以上		3.000	23.04	23.04	OK	機械換気					OK	壁・天井準不燃					OK
	普通教室3（2年生）	居室	壁天井準不燃	8.5 × 7.5 =		63.75	1/5	12.75	1/20	3.187	1/50	1.275	AW-2A	同上								OK	機械換気					OK	壁・天井準不燃					OK
	図書室	居室	壁天井準不燃	8.5 × 7.5 =		63.75	1/5	12.75	1/20	3.187	1/50	1.275	同上									OK	機械換気					OK	壁・天井準不燃					OK
	女子便所	室		2.125 × 7.5 =		15.937	—	—	—	—			—										—											
	男子便所	室		2.3 × 7.5 =		17.25	—	—	—	—			—										—											
	普通教室4（1年生）	居室	壁天井準不燃	8.675 × 7.5 =		65.062	1/5	13.012	1/20	3.253	1/50	1.301	AW-2C	2	3.2 × 1.2 =	7.68	特別支援学級1の計算より明らかに3以上		3.000	23.04	23.04	OK	機械換気					OK	壁・天井準不燃					OK
	普通教室5（6年生）	居室	壁天井準不燃	8.5 × 7.5 =		63.75	1/5	12.75	1/20	3.187	1/50	1.275	AW-2A・C	同上								OK	機械換気					OK	壁・天井準不燃					OK
	普通教室6（5年生）	居室	壁天井準不燃	8.5 × 7.5 =		63.75	1/5	12.75	1/20	3.187	1/50	1.275	AW-2A	同上								OK	機械換気					OK	壁・天井準不燃					OK
	ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰﾄｲﾚ	室		2.75 × 3.175 =		8.731	—	—	—	—			—										—											
	廊下 EVﾎｰﾙ ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰﾄｲﾚ前室	室		2 × 68 = 3.23 × 0.535 = 3.23 × 0.535 = 3.23 × 0.535 = 3.23 × 0.535 = 3.1 × 1.95 = 2.75 × 1.675 =	136 1.728 1.728 1.728 1.728 6.045 4.606	153.56	—	—	—	—			—										—											
3	図工教室	居室	壁天井準不燃	8.5 × 7.5 =		63.75	1/5	12.75	1/20	3.187	1/50	1.275	AW-1B	2	3.2 × 1.5 =	9.6	特別支援学級1の計算より明らかに3以上		3.000	28.8	28.8	OK	機械換気					OK	壁・天井準不燃					OK
	教材庫	室		4.25 × 7.5 = -1.29 1.75	31.875 -2.257	29.618	—	—	—	—			—										—											
	ｶﾞｽ給湯器置場	室		1.29 × 1.75 =	.	2.257	—	—	—	—			—										—											
	家庭科教室	居室	壁天井準不燃	10.425 × 7.5 = 1.29 × 1.75 =	78.187 2.257	80.444	1/5	16.088	1/20	4.022	1/50	1.608	AW-1A AW-2A	1 1	1.6 × 1.5 = 3.2 × 1.2 =	2.4 3.84	特別支援学級1の計算より明らかに3以上 特別支援学級1の計算より明らかに3以上		3.000 3.000	7.2 11.52	18.72	OK	機械換気					OK	壁・天井準不燃					OK
	家庭科準備室	居室		2.325 × 7.5 =		17.437	1/20	0.871	1/20	0.871			AW-1A	1	1.6 × 1.5 =	2.4	特別支援学級1の計算より明らかに3以上		3.000	7.2	7.2	OK	AW-1A	1	0.8 × 1.5 =	1.2	1.2	OK						
	理科準備室	居室		4.25 × 7.5 =		31.875	1/20	1.593	1/20	1.593			AW-2A	1	3.2 × 1.2 =	3.84	特別支援学級1の計算より明らかに3以上		3.000	11.52	11.52	OK	AW-2A	1	1.6 × 1.2 =	1.92	1.92	OK						
	理科教室	居室	壁天井準不燃	8.675 × 7.5 =		65.062	1/5	13.012	1/20	3.253	1/50	1.301	AW-2A・E	2	3.2 × 1.2 =	7.68	特別支援学級1の計算より明らかに3以上		3.000	23.04	23.04	OK	機械換気					OK	壁・天井準不燃					OK
	会議室	居室	壁天井準不燃	8.675 × 7.5 =		65.062	1/20	3.253	1/20	3.253	1/50	1.301	AW-2C	2	3.2 × 1.2 =	7.68	特別支援学級1の計算より明らかに3以上		3.000	23.04	23.04	OK	機械換気					OK	壁・天井準不燃					OK
	音楽教室	居室		17 × 7.5 = 13.195 × 2 =	127.5 26.39	153.89	1/5	30.778	1/20	7.694	1/50	3.077	AW-2A・C	4	3.2 × 1.2 =	15.36	特別支援学級1の計算より明らかに3以上		3.000	46.08	46.08	OK	機械換気					OK	ADW-6	6	0.9 × 0.66 =	3.564	3.564	OK
	ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰﾄｲﾚ	室		2.75 × 2.575 =		7.081	—	—	—	—			—										—							—					
	廊下 EVﾎｰﾙ ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰﾄｲﾚ前室	室		2 × 54.805 = 3.23 × 0.535 = 3.1 × 1.95 = 2.75 × 2.275 =	109.61 1.728 6.045 6.256	123.64	—	—	—	—			—										—							—					

排煙上、有効な窓の算定は50㎡超えの居室

訂正	月．日	

協同組合建築設計団ＳＯＵ間
1級建築士事務所　広島県知事登録19(1)第5062号
広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号

1級建築士 前岡 正伸
第234595号

設計年月日	設 計	検 図	承認印	工事名称	令和6年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
	製 図	担 当	承認年月日	図面名称	法規チェック計算表（改修後） 縮尺 (A2:100% A3:70.7%) —	A-1183

階数	床面積		必要面積		窓面積					
	計算式	合計	割合	値	符号	ケ所	計算式	小計	合計	判定
1	別図 「建築基準法に依る 面積一覧表（改修前後）」 記載数値による	889.86	1/ 30	29.662	ADW-1	5	1.8 × 1.4 ＝	12.6	35.93	OK
						1	1.75 × 1.4 ＝	2.45		
						3	1.8 × 2 ＝	10.8		
					ADW-2	4	1.8 × 1.4 ＝	10.08		
							× ＝	0		
							× ＝	0		
							× ＝	0		
							× ＝	0		
2	同上	730.85	1/ 30	24.361	ADW-3	8	1.8 × 1.4 ＝	20.16	30.24	OK
					ADW-4	4	1.8 × 1.4 ＝	10.08		
							× ＝	0		
							× ＝	0		
							× ＝	0		
							× ＝	0		
							× ＝	0		
							× ＝	0		
3	同上	685.69	1/ 30	22.856	ADW-5	8	1.8 × 1.4 ＝	20.16	30.24	OK
					ADW-6	4	1.8 × 1.4 ＝	10.08		
							× ＝	0		
							× ＝	0		
							× ＝	0		
							× ＝	0		
							× ＝	0		
							× ＝	0		

（１台1回線）

電源設備　（低圧）

号機名		No．1		
電源設備容量	動力	210 V　4 kVA		
	照明	100 V　1．5 kVA		
最大電流		23．4 A		
動力線サイズ（mm²）		5．5	8	14
最大引込み距離（m）		73	112	196
建屋側MCCB		40 A		
接地線最小サイズ		3．5　mm²		
インターホン用配線		φ0．9 × 10 本		
電話用配管・配線		φ19 配管・電話線１P		
ピットコンセント容量		1 kVA／台		

No．1

遮煙のりばドア（Smokeproof）		
適用階	1～3FL	認定番号　CAS－1074（2）

【エレベーター遠隔監視メンテナンス】
※このエレベーターは、遠隔監視メンテナンス契約可能対応機種です。
※ 遠隔監視メンテナンスでは、エレベーターの遠隔診断・遠隔監視が可能です。
※ 上記サービスに必要な機器は、保守会社と の遠隔監視メンテナンス契約時に貸与されます。

下記の事項については別途見積となります

負荷状況により 作業を 請負できない可能性がありますので弊社担当へ都度ご相談ください

1	標準施工作業時間以外でご用命の場合（ 標準: 月曜日～金曜日　8:00～17:00）
2	夜間作業発生の場合
3	2階以上の階若しくは地下階への搬入作業の場合
4	荷下ろし場所から設置・仮置き場所までの距離が30mを超える場合
5	横引き通路に段差・階段・障害物がある場合
6	搬入に際し、警備員・誘導員及び道路使用許可を要する場合
7	床・壁に養生を必要とする場合
8	昇降機据付工事以外で立会いが発生する場合
9	据付工事短縮を必要とする場合
10	昇降路を養生する必要がある場合（ ガラス壁等）
11	昇降機着工前までに各階出入口開口部養生材設置作業（ 養生材のみの貸与含む）をご用命の場合
12	昇降機を工事用として使用する場合の社内検査費用・復旧（ オーバーホール・消耗部品の交換等）費用・定期保守費用・コールバック対応費用等 ただし、積載量1,000kg以上の場合、別途労働基準監督署の落成検査費用が発生します 落成検査費用につきましてはご利用者様負担となります （ 検査費用は【 労働安全衛生法関係手数料令】別表第一の四をご参照ください）
13	コンクリート基準圧縮強度が48N/mm²を超える場合
14	その他特殊な事情がある場合

かご仕様	天井照明		［ STD－11］アルミフレーム導光板LED照明
	換気装置		ファン
	リターンパネル		ステンレス製ヘアライン仕上
	出入口柱		ステンレス製ヘアライン仕上
	ドア		化粧鋼板
	幕板		化粧鋼板
	側板		化粧鋼板
	幅木		化粧鋼板
	床		ビニタイル（t2）
	敷居		硬質アルミ製
	操作盤	ボタン	抗菌凸文字ボタン（SI AA認証）
		インジケータ	液晶（カラーユニバーサルデザイン認証）
		フェースプレート	標準（広角ミラー付）　ステンレス製ヘアライン仕上

特記事項

非常呼びボタンカバー（透明樹脂製）
非常呼びボタン応答灯
戸開延長ボタン
機械式ドアセフティ（両側）
お知らせドアセンサー
BGMスピーカー
磁石式保護マット（分割形、3面、H1800mm）［消臭、菌・ウイルス抑制タイプ］
床マット
かご上ブザー（タイマー付）
外部インターホン――（　　）に取付［警報盤1面（ステンレス製・壁埋込形）］
インターホンと警報釦セットの連動
故障接点支給
高調波対策
レール割付: 4mレール
フェッシャープレート
無償保守期間12カ月
国土交通省仕様

車いす仕様
専用乗場ボタン
かご内専用（主・副）操作盤
かご側面手摺（ステンレス製ユニバーサル手摺（φ38）、2方向）
かご内鏡（ステンレス製鏡面）
荷摺（ステンレス製 1．5、一体形ビス止め、H300mm）

視覚障がい者対策
点字銘板（車いす用品を含む）
音声案内装置（日本語・英語）
乗場点字注意銘板

（電気工事）
・火報信号　無電圧a接点: φ1．2×3本
・BGM放送用信号: φ1．2×3本
・故障接点用信号: φ1．2×3本

（ 0206229－1）　V.23.01（FC）

積込み荷重制限	荷重条件	250kg（4輪台車を使用するものとし、台車の重量を含む）
	重量物の積込みは、一回当り荷重条件以下で積込み下さい。 ※フォークリフトの使用はできません。	
コンクリート強度	最小　FC　N/mm²	最大　FC　N/mm²

エレベーター仕様

概略仕様	号機名（台数）		No．1　（1台）
	用途（形式）		乗用　（SP13－CO45）車いす仕様
	積載量（定員）		900 kg　（13 人）
	速度		45 m／min
	制御方式		交流インバータ制御方式（回生無）
	操作方式		乗合全自動方式
	停止ヶ所・出入口方向		（1～3FL）　3ヶ所　1方向
	かご内法（Wx Dx H）		1600 mm X 1350 mmX 2300 mm
	出入口寸法（Wx H）		900 mm　X 2100 mm
	ドア方式		2枚戸中央開き（電動式）
	電動機出力		AC－4．5kW（ギヤレス）
	電源	動力	三相3線 210 V 60 Hz
		照明	単相　100 V 60 Hz
	管制運転	地震時	有（P波+S波感知器（3段検知）リスタート機能付）
		火災時	有
		自家発時	無
		浸水時／冠水時	有　全自動形（ピット冠水時（最寄階））
	停電時自動着床装置		有
	耐震クラス		A14
	かご内連絡装置		24V同時通話インターホン
	基本仕様 及び 標準装備仕様		ローラーガイド（かご、おもり） 照明・換気装置自動休止機能 長周期地震対策 2D多光軸（マルチビーム）ドアセフティ 反転時呼び一括キャンセル機能 戸開放時間自動設定 行先階取消し機能 気配りアナウンス機能（非常時4ヶ国語対応） イオン発生装置 故障時最寄階自動着床運転 しきい間すきまレス 広角ミラー付操作盤

乗場仕様	三方枠		全階	大枠・全傾斜　ステンレス製ヘアライン仕上
	ドア		全階	鋼板製単色塗装仕上
		遮煙	全階	有
	敷居		全階	硬質アルミ製
	乗場	ボタン	全階	抗菌凸矢印ボタン（SI AA認証）
	インジケータ	インジケータ	全階	液晶階床表示式
	ボタン	フェースプレート	全階	平板　ステンレス製ヘアライン仕上

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長東五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	EV棟 昇降機設備図（1）　縮尺（A2:100%　A3:70.7%）　―――	A-1185

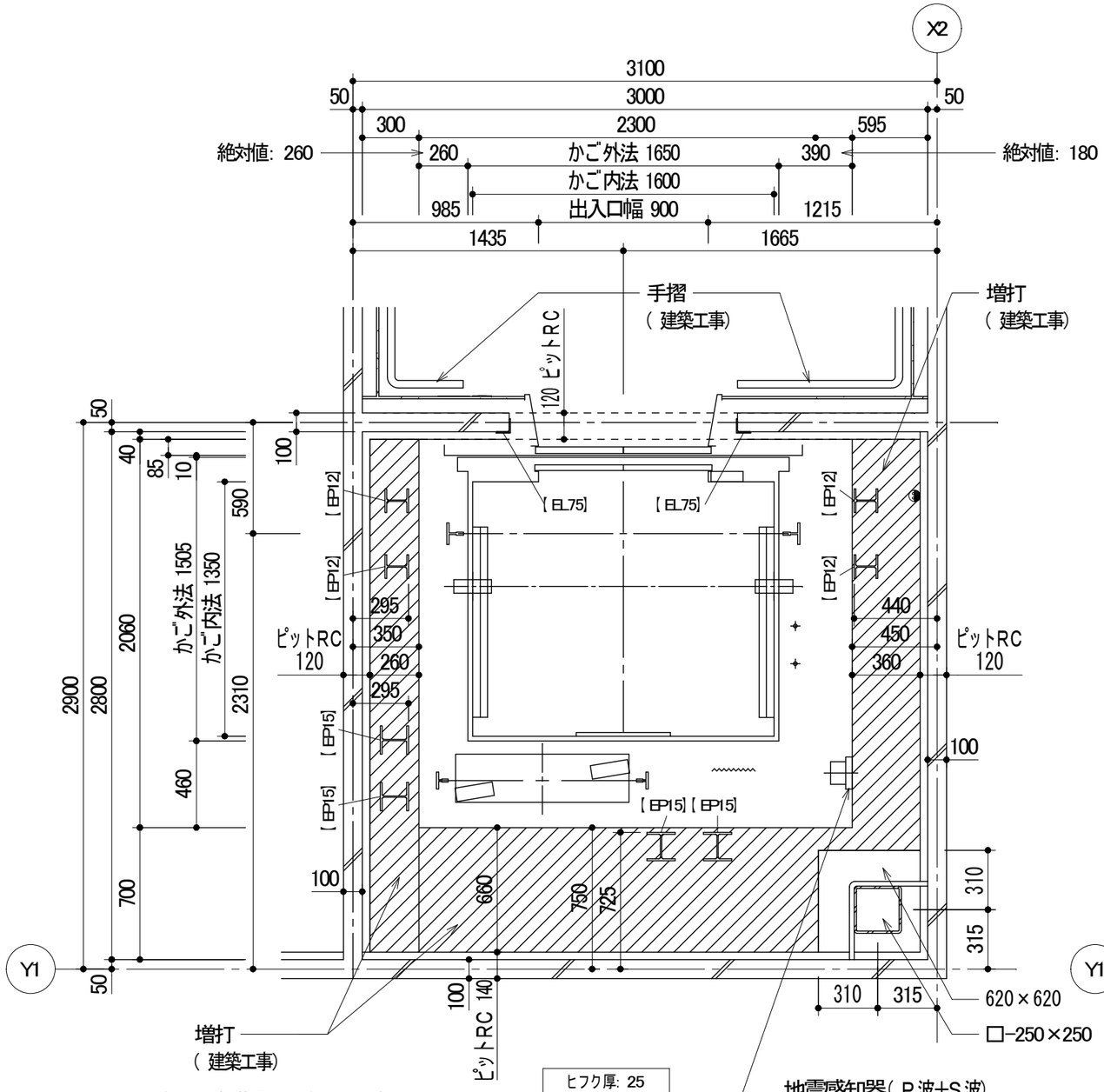
注 意 事 項

1	躯体と昇降機承諾図に相違がある場合はエレベーター着工までに躯体を是正すること
2	(1)昇降路の壁又は囲いは隙間無きものとすること (2)昇降路の壁又は囲いは難燃材料（不燃材料・準不燃材料含む）とすること (3)昇降路の壁又は囲いは5cm²辺り300Nの外力が作用した時に15mmを超える変形及び塑性変形が生じない構造とすること (4)コンクリート厚さは150mm以上とすること (5)コンクリート基準圧縮強度は21N/mm²以上48N/mm²以下とし、48N/mm²を超える場合は都度対応協議のこと (6)昇降路壁は後施工アンカーが可能な構造とすること
3	昇降路内にはエレベーターに関係のない配管・配線・ダクト・その他の機器を設置しないこと
4	昇降路壁には配管・消火栓等を埋め込まないこと
5	昇降路内には建築金物（ALCクリップ等）が突出しないこと
6	昇降路内に断熱材（ウレタン・スタイロフォーム等）を施工する場合は溶接火花による火災のおそれがあるため難燃材料とすること
7	断熱材はガイドレール支持用ファスナー及び乗場出入口廻りの取付材を避けて施工すること
8	断熱材の施工時期は協議すること
9	昇降路内の温度は5℃以上40℃以下、湿度は月平均90%以下、日平均95%以下とし、氷結・結露しないこと
10	昇降路内及び乗場には風雨・塵埃・塩分・有害ガス等が入らないこと
11	昇降路内に換気設備を設置する場合は外部より点検可能な配置とし、雨水対策を実施すること
12	昇降路内の騒音・振動が居室に伝搬しない配置及び躯体構造(防音・防振工事等)とすること
13	エレベーターホールと風除室が近い場合はドラフトによりエレベーターの戸が開閉できなくなるおそれがあるため建物側で気密性を上げること
14	保守・点検・緊急対応のため、外部より最上階のエレベーターホールへアクセスできる通路を設けること また、個人宅や占有部、鍵が必要な場所を経由する必要がないこと
15	電源電圧の変動は動力用±10%以内、照明用±5%以内とし、動力用の電圧不平衡率を5%以内とすること
16	高調波障害回避のため、以下の対応を推奨します (1)弱電機器の電源線・通信線はエレベーター動力線から1m以上分離すること (2)エレベーター動力用電源トランスは弱電機器のトランスと独立して設けること (3)弱電機器とのアース線共用は避けること (4)エレベーター動力線は弱電機器近くの床下や天井に設置しないこと (5)漏電遮断器・漏電継電器を設置する場合、不要動作防止のためインバータ対応のものを使用すること
17	搬入に支障のない経路を確保すること
18	据付工事用現場詰所及びエレベーター材料・据付工事用機材の保管場所を無償提供願います
19	仮設揚重機・重機ラフタークレーン、タワークレーン等・搬入運搬用台車を無償貸与願います
20	据付工事用電源及び試運転調整時の動力電源を無償提供願います（容量は別途打ち合わせ）
21	必要に応じてモルタルを無償提供願います
22	エレベーターを工事用として使用する場合はこの使用に伴う検査費用・復旧（オーバーホール消耗部品の交換等）費用・定期保守費用・コールバック対応費用等が生じます
23	エレベーターを工事用として使用する場合、電力会社から供給される電源を使用願います 工事用発電機による工事用使用は電源電圧が不安定なため、内部基板への悪影響を引き起こす可能性が高いことから使用しないこと
24	かご内へ一度に搬入可能な積載は4輪台車で積込み荷重制限（台車含む）以下とすること

工 事 区 分 表

分類	No.	工事項目	昇降路構造		建築			
			RC	S	建築	電気	設備	昇降機
昇降路	1	昇降路の築造工事及び躯体・オーバーヘッド・ピット寸法が昇降機承諾図と異なる場合の是正工事 オーバーヘッド：昇降機承諾図寸法に対し20mm以上低い場合（ただし、必要寸法を確保のこと） ピット：昇降機承諾図寸法に対し浅い場合又は30mm以上深い場合（防水面から確保のこと）	○	○	○			
	2	天井フック又はトロリービーム設置工事（荷重に対し安全率5を確保のこと） （オーバーヘッド高さが4000mmを超える場合、トロリービーム設置は必須のこと）	○	○	○			
	3	中間ビーム・セパレータビーム設置・インサート埋め込み工事	○	○	○			
	4	ガイドレール支持用ファスナー及び立柱設置・インサート埋め込み工事	○	○	○			
	5	溶接レスの場合のガイドレール支持用ファスナー及び立柱・三方枠取付用アングルへの穴加工	○	○	○			
	6	フェッシャープレート取付材設置工事（フェッシャープレート本体は昇降機工事）		○	○			
	7	昇降路内鉄骨材の耐火処理工事		○	○			
	8	ピット内防水工事	○	○	○			
	9	ピット下を使用する場合の二重スラブ、釣合おもり側の直下部厚壁等の建築躯体処置工事	○	○	○			
	10	併設されたエレベーターのピットに段差がある場合の間仕切り工事	○	○	○			
	11	急行ゾーンがある場合の昇降路救出口設置工事	○	○	○			
	12	昇降路内建築工事仮設床用（水平養生）の金網、デッキプレート等の撤去工事	○	○	○			
	13	昇降機承諾図に記載のない突出物や不要物の撤去切断等工事	○	○	○			
	14	昇降路内温度が40℃を超える場合の換気設備工事又は空調設備工事	○	○			○	
乗場	1	乗場出入口の敷居取付用欠き込み・敷居受け持ち出し工事及び敷居取付後のモルタル充填工事	○	○	○			
	2	乗場出入口壁穴あけ・乗場出入口用品取付材設置工事及びインサート埋め込み工事 （三方枠・バックアングル・ドア・敷居・押しボタン・インジケータ・モニター等）	○	○	○			
	3	乗場出入口用品取付後の壁並びに床・天井等の仕上工事	○	○	○			
	4	三方枠・インジケータ等と壁間のモルタル又はロックウール充填工事	○	○	○			
	5	三方枠・インジケータ等と壁間の塞ぎ板による隙間塞ぎ工事	○	○				○
	6	開放廊下及び屋上等直接外気と接する乗場における雨水対策工事 （排水溝・水勾配・庇等）	○	○	○			
電気	1	昇降路頂部の煙感知器設備の設置工事（外部より点検可能な点検口の設置を含む）	○	○		○		
	2	昇降路内配管工事に伴う区画貫通部の耐火処理工事 （昇降機工事による押しボタン・警報盤等の配線工事は除く）	○	○		○		
	3	昇降路内受電端子までの動力用電源・照明用電源・接地線の引込・立上工事及び一次側端子への接続工事	○	○		○		
	4	昇降路内受電端子までのインターホン・その他機器の配管配線工事並びに引込・立上工事 （放送・遠隔監視・防犯カメラ・故障信号・非常呼信号・火災信号・セキュリティ連動信号・監視盤等）	○	○		○		
	5	遮煙のりばドア適用時の建屋火災信号の供給	○	○		○		
	6	ピット内点検用コンセントの設置工事（単独回路）	○	○		○		
その他	1	エレベーター工事着工前までの各階出入口開口部の養生作業	○	○	○			
	2	エレベーター工事着手後の昇降路内への浸水防止工事、出入口先行着工時の止水工事	○	○	○			
	3	居室側防音及び防振工事	○	○	○			
	4	搬入用仮設開口及び搬入経路の段差解消・搬入後の復旧工事	○	○	○			
	5	エレベーターを工事用として使用する場合の各種養生手配及び設置工事	○	○	○			
	6	その他建築・電気・設備に関する工事	○	○	○	○	○	

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	EV棟 昇降機設備図（２）　縮尺 (A2:100%　A3:70.7%) ――	A-1186



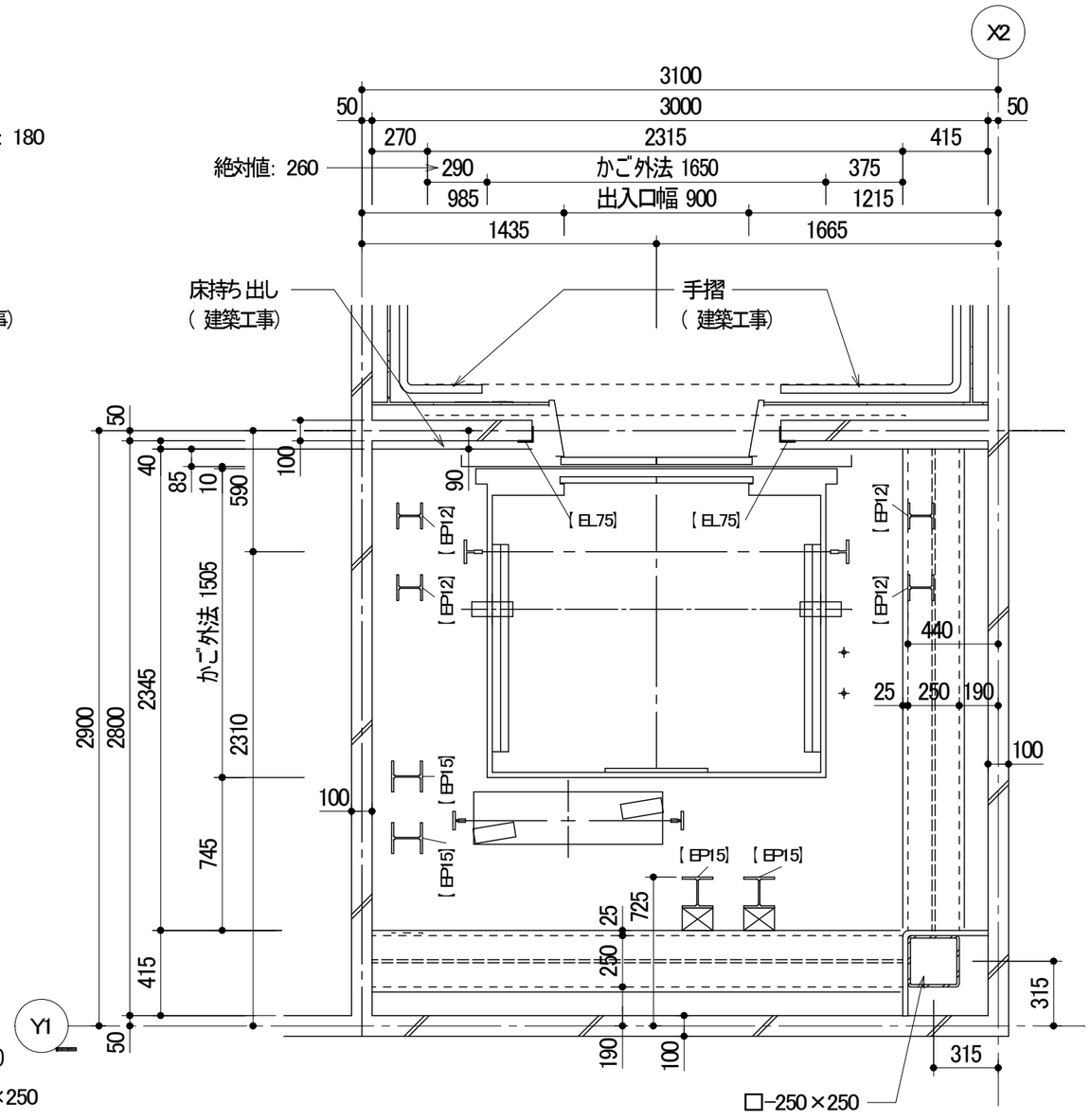
※レール支持柱は各階梁で固定願います

ヒフク厚: 25

昇降路平面図(１ＦＬ)

1 : 20

地震感知器(Ｐ波+Ｓ波)
ピット部取付



ヒフク厚: 25

昇降路平面図(２ＦＬ)

1 : 20

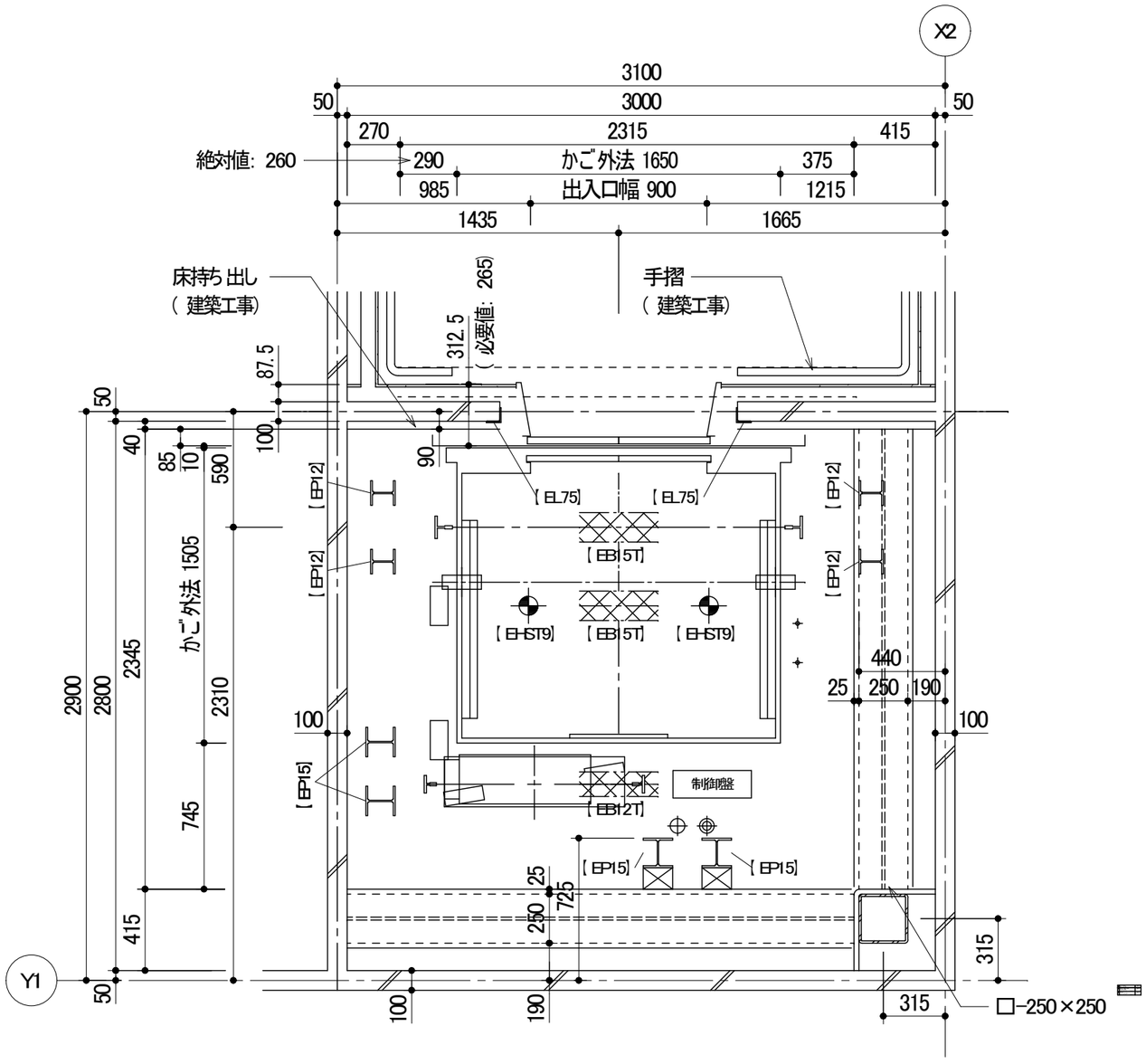
鉄骨部材記号表 (建築工事)		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EP12	レール支持柱	H-125x125x6.5x9
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST9	吊元(荷重9.8kN用)	t12(φ75穴付)
EB15T	トロリービーム(荷重19.6kN)	H-150x150x7x10
EB12T	トロリービーム(荷重9.8kN)	H-125x125x6.5x9

◉	ピット点検用コンセント	(電気工事)
≋	Ｔ．Ｃ保護金網	(エレベーター工事)

レール反力リスト(地震時作用荷重)			No. 1
	かご側	Px	4.40 kN
	一般階	Py	2.20 kN
	かご側	Px	5.00 kN
	最上階	Py	3.60 kN
	おもり側	Px	7.00 kN
	一般階	Py	3.50 kN
	おもり側	Px	10.50 kN
	最上階	Py	7.00 kN

上記 荷重による柱及び梁のたわみは5 mm以下となるよう選定下さい。

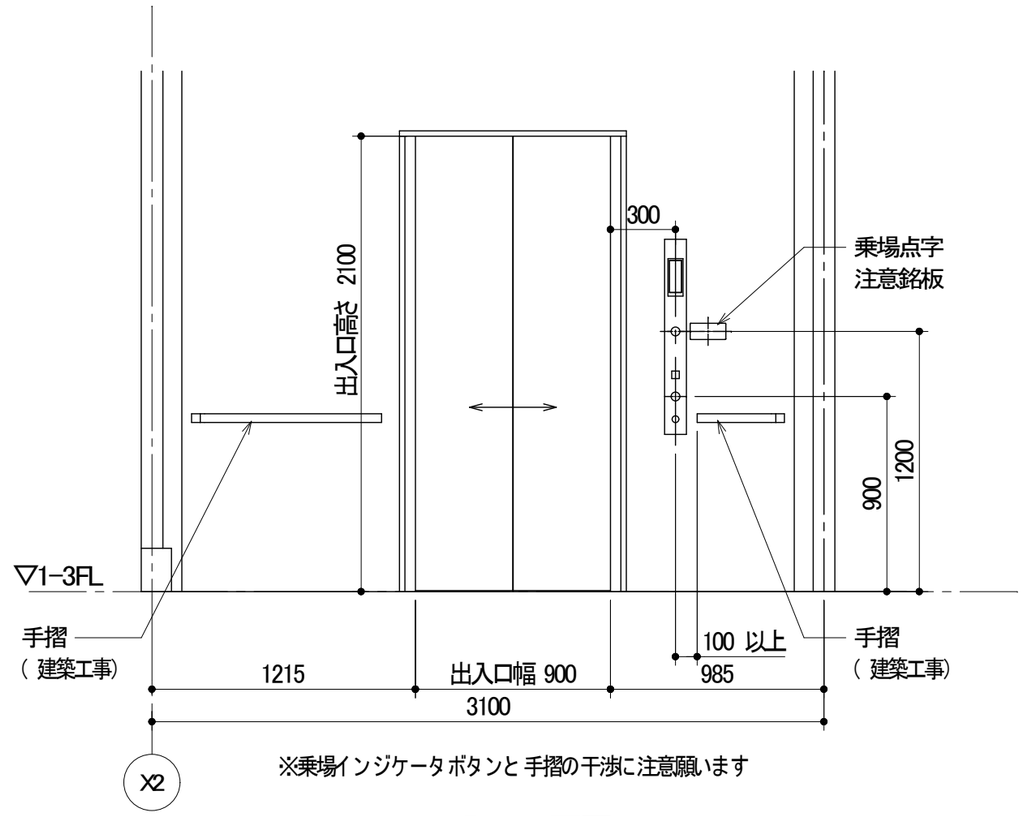
訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所 広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設 計	検 図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事		図面番号
						製 図	担 当	承認年月日	図面名称	EV棟 昇降機設備図 (３)	縮尺 (A2:100% A3:70.7%) 1/20	A-1187



※レール支持柱は各階梁で固定願います

昇降路平面図(３ＦＬ)

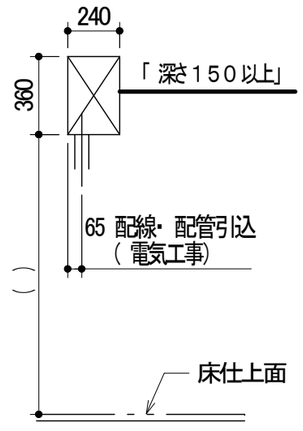
1 : 20



※乗場インジケータボタンと手摺の干渉に注意願います

出入口正面図

1 : 20



設置場所:

警報盤穴明図

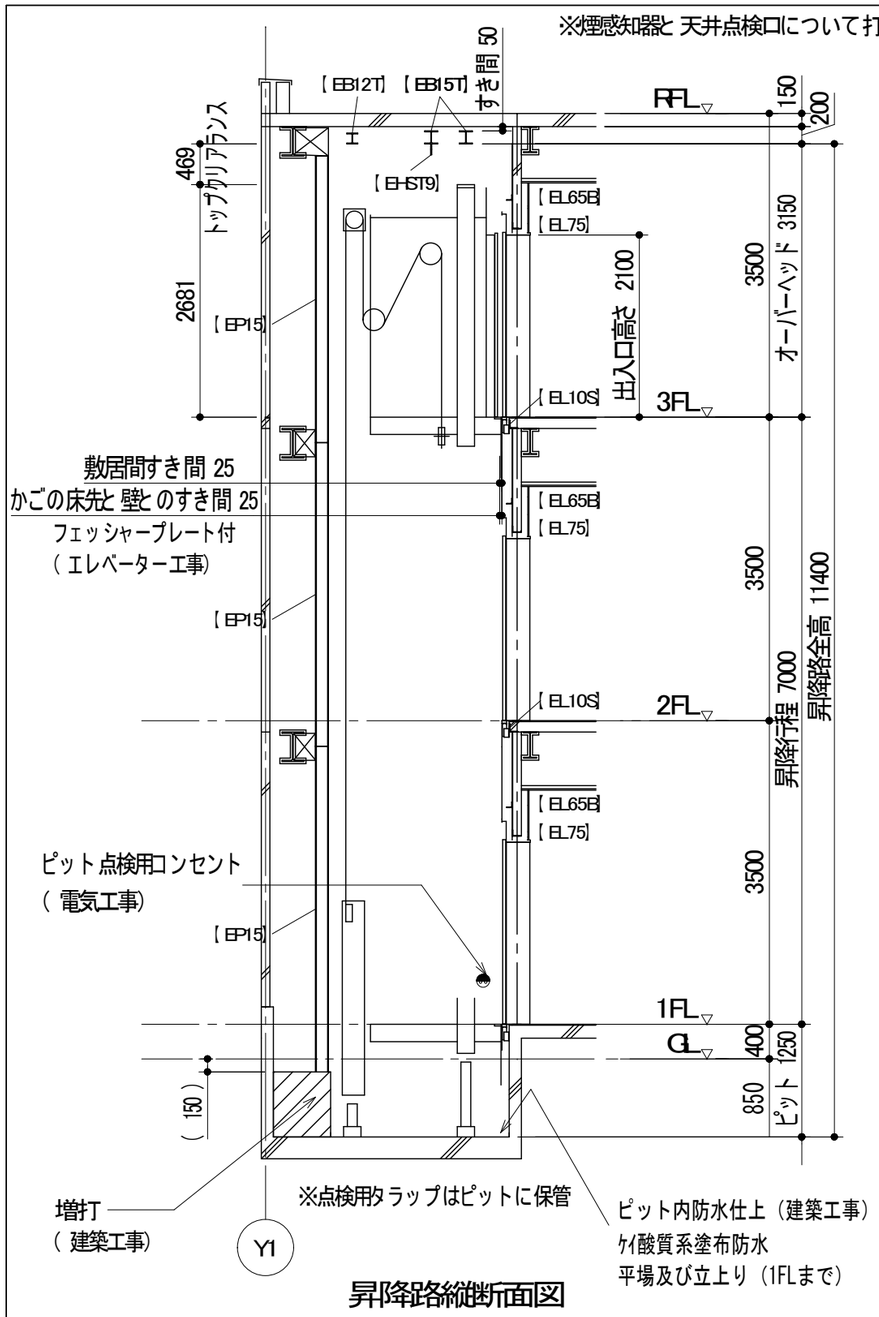
1 : 20

鉄骨部材記号表 (建築工事)		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EP12	レール支持柱	H-125x125x6.5x9
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EH-ST9	吊元(荷重9.8kN用)	t12(φ75穴付)
EB15T	トロリービーム(荷重19.6kN)	H-150x150x7x10
EB12T	トロリービーム(荷重9.8kN)	H-125x125x6.5x9

◆	吊元フック【EH-ST9】 ・荷重: 9.8 kN	(建築工事)
⊕	電源引込み(受電盤への接続) ・動力・照明、接地線 ３階FＬ－1350 mm 引出長さ 3 m	(電気工事)
◈	配線引込み ・インターホン配線、電話線 ３階FＬ－650 mm 引出長さ 3 m	(電気工事)

訂正	月. 日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所 広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長東五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設 計	検 図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事		図面番号
						製 図	担 当	承認年月日	図面名称	EV棟 昇降機設備図 (４)	縮尺 (A2:100% A3:70.7%) 1/20	A-1188

※煙感知器と 天井点検口について打合せの事



昇降路縦断面図

1：50

煙感知器詳細

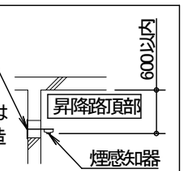
施錠装置付点検扉

1.5mm以上の鋼板製（電気工事）

リミットスイッチ付（エレベーター工事）

昇降路頂部に煙感知器を設置する場合は外部に引き出した状態で点検可能な構造とする。

屋外の場合は、防水形点検扉とする。



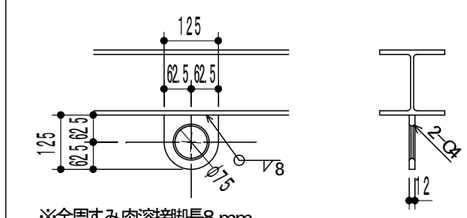
点検ボックスは下記エレベーター昇降路専用品として下さい。

- ・ホーチキ　（KUS-1C W）
- ・能美防災　（FXS J001A-HU）
- ・ニッタン　（N D-T-G）
- ・パナソニック　（BV95351+BV95381H）

製品の型番は、仕様変更などで変更・廃止されている場合があります

吊元フック詳細【EH-ST9】

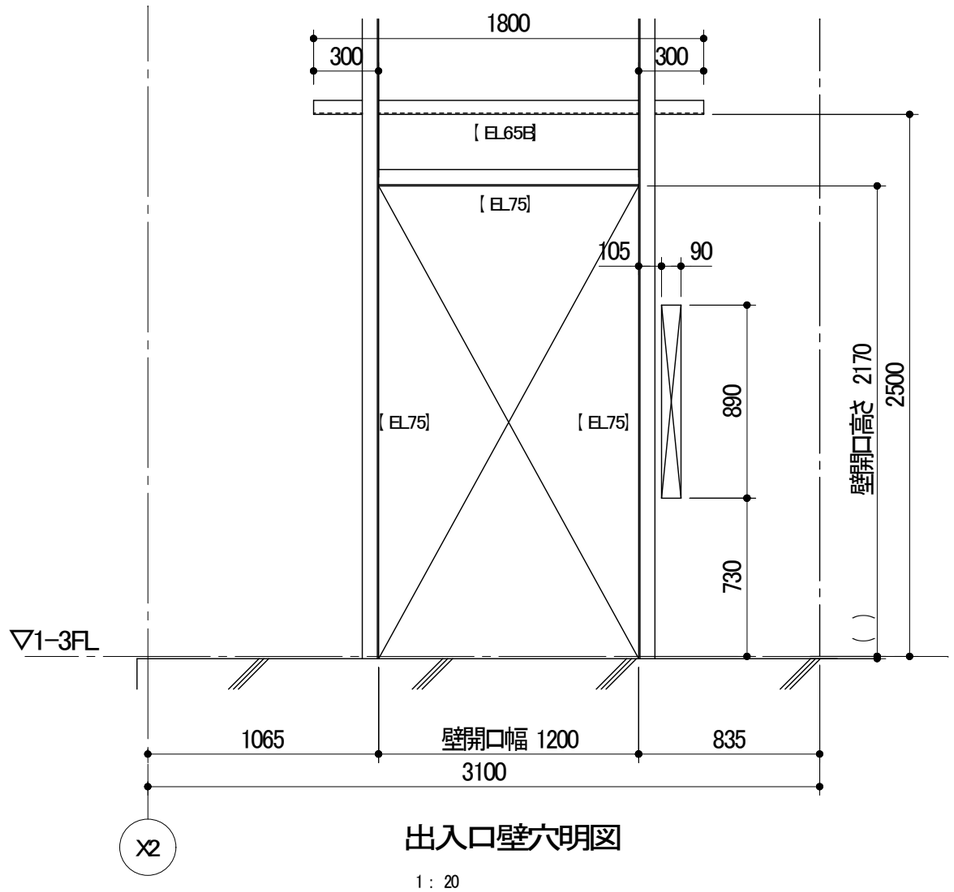
吊元フック荷重：9.8kN



※全周すみ肉溶接脚長8 mm

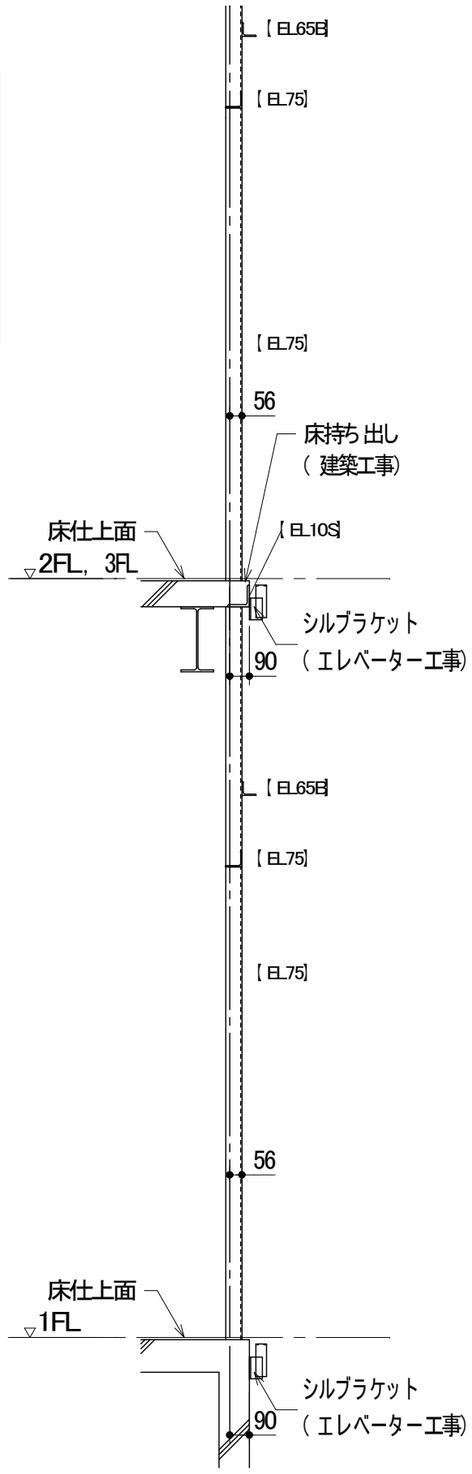
No. 1

ピット反力		80.80 kN
ピット衝撃荷重	かご側	68.50 kN
	C／W側	52.70 kN



出入口壁穴明図

1：20



断面図

1：20

鉄骨部材記号表　（建築工事）

部材記号	部材用途	部材サイズ
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EP12	レール支持柱	H-125x125x6.5x9
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EH-ST9	吊元（荷重9.8kN用）	t12（φ75穴付）
EB15T	トロリービーム（荷重19.6kN）	H-150x150x7x10
EB12T	トロリービーム（荷重9.8kN）	H-125x125x6.5x9

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長東五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	EV棟 昇降機設備図（５）　縮尺（A2:100%　A3:70.7%）1/20　1/50	A-1189

特記仕様書(構造関係)

適用範囲　4章から7章までの適用範囲は下記の工事種目とする。
・特記仕様書1 仕様書　I工事概要 3工事種目に掲げる下記の工事種目番号
（番号○～番号○までの工事種目）

4 地業工事

① 支持地盤等

⊙直接基礎
支持地盤の位置及び土質(基礎底部の位置含む)
※構造図による
⊙試験掘り（根切り底の状態の確認等）
位置は構造図による
・地盤の平板載荷試験　(4.2.4)
載荷試験の方法
※地盤工学会基準　JGS 1521による　・構造図による
試験の位置、載荷荷重
※構造図による

2 杭共通事項

支持層の位置及び土質(基礎ぐいの先端の位置含む)　(4.3.4,5)(4.4.4)(4.5.5,6)
※構造図による
試験杭
試験杭の位置　(4.2.2)
※構造図による
杭の支持層への根入れ深さ
※構造図による
杭の精度
水平方向の位置ずれ
・杭径の1/4かつ100mm以下　・構造図による
杭の傾斜
・1/100以内　・構造図による

3 既製コンクリート杭地業

種　類　(4.3.1)
・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭）
・プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭）
・外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭）
SC杭の鋼管材料　・SKK400　・SKK490
・（　　）
寸法、継手、性能等　(種別：種類、性能及び曲げ強度区分)　(4.2.2)(4.3.3)

杭符号		種類	コンクリート強度(N/mm²)	杭径(mm)	厚さ(mm)	杭長(mm)	継手数	ｾｯﾄ数	長期設計支持力(kN/本)	備　考
	上杭 中杭 下杭									
	上杭 中杭 下杭									

杭先端部形状　(4.3.3)
・開放形　・半開放形　・閉そく形　・構造図による

工法
・セメントミルク工法　(4.3.1)(4.3.4)
掘削深さ　※構造図による
根固め液及び杭周固定液の管理試験
※標準仕様書4.3.4(6)(ｺ)による
・構造図による
・特定埋込杭工法　(4.3.1)(4.3.5)
・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式のうち
α、β、γが以下の値を採用できる工法
α=（　　）、β=（　　）、γ=（　　）
工法
・プレボーリング拡大根固め工法
・中堀り拡大根固め工法
・（　　）
・杭周固定液を使用する
杭の継手の工法　(4.3.3)(4.3.6)
・アーク溶接継手
溶接材料
※標準仕様書 7.2.5(1)(2)による　・構造図による
・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
工法　※評定等を受けた工法
・杭頭を処理する　(4.3.8)
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
※構造図による

杭頭の中詰め材料　(4.3.8)
・基礎のコンクリートと同調合のもの　・構造図による

4 鋼杭地業

鋼杭の材料　(4.4.3)
・SKK400　・SKK490　・（　　）
寸法、継手等　(4.2.2)(4.4.3)(4.4.5)

杭符号		種類	杭径(mm)	板厚(mm)	杭長(mm)	継手数	ｾｯﾄ数	長期設計支持力(kN/本)	備　考
	上杭 中杭 下杭								
	上杭 中杭 下杭								

特定埋込杭工法　(4.4.4)
・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式の内
α、β、γが以下の値を採用できる工法
α=（　　）、β=（　　）、γ=（　　）
工法
・中堀り拡大根固め工法
・（　　）
杭の継手の工法　(4.4.3)(4.4.5)
・アーク溶接継手
形状
・JIS A 5525による　・構造図による
溶接材料
※標準仕様書 7.2.5(1)(2)による
・構造図による
・機械式継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
工法　※評定等を受けた工法
・杭頭を処理する　(4.4.6)
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
※構造図による

杭頭の中詰め材料　(4.3.8)
・基礎のコンクリートと同調合のもの　・構造図による

5 場所打ちコンクリート杭地業

工法　(4.5.1)
・アースドリル工法　(安定液　※使用する　・使用しない)
・リバース工法
・オールケーシング工法　(孔内の水張り　・行う　・行わない)
・回転式
・揺動式
併用する工法　(4.5.1,6)
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
鋼管巻き材料
・SKK400　・SKK490　・（　　）
・拡底杭工法（安定液　・使用する　・使用しない）
・（　　）

寸法等　(4.2.2)

杭符号	軸径(mm)	拡底径(mm)	杭長(mm)	ｾｯﾄ数	長期設計支持力(kN/本)	備　考

・孔壁の保持状況（孔壁測定）
測定方法　※超音波測定器
測定箇所　試験杭（　）箇所及び本杭（　）箇所
鉄筋の種類　(4.5.4)

種類の記号	呼び名	備　考
・ SD295		
・ SD345		

帯筋　(4.5.4)
※構造関係共通事項（配筋標準図）6.2帯筋(b)(3)⑥(ﾛ)
・構造図による
鉄筋の最小かぶり厚さ　(4.5.4)
・100mm　・（　）mm
鉄筋かごの補強　(4.5.4)
※構造図による
・杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50(mm)、1.5mを超える場合は鋼板9×50～75(mm)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ1節につき3箇所以上入れ、リングと主筋との接触部を溶接する。
組み立てた鉄筋の節ごとの継手　(4.5.4)
※重ね継手
重ね継手の長さ　※構造図による
・（　　）
主筋の基礎底盤への定着長さ　(4.5.4)
※構造図による
セメントの種類　(4.5.4)
※高炉セメントB種　・（　　）

コンクリートの設計基準強度　(4.5.4)
（　）N/mm²
コンクリートの種別　(4.5.4)
・A種　・B種　・評定等の内容による
スランプ
※18cm　・（　）cm
構造体強度補正値　(4.5.4)
※3N/mm²
・構造図による
・評定等の内容による

⑥ 砂利地業

材　料　(4.6.2)
※再生クラッシャラン
・切込砂利又は切込砕石
砂利厚さ　(4.6.3)
※100mm　・（　）cm
範囲
※基礎下、基礎梁下、土間コンクリート下及び土に接するスラブ下
⊙意匠図及び構造図による

⑦ 捨コンクリート地業

範　囲　(4.6.4)
※基礎下、基礎梁下及び土に接するスラブ下
⊙意匠図及び構造図による
厚　さ　(4.6.4)
※50mm　・（　）mm
設計基準強度　(4.6.4)
※18N/mm²　・（　）N/mm²
スランプ　(4.6.4)
※15cm又は18cm　・（　）cm

⑧ 床下防湿層

材　料　(4.6.2)
※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上　・意匠図による
範　囲　(4.6.5)
⊙建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）
・意匠図による

⑨ 地盤改良工法

種類及び施工方法等
※構造図による

5 鉄筋工事

① 鉄筋

鉄筋の種類等　(5.2.1)

種類の記号	呼び名	備　考
※ SD295	※ D16以下	
※ SD345	※ D19以上	
・		
・		

② 溶接金網

鉄線の形状等　(5.2.2)

種　類	種類の記号	網目寸法、鉄線の径 (mm)	備　考
※ 溶接金網	※ SR295	※φ6-100×100	
・ 鉄筋格子			

③ 鉄筋の継手及び定着

鉄筋の継手の方法等　(5.3.4)(5.5.2,3)(5.6.3)

部　位	継 手 の 方 法	呼 び 名
柱、梁の主筋	※ ガス圧接　・ 機械式継手 ・ 溶接継手　・ 重ね継手	D19
床、壁の鉄筋	※ 重ね継手　・	D10 D13
その他の鉄筋（ 擁壁　）	※ 重ね継手　・	D10 D13

継手位置　(5.3.4)
※構造関係共通事項（配筋標準図）5.1、6.1、7.1、7.3、8.1
・構造図による
・柱及び梁主筋の重ね継手の長さ
※構造図による
耐力壁の重ね継手の長さ　(5.3.4)
※構造関係共通事項（配筋標準図）3.1(a)(3)
・構造関係共通事項（配筋標準図）3.1 表3.1
鉄筋の定着長さ
※構造関係共通事項（配筋標準図）3.1(b)　(5.3.4)
・構造図による

④ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔
(溶接金網を含む)

最小かぶり厚さ　(5.3.5)
※構造関係共通事項（配筋標準図）表4.1

・軽量コンクリートを適用する場合
適用箇所（　　）
・最小かぶり厚さに加える厚さ　（　）mm

・耐久性上不利な箇所がある場合（塩害を受けるおそれのある部分等）
適用箇所（　　）
・最小かぶり厚さに加える厚さ　（　）mm

⑤ 各部配筋

各部配筋　(5.3.7)
※構造関係共通事項（配筋標準図）
・構造図による

⑥ 圧接完了後の圧接部の試験

試験　(5.4.10)
※超音波探傷試験
・引張試験
試験方法は標準仕様書 5.4.10(4)(b)①～⑥による

7 機械式継手

適用箇所
※構造図による
H12建告第1463号に適合する性能　(5.5.3)
※A級　・（　　）
種類
・ねじ式鉄筋継手
充填方式
・無機グラウト方式　・有機グラウト方式　・
・端部ねじ加工継手
・モルタル充填式継手
・
工法
※第三者機関の評定等を取得している工法
鉄筋相互のあき
※評定等の評価内容による
品質の確認
※評定等の評価内容による
検査
※評定等の評価内容による
施工完了後の継手部の試験
・外観試験
試験対象

試験項目
・評定等の評価内容による　・
試験方法
・評定等の評価内容による　・
・超音波測定試験
試験対象
・抜取り
ロット
・1組の作業班が1日に行った継手箇所で、最大200箇所程度とする。
・
試験の箇所数
1ロットに対して（　　）箇所
・全数
試験項目
※挿入長さ
試験方法
※JIS Z 3064（鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準）による
不合格となった場合の措置　(5.5.5)
・

8 溶接継手

適用箇所
※構造図による
H12建告第1463号に適合する性能
※A級　・（　　）
溶接継手の工法
・図示による（　　）　※配筋標準図
鉄筋相互のあき
※標準仕様書5.3.5(4)による
・評定等の評価内容による
・図示による（　　）
施工完了後の溶接部の試験
※外観試験
試験対象
※全数
試験項目
・評定等の評価内容による　・
試験方法
・評定等の評価内容による　・
※超音波探傷試験
試験対象
※抜取り
ロット
・1組の作業班が1日に行った溶接箇所で、最大200箇所程度とする。
・
試験の箇所数
1ロットに対して（　30　）箇所
・全数
試験項目
※内部欠陥の検出
試験方法
※JIS Z 3063（鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波測定方法及び判定基準）
による
不合格となった場合の措置　(5.6.5)
・

6 コンクリート工事

① コンクリートの種類

コンクリートの類別　(6.2.1)
※I 類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
・II 類（JIS A 5308に適合したコンクリート）

② コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等

※普通コンクリート　(6.2.1～4)(6.3.2)

設計基準強度(N/mm²)	スランプ(cm)	気乾単位容積質量(t/m³)	適 用 箇 所
・21 ・	・標準仕様書表6.2.2による ・	2.3程度	構造図による

構造体強度補正値　※標準仕様書表6.3.2による　・構造図による

・軽量コンクリート　(6.2.1～3)(6.3.2)(6.10.1,2)

設計基準強度(N/mm²)	スランプ(cm)	気乾単位容積質量(t/m³)	種類	適 用 箇 所
・ ・	※21 ・	・ ・	・1種　・2種	構造図による

構造体強度補正値　※標準仕様書表6.3.2による　・構造図による

③ セメント

種　類　(6.3.1)
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は
フライアッシュセメントA種
普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、
水和熱が7日目で352J/g 以下、かつ28日目で 402J/g 以下のものとする
⊙高炉セメントB種　適用箇所（ 基礎　　）
・フライアッシュセメントB種　適用箇所（　　）

④ 骨　材

アルカリシリカ反応性による区分　(6.3.1)
※A　・B

⑤ 混和材料

・混和剤　(6.3.1)
混和剤の種類
※標準仕様書 6.3.1(4)(a)による　・構造図による
・混和材　(6.3.1)
混和材の種類
※標準仕様書 6.3.1(4)(b)による　・構造図による

6 寒中コンクリート

適用期間　(6.11.1)
・構造図による
構造体強度補正値　(6.11.2)
・積算温度を基に定める場合　（　）　※標準仕様書6.11.2(3)(ｱ)による
・構造図による

7 暑中コンクリート

構造体強度補正値　※6N/mm²　・構造図による　(6.12.2)

構造担当 有限会社　藤木隆司建築設計事務所
1級建築士事務所　広島県知事登録　21(1)2157号
1級建築士登録　第126381号　構造一級　第5747号　藤木　隆司

訂正	月．日	

協同組合建築設計団ＳＯＵ間
1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号
広島県広島市安佐南区長東五丁目33番19号

1級建築士 前岡 正伸
第234595号

設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
	製　図	担　当	承認年月日	図面名称	特記仕様書(構造関係) 1	縮尺 (A2:100%　A3:70.7%) NS

S ―― 1001

6 コンクリート工事

8 マスコンクリート
- 適用箇所 (6.13.1)
  - ※構造図による
- セメントの種類 (6.13.2)
  - ・普通ポルトランドセメント
  - ・中庸熱ポルトランドセメント
  - ・低熱ポルトランドセメント
  - ・高炉セメントB種
  - ・フライアッシュセメントB種
  - ・シリカセメント
- 混和材料 (6.13.2)
  - ・混和剤
    - 混和剤の種類
      - ※標準仕様書 6.13.2(2)(ｱ)による
      - ・構造図による
  - ・混和材
    - 混和材の種類
      - ※標準仕様書 6.13.2(2)(ｲ)による
      - ・構造図による
- スランプ (6.13.2)
  - ※15cm ・（　）cm
- 構造体強度補正値　※標準仕様書表6.13.1による　・構造図による (6.13.2)

9 無筋コンクリート
- コンクリートの種類 (6.14.1)
  - ※普通コンクリート　・（　　）
- セメントの種類
  - ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は
    フライアッシュセメントA種
  - ・高炉セメントB種
  - ・フライアッシュセメントB種
- 設計基準強度 (6.14.1)
  - ※18N/mm²　・（　）N/mm²
- スランプ (6.14.1)
  - ※15cm又は18cm　・（　）cm
- 適用箇所 (6.14.1)
  - ※標準仕様書 6.14.1(4)(ｱ)～(ｶ)による
  - ・構造図による

10 流動化コンクリート
- 適用箇所 (6.15.1)
  - ※構造図による

⑪ 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地
- 打継ぎの位置
  - ※標準仕様書6.6.4(1)による
  - ・構造図による
- 目地寸法 (6.6.4)
  - ※標準仕様書 9.7.3(1)(ｱ) による　・意匠図による
- ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法 (6.8.1)
  - ※意匠図による

⑫ 構造体コンクリートの仕上り
- 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5)
  - ※意匠図による
- コンクリートの仕上りの平たんさ
  - ※意匠図による

⑬ 打増し厚さ（打放し仕上げ部）
- ・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る) (6.8.1)
  - ※20mm　・（　）mm
- ・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
  - ・10mm　※20mm　・（　）mm
- ・外装タイル面の打増し処理
  - ※20mm
- ・床型枠用鋼製デッキプレートの梁側面部の打増し処理
  - プレートが支持される梁の側面について下記の打増しを行う
  - ※10mm　・20mm　・（　）mm

⑭ 型枠
- せき板の材料及び厚さ (6.8.2)
  - ※合板
    - 厚さ　※12mm　・（　）mm
  - ・メッシュ型枠（使用部位　※構造図による）
  - ・床型枠用鋼製デッキプレート（施工範囲　※構造図による）
- (6.8.2)
- ・断熱材を兼用した型枠材
  - 使用箇所
    - ※構造図による (6.8.2)
- ・ＭＣＲ工法用シートの使用
  - 適用箇所
    - ※構造図による
  - 打増し厚さ　・20mm　・（　）mm
  - 打増し範囲　※構造図による
- スリーブの材種・規格等 (6.8.2)
  - ※構造図による

⑮ コンクリートの単位水量測定
- 実施要領
  - ※構造関係共通事項　構ー2　施工方法等計画書関連等　コンクリートの単位水量測定

16 耐震スリット
- ・垂直スリット
  - 幅　（　）mm　タイプ　※完全　・部分
- ・水平スリット
  - 幅　（　）mm　タイプ　※完全　・部分
- ずれ止めの差し筋　※D10-400@　・（　　）
- 仕様・目地等　※意匠図による

7 鉄骨工事

① 鉄骨製作工場
- 鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.3)
  - ※建築基準法　第68条の2§に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している
  - 鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場
    - （　M　）グレード以上
  - ・監督職員の承諾する工場

② 鉄骨製作工場における施工管理技術者
- ※配置する (7.1.4)
- ・配置しない

③ 鋼　材
- 種類等 (7.2.1)

種類の記号	適用箇所（主要な部分）	規　格
SN400	大梁	※JIS規格による　・
SS400	小梁・母屋	※JIS規格による　・
BCR295	柱	※JIS規格による　・
SN490	ダイヤフラム	※JIS規格による　・
		※JIS規格による　・

④ 高力ボルト
- 高力ボルトの種類 (7.2.2)
  - ※トルシア形高力ボルト　2種（S10T）
  - ・JIS形高力ボルト　2種（F10T）
  - ・（　　）
- ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
  - ※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-1 縁端距離及びボルト間隔
  - ・構造図による
- 摩擦面の処理方法 (7.4.2)
  - ※自然発錆（黒皮等を除去した後に自然放置して表面に赤さびが発生した状態）
  - ・ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）
- ・すべり試験の実施 (7.4.2)
  - ※すべり係数試験　・すべり耐力試験
    - 試験方法等　※構造図による
      - すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(ｲ)による摩擦面の確認は、
      - 本試験で作成した対比試験片で行うこと。

5 溶融亜鉛めっき高力ボルト
- セットの種類
  - ※1種（F8T）相当
- ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
  - ※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-1 縁端距離及びボルト間隔
  - ・構造図による
- 摩擦面の処理方法等 (7.12.5)
  - ・ブラスト処理(表面粗度50μmRz以上)
  - ・りん酸塩処理
  - ・構造図による
- ・すべり試験の実施 (7.4.2)
  - ※すべり係数試験　・すべり耐力試験
    - 試験方法等　※構造図による
      - すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(ｱ)又は(ｲ)による摩擦面の確認は、
      - 本試験で作成した対比試験片で行うこと。

⑥ 普通ボルト
- ボルト及びナットの材料 (7.2.3)
  - ※標準仕様書 表7.2.3(JIS附属書品)又は次による
  - ボルトの規格は、JIS B 1180とする。ボルトの種類を呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。ナットの規格は、JIS B 1181とする。ナットの種類は、六角ナット－Cとし、材料は鋼とする。
- 座金 (7.2.3)
  - ※JIS B 1256による　・構造図による
- ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
  - ※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-1 縁端距離及びボルト間隔
  - ・構造図による
- 母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径 (7.3.8)
  - ※ねじの呼び径+1.0mm　・構造図による

⑦ アンカーボルト
- ・構造用アンカーボルト (7.2.4)
  - セットの種類（JIS B1220）
    - ・ABR400　※ABR490　・（　　）
- ・建方用アンカーボルト
  - 種類
    - ・SS400　・（　　）
  - アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
    - ※標準仕様書 表7.2.3による
    - ・構造図による　・（　　）
- ・標準仕様書7.2.4以外のアンカーボルト
  - 適用箇所
    - ・図示による（　　）　・
  - 種類
    - ・SS400　・
  - アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
    - ※標準仕様書 表7.2.3による　・
- ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
  - ※構造図による

⑧ 溶接材料
- 溶接材料 (7.2.5)
  - ※標準仕様書 7.2.5(1)(2)による
  - ・構造図による

9 ターンバックル
- 種　類 (7.2.6)
  - 建築用ターンバックルボルト
    - ※羽子板ボルト　・（　　）
  - 建築用ターンバックル胴
    - ※割枠式　・（　　）
- ねじの呼び (7.2.6)
  - ※構造図による

10 床構造用のデッキプレート
- 材質、形状及び寸法 (7.2.7)

	適用箇所	材質・形状・寸法	備　考
・デッキプレート単独の構法	構造図による		
・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法	構造図による		

- 開口部補強要領（補強筋の定着長さ等を含む） (7.7.8)
  - ※構造図による
- 鉄骨部材への溶接方法
  - ※構造図による
- 耐火認定
  - ・あり
    - 耐火時間　※構造図による
  - ・なし

11 スタッド
- JIS B1198（頭付きスタッド）
- 種類等 (7.2.8)

呼 び 名	呼び長さ（mm）	適 用 箇 所
・16		
・19		
・22		

⑫ 柱底均しモルタル
- ※無収縮モルタル (7.2.9)
- 無収縮モルタルの材料、調合等
  - ※標準仕様書 7.2.9(2)(ｱ)から(ｴ)による
  - ・構造図による
- ・標準仕様書7.2.9(1)によるモルタル

⑬ 製作精度
- 鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6［鉄骨精度検査基準］に加えて、次による (7.3.3)
  - 通しダイアフラムの突合せ継手の食い違いの寸法
    - ※H12建告第1464号第二号イ(2)による
    - ・構造図による
  - アンダーカットの寸法
    - ※H12建告第1464号第二号イ(3)による
    - ・構造図による
  - 食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法
    - ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
    - ・構造図による

⑭ 溶接作業を行う技能資格者の技量付加試験
- 試験の要領 (7.6.3)
  - ※構造図による

⑮ 溶接接合
- 開先の形状 (7.6.4)
  - ※構造関係共通事項（鉄骨標準図）4.2
- ・鋼製エンドタブの切断する部分 (7.6.7)
  - 切断する箇所　※構造図による
  - 切断する範囲
    - ・構造図による
    - ・鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mmを残して直線状に切断する。
      - なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。
  - 切断面の仕上げ
    - ※標準仕様書7.6.7(1)(ｶ)(b)②による
    - ・構造図による
- スカラップの形状 (7.6.7)
  - ※構造関係共通事項（鉄骨標準図）5.5

⑯ 入熱、パス間温度の溶接条件
- 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 (7.6.7)
  - ※構造関係共通事項（鉄骨標準図）5.5
  - ・構造図による
- 適用箇所
  - ※柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部 (7.6.10)
  - ・構造図による

⑰ 溶接部の試験
- 平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 (7.6.12)
  - ⊙「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による
    - ・抜き取り検査①　・抜き取り検査②
- JASS 6 付則 6［鉄骨精度検査基準］の付表3「溶接」に関する試験方法等
  - ※JASS 6 付則 6［受入検査］e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。
- 完全溶込み部の超音波探傷試験
  - ※工場溶接の場合
    - AOQL(%)　※4.0　・2.5

節	・全て	・	・	・
検査水準	※第6水準	・	・	・

  - ・工事現場溶接の場合
    - ※全て

⑱ 錆止め塗装
- 塗料の範囲 (7.8.2.4)
  - ・耐火被覆材の接着する面の塗装
    - 範囲　※構造図による
  - ⊙耐火被覆材の接着する面以外の塗装
    - 範囲　※標準仕様書 7.8.2(1)(ｱ)～(ｵ)以外
      - ・構造図による
- 塗料の種別
  - ⊙下記以外の鉄鋼面は、18章[塗装工事]による
  - ・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別
    - ※A種　・（　　）
  - ・耐火被覆材が接着する面の塗料の種別
    - ・（　　）

⑲ 耐火被覆
- 種類、材料、工法等 (7.9.2～8)

種　類	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）	
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール			
	・半乾式吹付けロックウール	1時間　被覆厚25	EV棟　柱・梁 渡り廊下棟　天井内の柱・梁	
	・湿式ロックウール			
	・			
	・			
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板	1時間　厚25	渡り廊下棟　2階柱	
	・			
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール			
	・			
・ラス張りモルタル塗り	―	1時間　厚30	渡り廊下棟　1階柱	
・耐火塗料				

⑳ アンカーボルト等の設置等
- 構造用アンカーボルトの形状及び寸法 (7.10.3)
  - ※構造図による
- 構造用アンカーフレームの形状及び寸法 (7.10.3)
  - ※構造図による
- 建方用アンカーボルトの形状及び寸法
  - ※構造図による
- 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7.10.3)
  - 種別　※A種　・B種
- 柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別 (7.10.3)
  - 厚さ
    - ・（ 30mm ）
  - 種別
    - ※A種　・B種

21 軽量形鋼構造
- ボルトの接合部 (7.11.2)
  - ※普通ボルト接合　・構造図による

構造担当 有限会社　藤木隆司建築設計事務所
1級建築士事務所　広島県知事登録　21(1)2157号
1級建築士登録　第126381号　構造一級　第5747号　藤木　隆司

訂正	月．日	

協同組合建築設計団ＳＯＵ間
1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号
広島県広島市安佐南区長東五丁目33番19号
1級建築士 前岡 正伸
第234595号

設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
	製　図	担　当	承認年月日	図面名称	特記仕様書（構造関係）2	縮尺 (A2:100% A3:70.7%) NS / S ――1002

構造関係共通図［配筋標準図］

0. 一般事項

（1）鉄筋は、ＪＩＳ Ｇ３１１２（鉄筋コンクリート用棒鋼）の規格品とする。
（2）溶接金網は、ＪＩＳ Ｇ３５５１（溶接金網）の規格品とする。
（3）鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工して組み立てる。
（4）有害な曲がりまたは損傷等のある鉄筋は、使用しない。
（5）鉄筋加工のよる切断は、シヤーカッター又は直角切断機等により行う。
　折曲げは、手動鉄筋折曲げ機又は自動鉄筋折曲げ機などにより行う。
（6）鉄筋の組立ては、鉄筋の交差部及び継ぎ手部分の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し、
　適切な位置にスペーサー、保持金物等を使用して行う。
　尚、スペーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスペーサーは、
　原則として鋼製とする。
　また、鋼製のスペーサーは型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。
（7）鉄筋の組立後、スラブ、梁等には、歩み板を置き渡し、直接鉄筋の上を歩かないようにする。
（8）継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
（9）鉄筋径の差が７mmを越える場合は、圧接としてはならない。
（10）コンクリート打込みによる鉄筋の乱れは、極力少なくする。
　特に、 かぶり厚さ、上端筋の位置及び間隔の保持に努める。
（11）鉄筋には、点付け溶接、アークストライクを行ってはならない。
（12）鉄筋の台直しは、鉄筋の付け根で急激に曲げず、勾配1/6以下のできるだけ長い距離で修正すること。（但し、必ず監理者の承認を得ること）

1.1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、表1.1を標準とする。

表1.1 鉄筋【末端部】の折曲げの形状

折曲げ角度	折曲げ図（余長）	折曲げ内法直径（D） SD295A SD295B,SD345 D16以下	SD295A SD295B,SD345 D19～D38	SD390 D19～D38	使用箇所
180°	4ｄ以上	3ｄ以上	4ｄ以上	5ｄ以上	柱・梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135°	6ｄ以上	3ｄ以上	4ｄ以上	5ｄ以上	あばら筋、帯筋、スパイラル筋 D13以下の鉄筋
90°	8ｄ以上	3ｄ以上	4ｄ以上	5ｄ以上	T形及びL形の梁のあばら筋
135°及び90°（幅止め筋）	4ｄ以上 / 4ｄ以上	3ｄ以上	4ｄ以上	5ｄ以上	幅止め筋 壁及び片持床版の末端部 壁及び床版の開口部により切断される鉄筋

表1.2 鉄筋【中間部】の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

折曲げ角度	折曲げ図（余長）	折曲げ内法直径（D） SD295A SD295B,SD345 D16以下	SD295A SD295B,SD345 D19～D38	SD390 D19～D38	使用箇所
90°以下	8ｄ以上	3ｄ以上	4ｄ以上	5ｄ以上	帯筋 あばら筋 スパイラル筋
		4ｄ以上	6ｄ以上	8ｄ以上	上記以外の鉄筋

2.1 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部には、フックを付ける。
（1）柱の四隅にある主筋（図2.1の◉）で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合
（2）梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端（図2.1の◉）にある場合（基礎梁を除く）

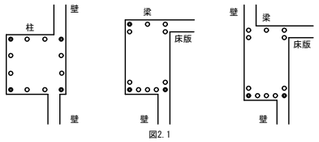


図2.1

（3）煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
（4）杭基礎のベース筋
（5）帯筋、あばら筋及び幅止め筋
（6）片持スラブ上端筋の先端帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3.1 継手及び定着

（a）鉄筋の重ね継手
（1）径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
（2）建築基準法施行令 第七十三条 第２項に定めのある鉄筋以外の、鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Ｆｃ（N/mm²）	Ｌ１（フックなし）	Ｌ1h（フックあり）
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24, 27	35d	25d
	30, 33, 36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24, 27	40d	30d
	30, 33, 36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24, 27	45d	35d
	30, 33, 36	40d	30d

（注）1．Ｌ１，Ｌ1h：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
　2．フックありの場合のＬ1hは、図3.1 に示すようにフック部分 Ω を含まない。
　3．軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。

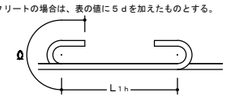


図3.1 フックありの場合の重ね継手の長さ

（3）建築基準法施行令 第七十三条 第２項に定める主筋又は耐力壁の鉄筋については、
　鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず４０ｄ以上
　（軽量骨材を使用する場合は５０ｄ以上）と表3.1の重ね継手の長さのうち大きい値とする。

（4）隣り合う継手の位置は、表3.2 による。
　ただし、壁の場合及びスラブ筋でＤ１６以下の場合は、除く。

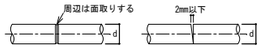
表3.2 隣り合う継手の位置

重ね継手	フックありの場合	a＝0.5L1h　a≧0.5L1h
	フックなしの場合	a＝0.5L1　a≧0.5L1
ガス圧接継手	－	圧接継手　a≧400mm
機械式継手	－	カップラー　a≧400mm、かつ、a≧(b+40)mm

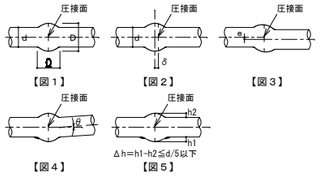
（5）ガス圧接の形状は、表3.2.1 による。

表3.2.1 ガス圧接の形状

■ガス圧接前形状



■ガス圧接後形状（合否判定基準）
① 圧接部のふくらみの直径Ｄ【図１参照】は、鉄筋径（径の異なる場合は、細い方の鉄筋径）の1.4倍以上とする。（但し、SD490の場合は、1.5倍以上とする。）
② 圧接部のふくらみの長さ Ω【図１参照】は、鉄筋径の1.1倍以上とし、その形状はなだらかなものとする。（但し、SD490の場合は、1.2倍以上とする。）
③ 圧接面のずれは、δ【図２参照】は、鉄筋径の1/4以下とする。
④ 圧接部における鉄筋中心軸の偏心量ｅ【図３参照】は、鉄筋径（径の異なる場合は、細い方の鉄筋）の1/5倍以下とする。
⑤ 圧接部の折れ曲がりθ【図４参照】は、2°以下とする。
⑥ 圧接部の片ふくらみΔｈ【図５参照】は、鉄筋径の1/5以下とする。



⑦ 目視により、過熱による著しい垂れ下がり、へこみ、焼き割れがないものとする。
⑧ その他有害と認められる欠陥がないものとする。

（6）フレア溶接の形状は、表3.2.2 による。

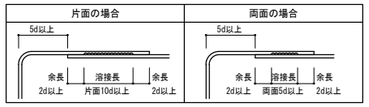
表3.2.2 フレア溶接の形状

① 適用範囲
　本基準は、JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に規定する棒鋼のうち異形棒鋼のSD295A、SD295B、SD345のD16以下に適用する。
② 溶接材料及び施工
　フレア溶接は、被覆アーク溶接またはガスシールドアーク溶接により施工を行う。

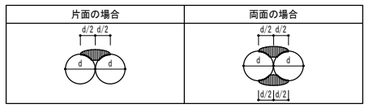
フレア溶接に用いる鉄筋と溶接材料の組み合わせ

鉄筋の種類	被覆アーク溶接棒の種類 JIS Z 3211	ソリッドワイヤの種類 JIS Z 3312	
SD295A SD295B	E4316, E4915, E4916等の低水素系溶接棒	YGW11	YGW12
SD345	E4915, E4916等の低水素系溶接棒	YGW13	YGW15
		YGW16	YGW18
		YGW19	

③ 溶接技能者
　溶接技能者は有資格者とし、監理者の承諾を得ること。
④ 溶接長さ及び余長



⑤ 溶接の形状



（b）鉄筋の定着
（1）鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。
　下表以外の定着を用いる場合は、建築センター評価を取得した工法（Ａ級以上）とし、監理者の承認を得ること。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Ｆｃ（N/mm²）	フックなし Ｌ1	Ｌ2	Ｌ3 小梁	Ｌ3 スラブ	フックあり Ｌ1h	Ｌ2h	Ｌ3h 小梁	Ｌ3h スラブ
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d <25d>	10d かつ 150mm 以上 <25d>	35d	30d	10d	－
	21	40d	35d			30d	25d		
	24, 27	35d	30d			25d	20d		
	30, 33, 36	35d	30d			25d	20d		
SD345	18	50d	40d			35d	30d		
	21	45d	35d			30d	25d		
	24, 27	40d	35d			30d	25d		
	30, 33, 36	35d	30d			25d	20d		
SD390	21	50d	40d			35d	30d		
	24, 27	45d	40d			35d	30d		
	30, 33, 36	40d	35d			30d	25d		

（注）1．Ｌ1，Ｌ1h：2．以外のフックなし直線定着の長さ及びフックあり直線定着の長さ。
　2．Ｌ2，Ｌ2h：割裂破壊のおそれのない箇所へのフックなし直線定着の長さ及びフックありの直線定着の長さ。
　3．Ｌ3 ：小梁及びスラブの下端筋のフックなし直線定着の長さ。
　　ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
　　＜ ＞：片持梁・片持スラブの下端筋を直線定着する場合の長さ。
　4．Ｌ3h：小梁の下端筋のフックあり直線定着の長さ。
　5．フックあり直線定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分 Ω を含まない。
　　また、中間部での折曲げは行わない。
　6．軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。

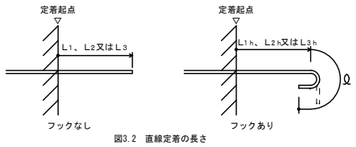


図3.2 直線定着の長さ

（2）梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、
　図3.3により、次の(ｉ)、(ii)及び(iii)をすべて満足するものとする。
　（ｉ） 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
　（ii） 余長は８ｄ以上
　（iii） 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さは表3.4に示す長さとする。
　　但し、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

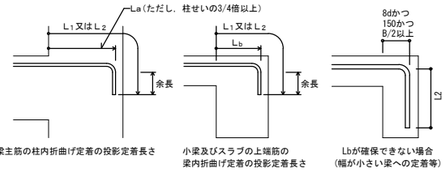


図3.3 折曲げ定着の方法

表3.4 鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Ｆｃ（N/mm²）	Ｌａ	Ｌｂ
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

（注）1．Ｌａ ：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。
　　（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
　2．Ｌｂ ：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。
　　（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
　3．軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。

（3）溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。
　なお、Ｌ2 及びＬ3 は、表3.3の（注）による。

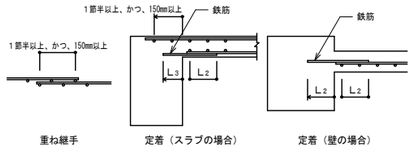


図3.4 溶接金網の継手及び定着

（4）スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

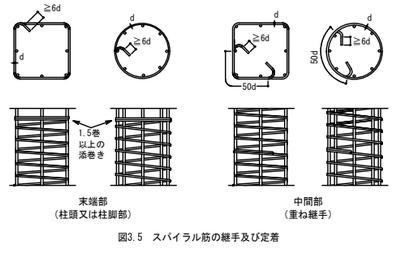


図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

4.1 最小かぶり厚さ

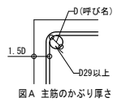
（a）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
　構造体の計画供用期間は JASS5で定められている。
　計画供用期間の級に指示・指定等がない限り、『標準』とする。
　ただし、柱及び梁の主筋にＤ２９以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。【図Ａを参照】

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ（単位：mm ）

構造部分の種別			計画供用期間の級 標準・長期 最小かぶり厚さ	標準・長期 設計かぶり厚さ	超長期 最小かぶり厚さ	超長期 設計かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり	20	30	30	40
		仕上げなし	30	40	40	50
	柱 梁 耐力壁 屋内	仕上げあり	30	40	『標準・長期』に準ずる	
		仕上げなし	30	40		
	柱 梁 耐力壁 屋外	仕上げあり	30	40		
		仕上げなし	40	50		
	擁壁、耐圧スラブ		40	50		
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁		＊40	＊50	40	50
	基礎、擁壁、耐圧スラブ		＊60	＊70	60	70
煙突等高熱を受ける部分			60	70	60	70

（注）1．＊印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
　2．「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。

耐久性上有効な仕上げの例
・打増し(10mm以上)
・モルタル塗り(10mm以上)
・タイル張り



図A 主筋のかぶり厚さ

　3．スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
　4．杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。
　5．塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。
　6．ひび割れ誘発目地、打継目地、化粧目地等がある場合は、目地底からのかぶり厚さを確保する。

（b）柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに１０mmを加えた数値を標準とする。

（c）鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

（d）鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。
　ただし、特殊な鉄筋継手の場合のあきは、特記による。
　（1）粗骨材の最大寸法の1.25倍
　（2）２５mm
　（3）隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の1.5倍

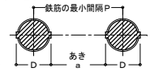


図4.1 鉄筋相互のあき

表4.2 鉄筋のあきａの最小値及び最小間隔Ｐ（２段筋）

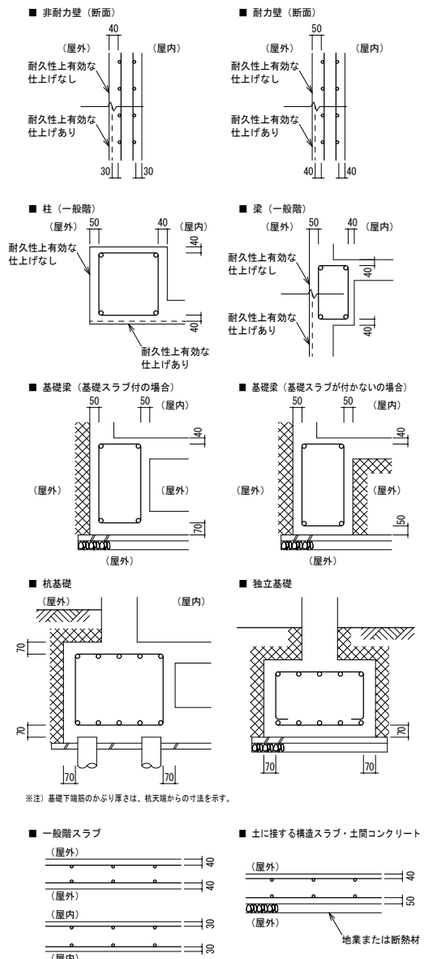
鉄筋の呼び名（ｄ）	最外径（D）	主筋のあき最小値（ａ）	鉄筋の最小間隔（Ｐ）
D10	11	32＊	43＊
D13	14	32＊	46＊
D16	18	32＊	50＊
D19	21	32＊	53＊
D22	25	33	58
D25	28	38	66
D29	33	44	77
D32	36	48	84
D35	40	53	93
D38	43	57	100

［注］※印は（粗骨材最大寸法×1.25＋最外径）によって鉄筋間隔が決定されている。

（e）鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(d)による。

（f）貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、(c)による。

（g）標準的な設計かぶり厚さは、部位別に示す。



構造担当 有限会社 藤木隆司建築設計事務所
１級建築士事務所 広島県知事登録 21(1)2157号
１級建築士登録 第126381号 構造一級 第5747号 藤木 隆司

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所 広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設計	検図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製図	担当	承認年月日	図面名称	構造関係共通図［配筋標準図その１］ 縮尺 (A2:100% A3:70.7%) NS	S ――1003

5.0 基礎

（a）直接基礎【独立基礎】

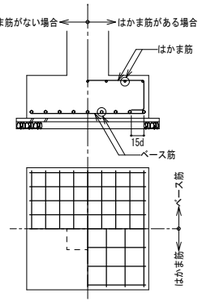


図5.0.1 独立基礎

（b）直接基礎【連続基礎（布基礎）】

1．連続基礎の側柱交差部は、外周部の基礎主筋を連続して配置する。
2．中柱交差部における基礎主筋を連続する方向は、構造図による。
3．隅柱交差部は、両方向の基礎主筋を連続して配置する。

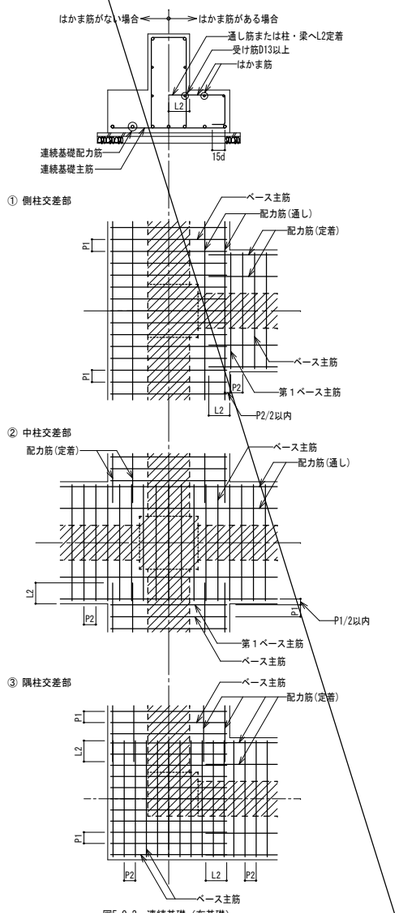


図5.0.2 連続基礎（布基礎）

（注）1．P1,P2は、設計間隔による。
2．ハッチ部は、柱及び基礎梁を示す。
3．連続基礎の中柱交差部及び側柱交差部においては、一方向のベース筋を連続して（設定ピッチ：P1･P2）配置する。
4．隅柱交差部においては、両方向のベース筋を連続して（設定ピッチP1･P2）配置する。

（c）直接基礎【べた基礎】

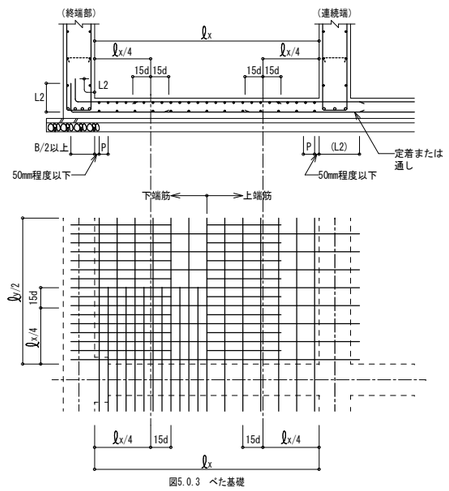


図5.0.3 べた基礎

（d）杭基礎

（1）１本杭の場合

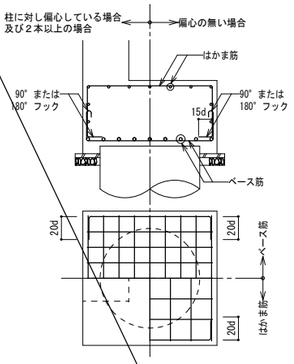


図5.0.4 １本杭の場合

（2）２本杭以上の場合

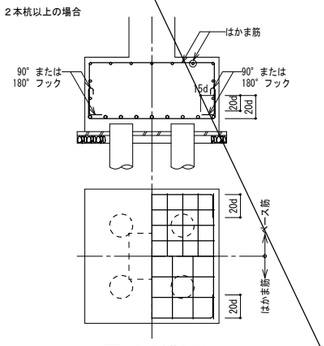


図5.0.5 ２本杭の場合

（注）1．ベース筋の径・本数は図示による。
原則としてベース筋は、継手を設けず、通し筋とする。
2．はかま筋の径・本数は、図示による。図示の無い場合は、D13@300以内とする。
3．ベース筋端部の立上り(20d)の有無及びはかま筋の有無は、図示による。
4．捨てコンクリート及び地業の厚さは、図示による。
図示のない場合は、捨てコンクリート厚50mm、地業60mmとする。
5．基礎フーチングへの杭頭部のみ込み長及び杭頭補強要領は、図示による。

5.1 基礎梁

（a）一般事項

（1）梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。
（2）梁筋を柱内に定着する場合は、『7.1(b)(4)』による。

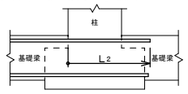


図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

（b）独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。

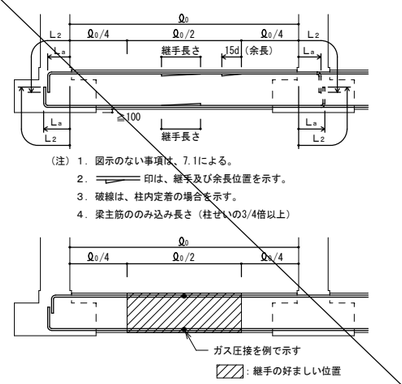
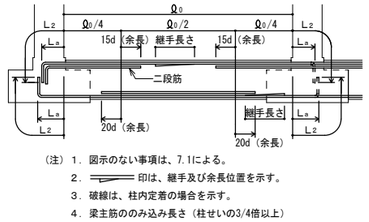


図5.2 主筋の継手、定着及び余長（その１）

（注）1．図示のない事項は、7.1による。
2．═══ 印は、継手及び余長位置を示す。
3．破線は、柱内定着の場合を示す。
4．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

（c）独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。
ただし、耐圧スラブが付く場合は、（d）による。



（注）1．図示のない事項は、7.1による。
2．═══ 印は、継手及び余長位置を示す。
3．破線は、柱内定着の場合を示す。
4．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

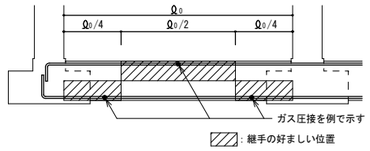
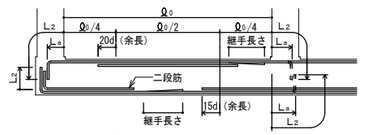


図5.3 主筋の継手、定着及び余長（その２）

（d）連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。



（注）1．図示のない事項は、7.1による。
2．═══ 印は、継手及び余長位置を示す。
3．破線は、柱内定着の場合を示す。
4．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

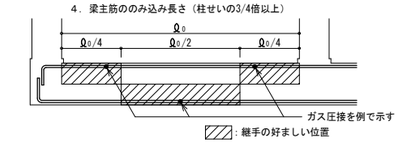


図5.4 主筋の継手、定着及び余長（その３）

5.2 基礎梁のあばら筋等

（a）一般事項

（1）あばら筋の径および間隔は、構造図による。
（2）あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2（b）による。
ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。
尚、高強度せん断補強筋を使用している場合は、監理者と協議を行うこと。

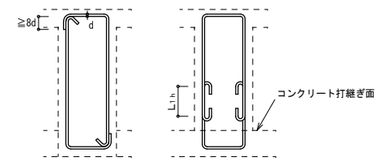


図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

（b）腹筋及び幅止め筋は、7.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は、構造図による。

（c）あばら筋の割付けは、7.2（c）による。

5.3 基礎梁と基礎の取合い部補強要領

（a）基礎梁と基礎の取合い部補強要領は、構造図による。
構造図に記載のない場合は、図5.6 による。
（b）取合い部補強の幅は、基礎梁と同幅とする。

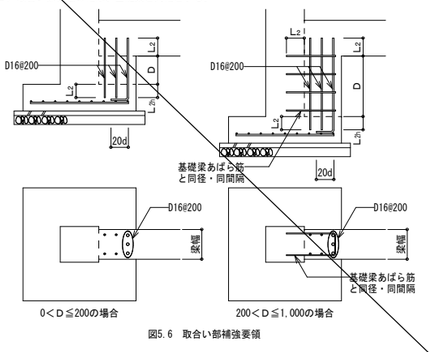


図5.6 取合い部補強要領

5.4 基礎梁と最下階柱の取合い部配筋要領

（a）基礎梁幅が柱幅よりも大きい場合の補強要領は、図5.7 による。
① Ｘ・Ｙ両方向の基礎梁幅＞柱幅に適用する。
② 柱を基礎梁に定着する考えとする。柱筋の定着は『6.1』による。
③ あばら筋は、Ｘ方向基礎梁幅とＹ方向基礎梁幅の大きい方を優先させる。
④ 隅柱、側柱は、補強筋（ロ）を帯筋と同径･間隔に入れる。柱幅内のあばら筋間隔は、規定のあばら筋量の1.5倍かつ帯筋比0.2%以上を満たすこととする。
⑤ 補強筋（イ）は、同方向側梁あばら筋と同径・同間隔とする。

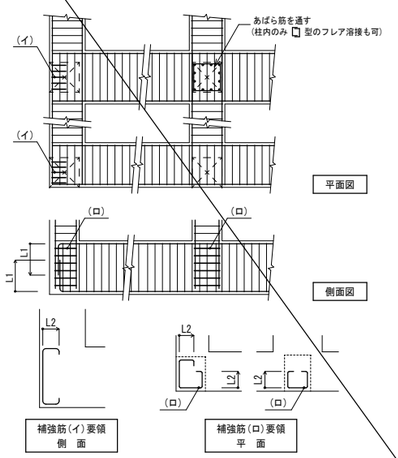


図5.7 基礎梁と最下階柱の取合い部配筋要領

6.1 柱

（a）一般事項

（1）継手中心位置は、梁上端から柱せいDc以上、かつ、3ho/4（hoは柱の内法高さ）以下とする。
（2）継手、定着及び余長は、図6.1による。

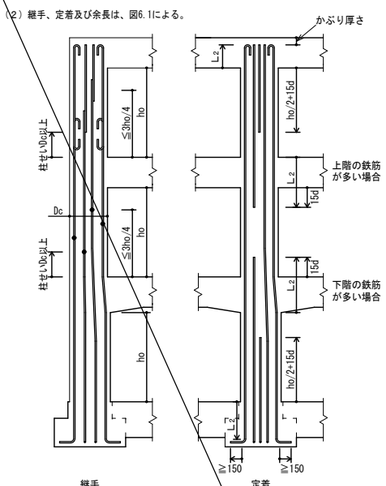


図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

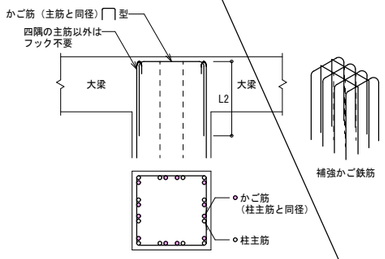


図6.1(a) 柱頭部補強

（注）1．柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
2．隣り合う継手の位置は、表3.2［隣り合う継手の位置］による。
3．継手及び定着は、すべての階に適用できる。
4．最上階柱頭で定着長さ(L2)が不足する場合は、全数フックを設けるかまたは図6-1(a)のようにかご筋を設ける。但し、下記に注意すること。
【かご筋のかぶり厚不足、梁上端主筋位置の下り過ぎ等に注意のこと】

6.2 帯筋

（a）帯筋組立の形は図6.3により、適用は特記による。
（1）Ｈ形を標準とする。
（2）Ｈ形の135°曲げのフックが困難な場合は、Ｗ－Ｉ形とする。
（3）溶接する場合の溶接長さＬは、両面フレア溶接の場合は５ｄ以上、片面フレア溶接の場合は１０ｄ以上とする。【3.1 継手及び定着 表3.2.2 フレア溶接形状による】
（4）ＳＰ形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻き行う。

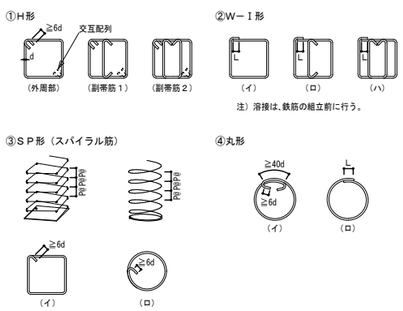


図6.3 帯筋組立の形

構造担当 有限会社 藤木隆司建築設計事務所
１級建築士事務所 広島県知事登録 21(1)2157号
１級建築士登録 第126381号 構造一級 第5747号 藤木 隆司

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所 広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設 計	検 図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製 図	担 当	承認年月日	図面名称	構造関係共通図［配筋標準図その２］ 縮尺 (A2:100% A3:70.7%) NS	S ——1004

（5）柱の隅部２段配筋

（注）１．２段筋の表示は、（ ，）印で示し、図6.3の幅止め筋を配置する。

２．幅止め筋と柱主筋は、必ず鉄線で結束すること。

３．２段筋と隅筋のあき a は、4.1(d) による。

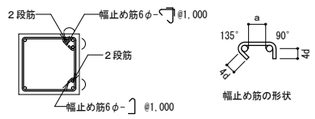
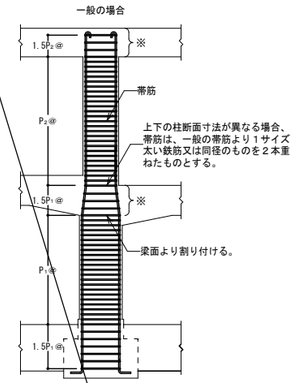


図6.3(a)　２段筋組立の形

（b）帯筋の種類及び間隔は、構造図による。

（c）フック及び継手の位置は、交互配列とする。

（d）帯筋の割付けは、図6.4とし、それ以外の場合は特記による。



（注）１．図示のない事項については、一般の場合に同じとする。

２．柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P₁@または1.5P₂@とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。
なお、P₁@　、P₂@は、特記された帯筋の間隔を示す。

３．(※)で示すパネル部分は、帯筋比が0.2%以上確保されていない場合は、0.2%以上の間隔で割り付ける。

図6.4　帯筋の割付け

（e）柱・梁仕口部

（1）仕口部の範囲は、構造図による。構造図に記載のない場合は、柱に取り付く全ての梁せいが重なる範囲を仕口部とする。【図6.5.1】

（2）直交梁がない場合、柱の仕口部帯筋範囲は、構造図による。構造図に記載のない場合は、仕口部帯筋配筋は適用しない。【図6.5.2】

（3）仕口部帯筋の範囲は、図6.5.1 による。

（4）仕口部帯筋の配筋要領は、構造図による。

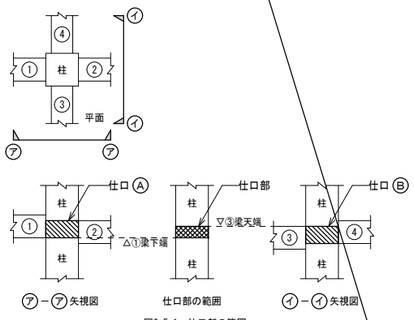


図6.5.1　仕口部の範囲

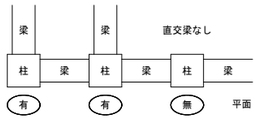


図6.5.2　柱仕口部範囲の有無

（f）柱筋のしぼり方

（1）柱主筋の折曲げ位置は、梁の主筋間隔内でとる。【図6.6.1】

（2）柱主筋を折曲げて通し筋とする場合【図6.6.1】の梁上第１帯筋は、上階柱帯筋と同径の帯筋と同径の帯筋を２組重ねる。

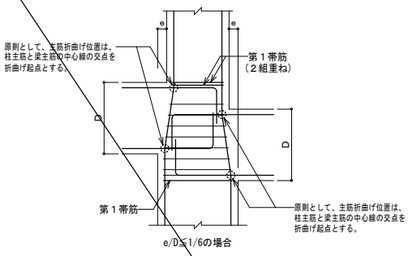


図6.6.1　柱主筋を折曲げて通し筋とする場合

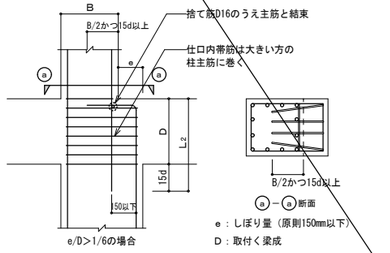


図6.6.2　柱主筋を通し筋としない場合

7.1　大梁

（a）一般事項

（1）梁の上がり下がりは、FLを基準とした寸法値とする。

（2）地中梁下の砂利地業厚及び捨てコンクリート地業厚は、特記による。

（3）打ち増し部分に スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合は、スラブ、壁、梁筋等の定着長さには、打ち増し部分を含まない。

（b）大梁主筋の継手及び定着の一般事項

（1）継手中心位置は、次による。

上端筋：中央 $l_0/2$以内

下端筋：柱面より梁せい（D）以上離し、$l_0/4$を加えた範囲以内

（2）継手中央部の位置、定着長さ及び余長は、図7.3及び図7.4による。

（3）梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は、柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。
外端部や隅部では、折り曲げて定着する。

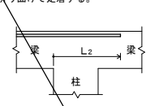


図7.1　梁主筋の梁内定着

（4）梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は、次による。
なお、定着の方法は、3.1(b)(3)による。

上端筋：曲げ降ろす

下端筋（一般）：原則、曲げ上げる。

下端筋（ハンチ付き）：原則、曲げ上げる。

（5）梁にハンチをつける場合、その傾斜は特記による。

（6）段違い梁は、図7.2による。

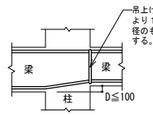
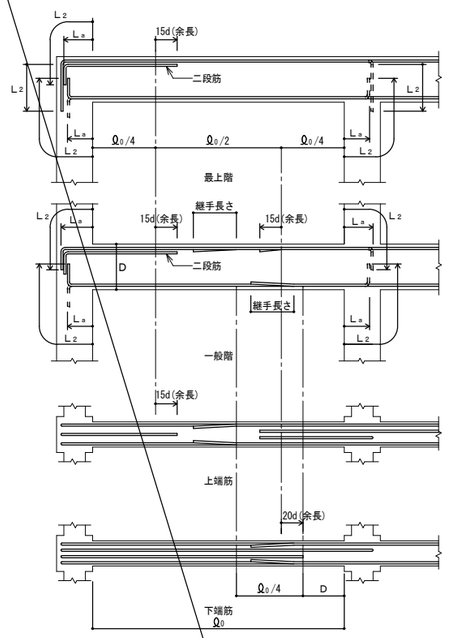


図7.2　段違い梁

（c）ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。



（注）１．梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。

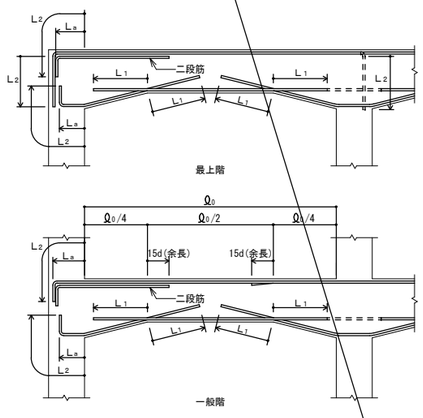
２．━━━ 印は、継手及び余長を示す。

３．破線は、柱内定着の場合を示す。

４．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7.3　大梁の重ね継手、定着及び余長

（d）ハンチのある場合の定着及び余長は、図7.4による。



（注）１．梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。

２．━━━ 印は、継手及び余長を示す。

３．梁内定着の端部下端筋が接近するときは、＝＝＝＝のように引き通すことができる。

４．破線は、柱内定着を示す。

５．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7.4　ハンチのある大梁の定着及び余長

7.2　あばら筋等

（a）あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項

（1）あばら筋の種類、径及び間隔は、構造図による。

（2）腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは、図7.6による。
ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ、定着長さは構造図による。

（3）幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10@1,000程度とする。

（b）あばら筋組立の形及びフックの位置

（1）形は、図7.5（イ）又は（イー１）とする。
但し、L形梁の場合は、（ロ）または（ハ）、T形梁の場合は（ロ）～（ニ）とすることができる。

（2）フックの位置

ⅰ.（イ）の場合は、交互とする。

ⅱ.（ロ）の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。

ⅲ.（ハ）の場合は、床版の付く側を90°折曲げとする。

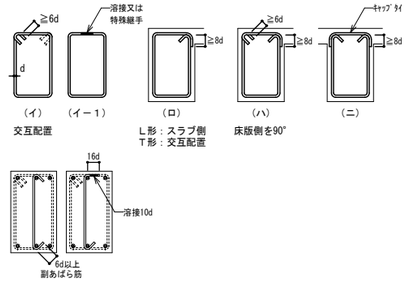


図7.5　あばら筋組立の形

（3）２段筋受用幅止め筋

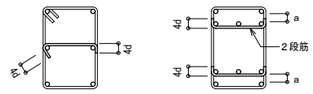


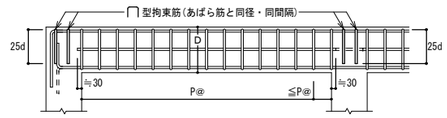
図7.5.1　２段筋受用幅止め筋

（注）１．幅止め筋、２段筋用の幅止め筋は、D10@1,000以下とする。

２．２段筋のあき a は、4.1（d） による。

（c）あばら筋の割付け

（1）間隔が一様でハンチのない場合は、図7.6による。

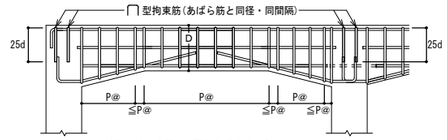


（注）１．あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。

２．図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.6　あばら筋の割付け（その１）

（2）間隔が一様でハンチのある場合は、図7.7による。

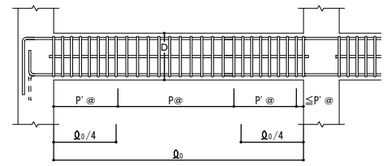


（注）１．あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。

２．図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.7　あばら筋の割付け（その２）

（3）梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。



（注）１．あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。

２．図中のP@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.8　あばら筋の割付け（その３）

（d）腹筋及び幅止め筋

（1）一般の梁は、『図7.9』による。

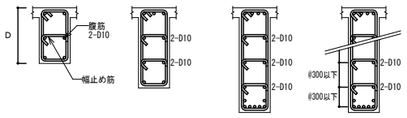
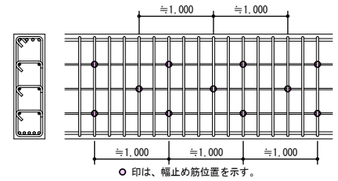


図7.9　腹筋および幅止め筋

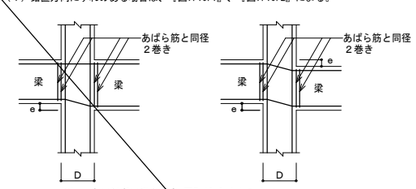


○ 印は、幅止め筋位置を示す。

図7.9.1　幅止め筋位置

（e）段違い梁の配筋

（1）鉛直方向にずれのある場合は、『図7.10.1』、『図7.10.2』による。



注）ｅ/Ｄ≦1/6の場合では、図7.10.2 としてよい。

図7.10.1　ｅ≦100かつｅ/Ｄ≦1/6の場合

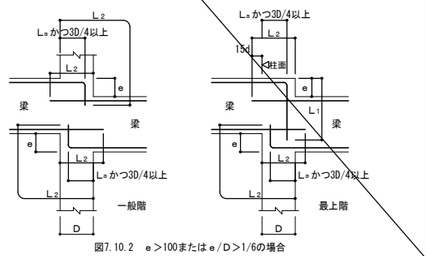
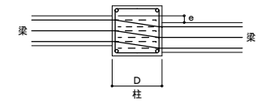


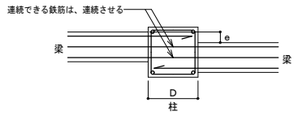
図7.10.2　ｅ＞100またはｅ/Ｄ＞1/6の場合

（2）水平方向にずれのある場合は、『図7.10.3』、『図7.10.4』による。



注）－－－－は、通し筋としない場合の折曲げ定着を示す。

図7.10.3　ｅ≦100かつｅ/Ｄ≦1/6の場合



注）━━━ は、通し筋としない場合の折曲げ定着を示す。

図7.10.4　ｅ＞100またはｅ/Ｄ＞1/6の場合

（f）斜め定着する場合

柱に対して梁が斜めから取り付く場合は、『図7.10.5』による。
梁主筋の折曲げ起点は、帯筋の内側とする。

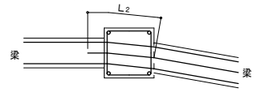


図7.10.5　斜めに定着する場合

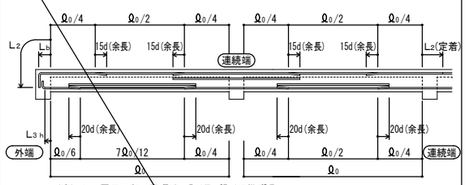
構造担当 有限会社　藤木隆司建築設計事務所
１級建築士事務所　広島県知事登録　21(1)2157号
１級建築士登録　第126381号　構造一級　第5747号　藤木　隆司

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	構造関係共通図［配筋標準図その３］　縮尺 (A2:100%　A3:70.7%) NS	S ――1005

7.3 小梁

（a）小梁主筋の継手、定着及び余長

（1）連続小梁の場合は、図7.10による。

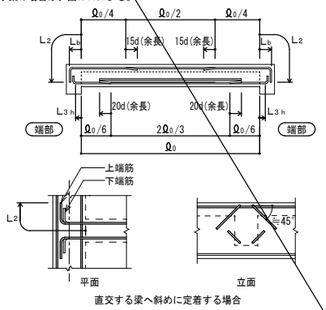


（注）1．図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。

2．　　印は、余長位置を示す。

図7.10　小梁主筋の継手、定着及び余長（その１）

（b）単独小梁の場合は、図7.11による。



直交する梁へ斜めに定着する場合

（注）1．図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。

2．　　印は、余長位置を示す。

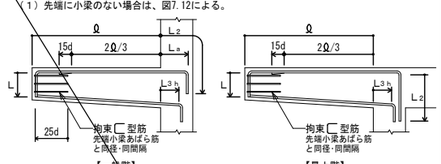
図7.11　小梁主筋の継手、定着及び余長（その２）

（c）あばら筋は、7.2による。

7.4 片持梁

（a）片持梁主筋の定着及び余長

（1）先端に小梁のない場合は、図7.12による。



（注）1．図示のない事項は、7.1による。

2．　　印は、余長位置を示す。

3．先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。

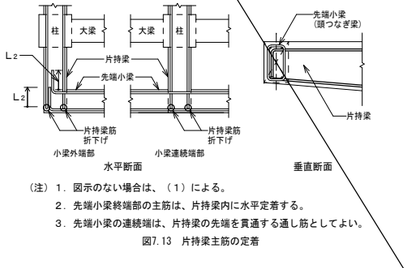
4．梁筋を引き通さない場合は、取合い部材に定着する。但し、柱に取合う場合は、全数引き通せる場合でも、上端筋は２本以上を柱に定着する。

5．主筋には、継手を設けないこと。

6．拘束筋は、梁あばら筋の内側に定着する。

図7.12　片持梁主筋の定着及び余長

（2）先端に小梁がある場合は、図7.13による。



（注）1．図示のない場合は、（1）による。

2．先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。

3．先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図7.13　片持梁主筋の定着

（b）あばら筋は、7.2による。

8.1 壁

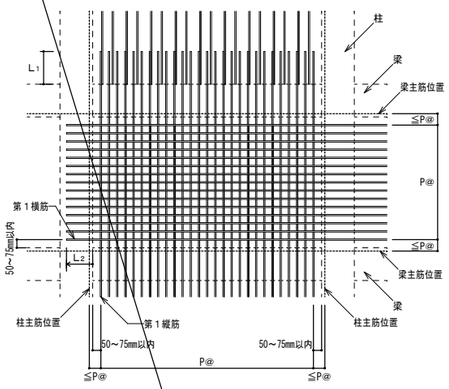
（a）一般事項

（1）壁配筋の重ね継手及び定着の長さは、重ね継手長さをL_1、定着長さをL_2とする。

（2）幅止め筋は、縦横ともD10@1,000程度とする。

（3）打増し部分に、壁及びスラブ等が取り付く場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打ち増し部分は含まない。

（4）壁の第１横筋と縦筋は、柱面・梁面から50～75mm以内の位置 かつ 柱主筋・梁主筋から設計間隔以内に配置すること。



（注）図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。

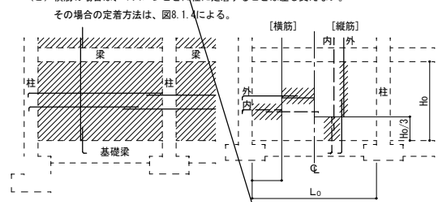
図8.1　壁の配筋

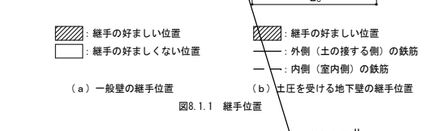
（b）壁筋の継手位置

（1）原則として、柱・梁の中には壁筋の継手を設けないこと。

（2）横筋の場合は、１スパンごとに柱に定着することは差し支えない。

その場合の定着方法は、図8.1.4による。





（a）一般壁の継手位置　　（b）土圧を受ける地下壁の継手位置

図8.1.1　継手位置

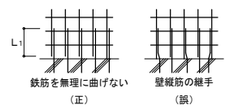
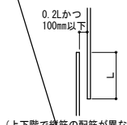


図8.1.2　壁縦筋の継手



（上下階で縦筋の配筋が異なる場合）

図8.1.3　あき重ね継手

（c）　定着

（1）柱に定着する場合

■帯筋内に配置する壁筋の定着方法　　■柱主筋の外側を通る壁横筋の定着方法

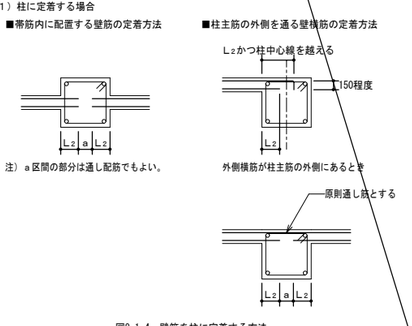


図8.1.4　壁筋を柱に定着する方法

（2）梁に定着する場合

■あばら筋内に配置する壁筋の定着方法　　■梁主筋の外側を通る壁横筋の定着方法

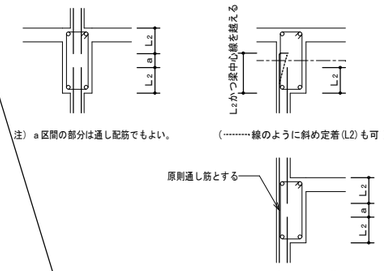


図8.1.5　壁筋を梁に定着する方法

（3）スラブに定着する場合【非耐力壁とスラブの取り合い】

■壁脚部【シングル配筋の場合】　　■壁脚部【ダブル配筋の場合】

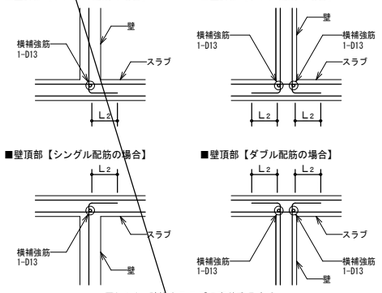
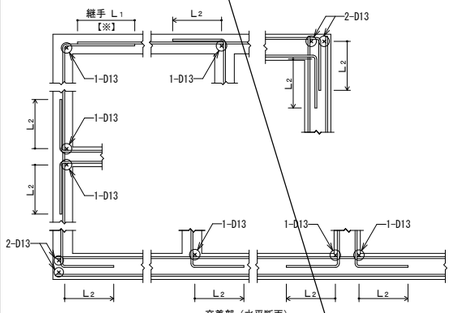


図8.1.6　壁筋をスラブに定着する方法

（d）壁の交差部及び端部の配筋は、図8.2による。

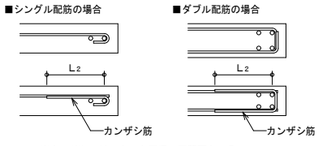


交差部（水平断面）

【※】耐震壁の場合は、表3.1のフックなし重ね継手長さと、3.1.(a)(3)に規定する重ね継手長さのうち、大きい値を全長で確保する。

壁の末端部及び開口により切断される鉄筋にはフックを付けるか、カンザシ筋による補強を設ける。

■シングル配筋の場合　　■ダブル配筋の場合



※カンザシ筋は、主筋と同径・同間隔とする。

（タテ筋が外側の場合は、内側にカンザシ筋を配置する）

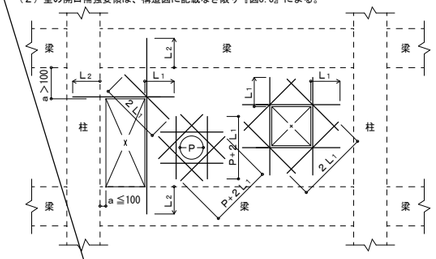
図8.2　壁の交差部及び端部の配筋

8.2 壁の補強

（a）壁開口部の補強

（1）壁開口部の補強筋は、構造図による。

（2）壁の開口補強要領は、構造図に記載なき限り『図8.3』による。



（注）1．壁厚が200mmを超える壁開口に適用する。

2．開口最大寸法が200以下の場合は、補強筋不要とする。

3．ａ寸法が100mm以下の場合は、補強筋不要とする。

4．補強筋は、構造図による。

5．補強筋は、規定壁配筋以外に入れる。

6．開口ピッチは、３Ｌ₀（隣接する開口寸法の平均）以上を原則とする。

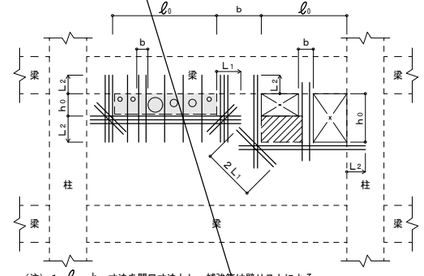
7．開口高さが階高の0.4倍を超える場合、縦補強筋は梁内にL_2定着する。

図8.3　壁の開口補強要領（鉄筋の場合）

（b）設備開口部の補強

（1）設備ダクト開口及び設備小開口が密集している場合の補強要領は、『図8.4』による。

尚、耐震壁に設ける設備開口の設置・補強要領は、『（a）壁開口補強』 に示す方法を原則とする。



（注）1．ℓ₀，h₀ 寸法を開口寸法とし、補強筋は壁リストによる。

但し、壁厚200以下の場合は、壁リストに示す縦、横補強筋を50%増とする。

2．ｂ寸法500mm以上の場合は、別開口として、個別に開口補強を行う。

ｂ寸法500mm未満の場合は、必要なかぶりを確保の上、規定の壁筋と同径@150以下で配筋する。

3．　　印部分は、規定の壁配筋を行う。

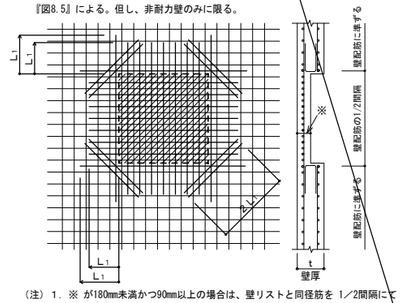
4．補強筋の定着要領は、『図8.3』による。

5．　　範囲は、一つの開口として扱う。

図8.4　壁の設備開口補強要領

（c）コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強

（1）コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の壁の欠込み部の補強補強要領は、『図8.5』による。但し、非耐力壁のみに限る。



（注）1．※ が180mm未満かつ90mm以上の場合は、壁リストと同径筋を 1／2間隔にてシングル配筋とする。

2．※ が180mm以上の場合は、同径・同間隔でダブル配筋とする。

但し、配筋がD16以上の場合は、監督員の指示による。

3．開口補強は、壁リストによる。

図8.5　壁欠込み部補強要領

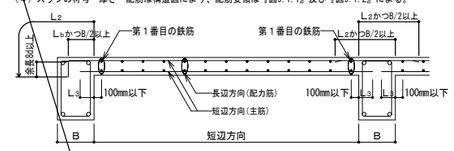
9.1 スラブ

（1）スラブ及び土間コンクリートの上がり下がりは、FLを基準とした寸法値とする。

（2）土間スラブ下の砂利地業厚及び捨てコンクリート厚は、構造図による。

（3）土間コンクリート補強筋(D0) の配筋及びコンクリート厚さは、構造図による。

（4）スラブの符号・厚さ・配筋は構造図により、配筋要領は『図9.1.1』及び『図9.1.2』による。



※スラブの配筋が左右で同じ場合は通し筋としてもよい。

図9.1.1　スラブの配筋及び定着

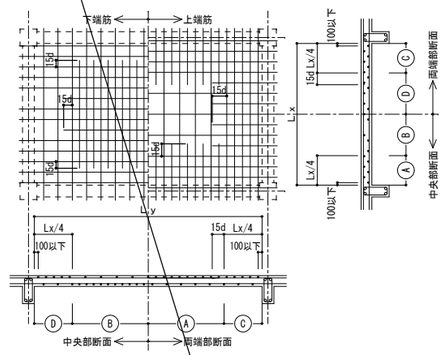


図9.1.2　端部・中央部で配筋が異なる場合のカットオフ筋長さ及び継手位置

（5）配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。

（6）鉄筋の重ね継手長さは、L_1とする。

スラブ内に継手を設ける場合は、図9.1.3に示す上端筋（主力筋方向－Ⓑ、Ⓓ

配力筋方向－Ⓐ、Ⓑ）、下端筋（主・配力筋共－Ⓐ、Ⓒ、Ⓓ）の範囲内とする。

図9.1.3　上端筋・下端筋の継手を設ける場合の範囲

（7）定着長さ及び受け筋は、図9.2による。

ただし、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。

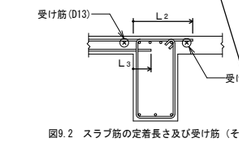
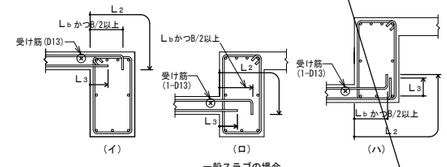
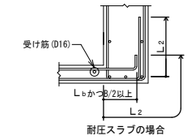


図9.2　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その１）



一般スラブの場合



耐圧スラブの場合

図9.3　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その２）

構造担当　有限会社　藤木隆司建築設計事務所

１級建築士事務所　広島県知事登録　21(1)2157号

１級建築士登録　第126381号　構造一級　第5747号　藤木　隆司

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	構造関係共通図［配筋標準図その４］	縮尺 (A2:100%　A3:70.7%) NS	S ——1006

（8）スラブの中間部に高低差がある場合

1．段差（H）が150mm以下の場合は、『図9.3.1』による。

2．段差（H）が150mmを超える場合は、小梁を設ける。
小梁断面は図示のない場合は、『図9.3.2』による。（但し、監理者の承認を得ること）

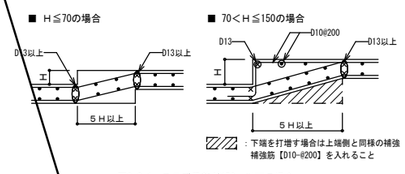
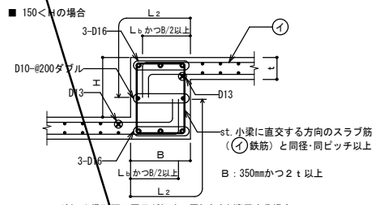


図9.3.1　スラブ段差が150mm以下の場合



注）小梁断面の図示が無く、図9.3.2を適用する場合、
小梁への定着長さは、上・下端筋共 L_2 とする。

図9.3.2　スラブ段差が150mmを超える場合

（9）梁より片側スラブが上がる場合

1．片側のスラブが b≧200かつ（L_b+50mm）以上の場合は、『図9.3.3』による。

2．片側のスラブが b＜200または（L_b+50mm）未満の場合は、『図9.3.4』による。

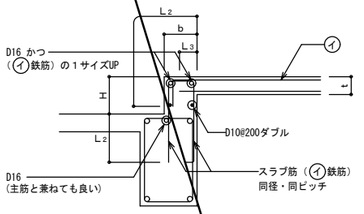


図9.3.3　b≧200かつ（L_b+50mm）以上の場合

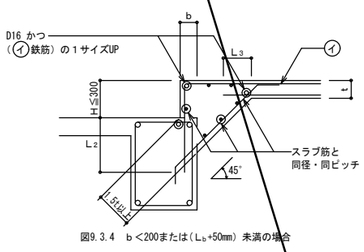


図9.3.4　b＜200または（L_b+50mm）未満の場合

(10) 幅の小さい梁への定着要領

1．スラブの水平定着 L_b が確保できない場合は、『図9.3.5』による。

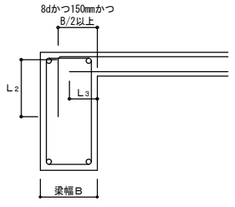


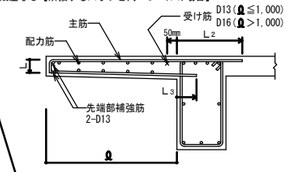
図9.3.5　幅の小さい梁への定着要領

9.2　片持ちスラブ

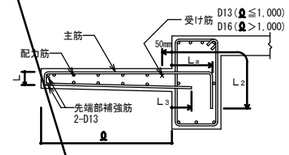
片持スラブの配筋は、次による。

（1）片持スラブの配筋は構造図により、配筋要領は、図9.4及び図9.5による。

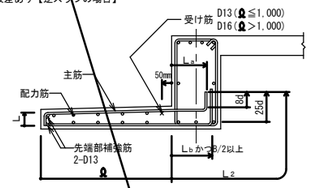
■段差なし【隣接するスラブと同一レベルの場合】



■段差あり【梁の中間にスラブが付く場合】



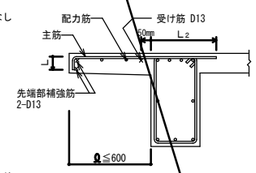
■段差あり【逆スラブの場合】



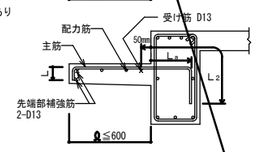
（注）先端の折り曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.4　片持スラブの配筋（ダブル配筋の場合）

■段差なし



■段差あり

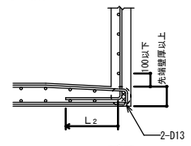


（注）先端の折り曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.5　片持スラブの配筋（シングル配筋の場合）

（2）先端に壁が取付く場合の配筋は、図9.6による。

■垂れ壁のない場合



■垂れ壁のある場合

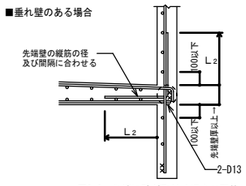
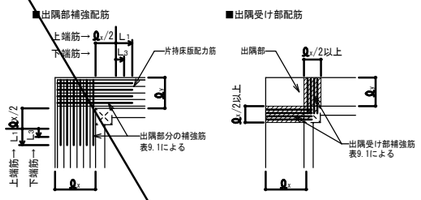


図9.6　先端に壁が取付く場合の配筋

（3）出隅部

（i）　補強の配筋は、構造図により、配筋方法は、図9.7 による。

（ii）出隅受け部分（図9.7の斜線部分）の補強筋は、表9.1 による。



（注1）　$Ω_1 \geq Ω_2$ とする。

（注1）　$Ω_1 \geq Ω_2$ とする。

2）　出隅受け部配筋は柱又は梁に L_1 定着する。

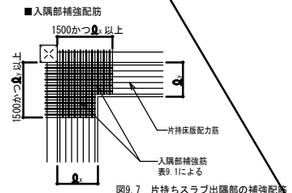


図9.7　片持ちスラブ出隅部の補強配筋

表9.1　出隅・入隅部補強筋

部 位	径	ピッチ
出隅部分補強筋	●主筋と同径 ・主筋の１サイズアップ	・主筋と同ピッチ　（主筋に加えて主筋量と同量の補強筋を加える） ●主筋の1/2ピッチ　（主筋に加えて主筋量の２倍の補強筋を加える）
	・図示（　　）	
入隅部分補強筋	●主筋と同径 ・主筋の１サイズアップ	・主筋と同ピッチ　（主筋に加えて主筋量と同量の補強筋を加える） ●主筋の1/2ピッチ　（主筋に加えて主筋量の２倍の補強筋を加える）
	・図示（　　）	
出隅受け部配　筋	●主筋と同径 ・主筋の１サイズアップ	・主筋と同ピッチ　（主筋に加えて主筋量と同量の補強筋を加える） ●主筋の1/2ピッチ　（主筋に加えて主筋量の２倍の補強筋を加える）
	・図示（　　）	

9.3　スラブ等の補強

（a）スラブ開口部の補強

スラブ開口部の補強は、詳細図による。詳細図がなければ次による。

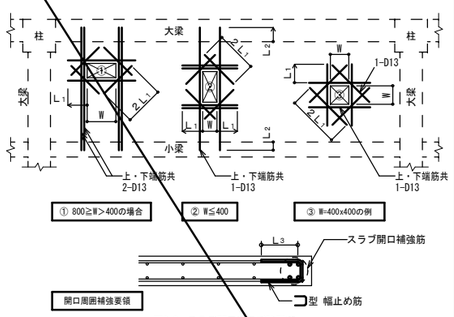


図9.8　スラブ開口部の補強配筋

（注）1．開口の最大寸法Wが100mm以下の場合は、補強筋不要とする。ただし、開口間隔は、3倍(隣接する開口寸法の平均)以上確保できる場合を原則とする。開口間隔がこれ以下の場合は、全体を１つの開口として補強筋を設け、個々の開口についても補強筋を設ける。

2．開口の最大寸法Wが1,000mmを超える場合は、監督員と協議の上補強する。

3．開口の最大寸法Wが400mmを超える場合は、短辺方向補強筋は梁内に L_2 定着すること。

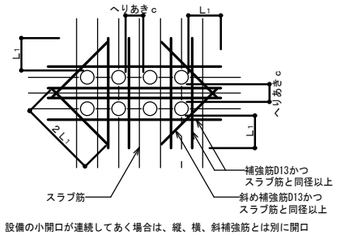
4．以下、開口の大きさに対応した補強筋は、表9.2 による。

表9.2　スラブ開口補強筋

開口の大きさ	短辺・長辺方向補強筋	角の補強筋
・開口の最大寸法　W≦　400	上端・下端共 各1-D13	1-D13
・開口の最大寸法　W≦　800	上端・下端共 各2-D13	1-D13
・開口の最大寸法　W≦1,000	上端・下端共 各4-D13	2-D13

5．床スラブ筋がD16以上の場合の補強筋は、床スラブ筋と同径筋を使用する。

6．型 幅止め筋は、床スラブ筋と同径・同間隔とする。



（注）1．設備の小開口が連続してあく場合は、縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強すること。
なお、孔と孔のへりあきcは 100mm以上とする。

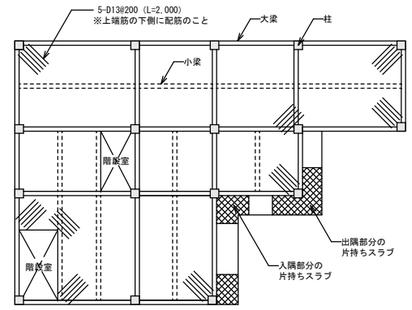
2．切断した鉄筋末端部と設備開口は、かぶり厚に注意すること。

3．一枚のスラブに設ける開口位置によっては、図9.8に準じて配筋すること。

4．事前に監理者と協議し、作業員へ周知徹底させること。
また、スラブ筋を無理に曲げたりしないこと。

図9.8　小開口を連続して設けた例

（b）床スラブの補強（屋根スラブについても同様）



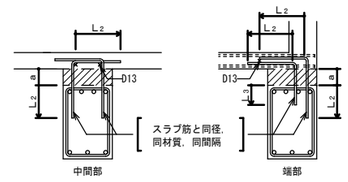
（注）1．　部分で床スラブの配筋が@100以下の場合は、補強筋は不要とする。

2．　部分の床スラブは、上端筋の間隔が@100以下となる様に床スラブ筋と同径筋により補強する。

図9.9　床スラブ（屋根スラブ）の補強

（c）土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、図9.10 による。
ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

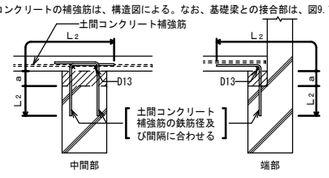


（注）a≦300の場合

図9.10　打継ぎ補強配筋

（d）土間コンクリートの補強

土間コンクリートの補強筋は、構造図による。なお、基礎梁との接合部は、図9.11による。



（注）a≦300の場合

図9.11　土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10.1　片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の配筋は、図10.1により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

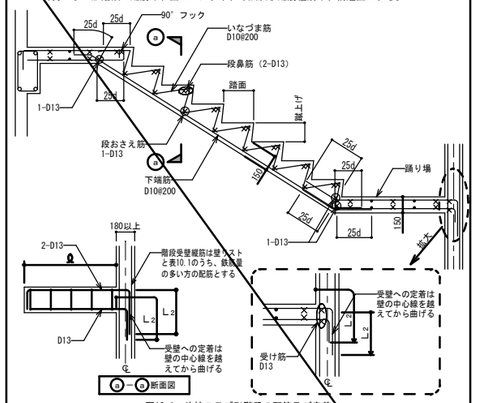


図10.1　片持スラブ形階段の配筋及び定着

表10.1　階段受壁の縦筋（Ω：片持階段の出寸法）

壁 厚	Ω≦1,200	1,200＜Ω≦1,500	1,500＜Ω≦1,800
180	D13@200 ダブル	D13@150 ダブル	D13@125 ダブル
200・220		D13@200 ダブル	D13@150 ダブル
250			D13@200 ダブル

（注）1．階段寸法は、詳細図、意匠図による。

2．段部及び踊り場の配筋は、図示による。図示の無い場合は、図10.1 による。

3．階段受け壁については、壁リストと表10.1のうち、配筋量の多い方を適用する。

10.2　二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段の配筋は、図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は構造図による。

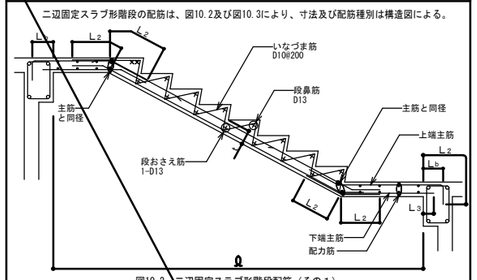


図10.2　二辺固定スラブ形階段配筋（その１）

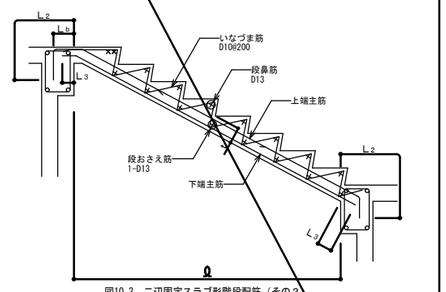


図10.3　二辺固定スラブ形階段配筋（その２）

表10.2　スラブ階段の厚さ及び配筋（Ω：スラブ階段の内法スパン）

適用	内法スパン	t	主　筋	配力筋
・	Ω≦3,000	150	D13@200 ダブル	D10@200 ダブル
・	3,000＜Ω≦3,500	150	D13@150 ダブル	D10@200 ダブル
・	3,500＜Ω≦4,000	180	D13@125 ダブル	D10@200 ダブル
・	4,000＜Ω≦4,500	180	D13@100 ダブル	D10@200 ダブル
・	4,500＜Ω≦5,000	200	D13・D16@125 ダブル	D10・D13@200 ダブル
・	5,000＜Ω≦5,500	220	D16@125 ダブル	D10・D13@200 ダブル
・	5,500＜Ω≦6,000	250	D16@125 ダブル	D13@200 ダブル

（注）1．階段寸法は、詳細図、意匠図による。

2．段部及び踊り場の配筋は、図示による。
図示の無い場合は、図10.2・図10.3 及び 表10.2 による。

構造担当 有限会社　藤木隆司建築設計事務所
１級建築士事務所　広島県知事登録　21(1)2157号
１級建築士登録　第126381号　構造一級　第5747号　藤木　隆司

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長東五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	構造関係共通図［配筋標準図その５］	縮尺 (A2:100% A3:70.7%) NS	S ——1007

11.1　増打ち部配筋要領

（a）一般事項

（1）構造図に記載のない増打ちを行う場合は、事前に監理者と協議すること。

（2）柱・梁の増打ち部に耐力壁が取り付く場合の増打ち配筋要領は、構造図による。

（3）増打ち寸法 a1,a2 が70mm未満の場合は、補強筋は不要とする。

（4）増打ち寸法 a,a1,a2 が200mmを超える場合の増打ち配筋要領は、構造図による。

（5）▨ 部は、増打ちコンクリートを示す。

（b）柱の増打ち

（1）梁、耐力壁およびスラブの鉄筋の定着長さは、本柱断面内で確保し、増打ち部は定着長さに算定しない。【図11.1.3】

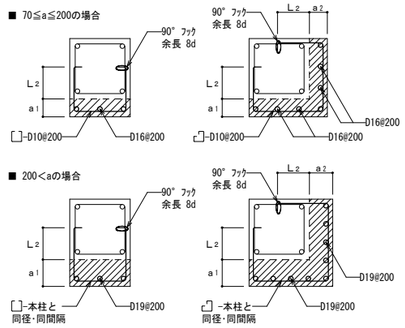


図11.1.1　柱の増打ち配筋要領

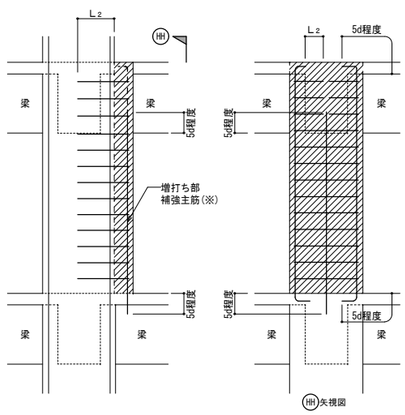


図11.1.2　柱増打ち部の補強主筋の定着要領

【(※) 補強主筋は、大梁を引き通して（又はL_2）定着しない】

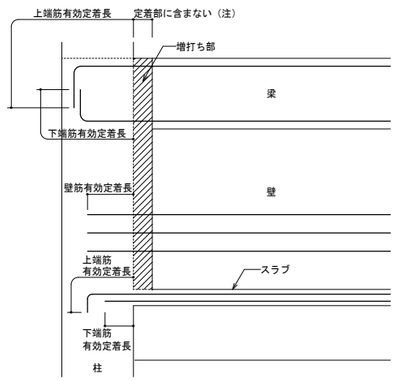


図11.1.3　各部有効定着長のとり方

（c）梁の増打ち

（1）小梁、耐力壁およびスラブの鉄筋の定着長さは、本梁断面内で確保し、増打ち部は定着長さに算定しない。【図11.2.3】

（2）増打ち部腹筋は、本梁と同径・同段数とする。

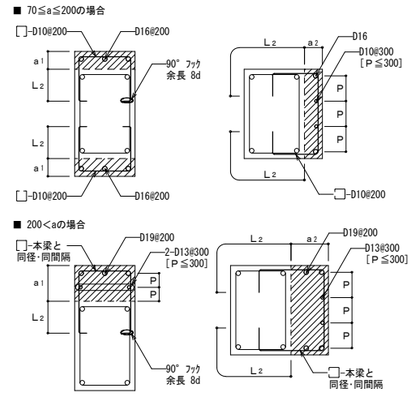


図11.2.1　梁の増打ち配筋要領

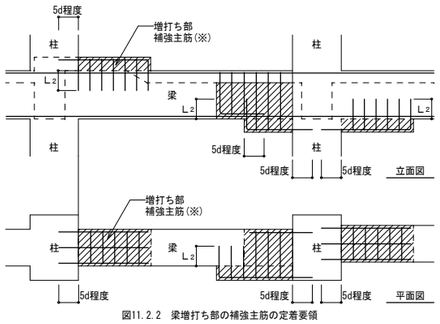


図11.2.2　梁増打ち部の補強主筋の定着要領

【(※) 補強主筋は、大梁を引き通して（又はL_2）定着しない】

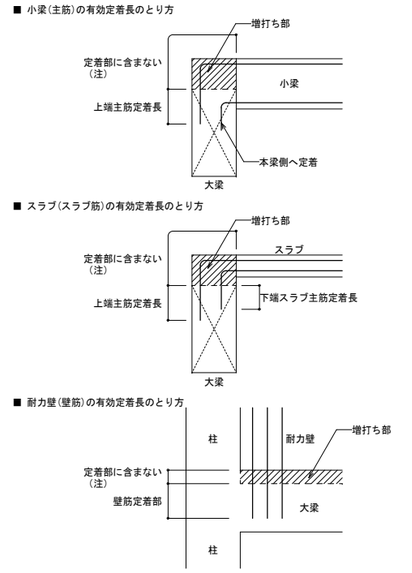


図11.2.3　各部有効定着長(大梁内)

（注）：『図11.2.1 梁の増打ち配筋要領【■ 200<aの場合】』に従って配筋した場合には含んで良い。

（d）梁の割増し幅

（1）梁と柱が同一面の場合には、下記のように本梁とは別に梁幅を割増しする。

（柱と梁が同幅の場合は、不要）

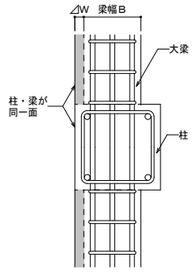


図11.3　梁幅の割増し

表11.1　梁の割増し幅一覧表

柱主筋	梁の割増し幅⊿W
D19以下	２０mm
D22～D29	３０mm
D32～D35	４０mm
D38～D41	５０mm

※上記の割増し幅⊿Wは、意匠上の増打仕上げとは異なる為、増打仕上げがある場合は、加算すること。

増打仕上げ＋⊿Wが70mmを超える場合は、図11.2.1のように補強筋を設けること。

（e）壁及びスラブの増打ち

（1）壁及びスラブの増打ちは、構造図に記載がない場合、図11.4 による。

（2）50<ａの場合で図示の無い場合は、監理者の承諾を得てを適用すること。

（3）ａ≦50の場合は、補強不要とする。

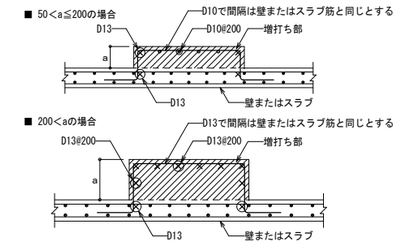


図11.4　壁及びスラブの増打ち補強要領

12.1　梁貫通孔

（a）一般事項

（1）梁貫通孔の補強は特記による。特記がなければ下記による。

（2）梁貫通孔補強筋の名称等は、図12.1.1 による。

（3）孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合は、これの外接円とする。

（4）孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3（Dは梁せい）の範囲には設けてはならない。【図12.1.2】

（5）孔は、柱面から原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。

（6）孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の３倍以上とする。【図12.1.3】

（7）縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。

（8）補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図12.1.4 による。

（9）孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、補強を省略することができる。

但し、孔両側のあばら筋が設計間隔を超える場合は、孔の両側にあばら筋を２巻き配筋する。

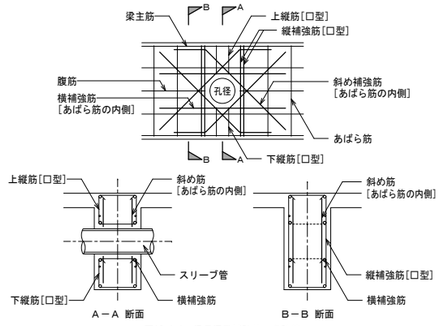


図12.1.1　梁貫通孔補強筋の名称等

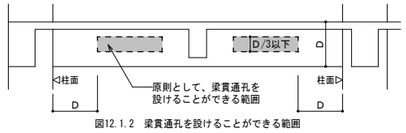


図12.1.2　梁貫通孔を設けることができる範囲

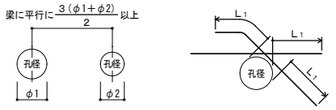


図12.1.3　貫通孔の間隔　　図12.1.4　補強筋の定着長さのとり方

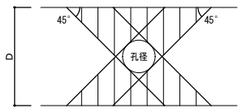


図12.1.5　他の貫通孔を設けない範囲

（b）人通孔（φ600～φ800）の補強要領

人通孔補強は、図示による。図示の無い場合は、監理者の承諾を得た上で、表12.1を用いる。

表12.1　人通孔補強要領

補強筋	地中梁	地中小梁
斜　筋	8-4-D25	4-2-D25
横　筋	4-D25	2-D25
縦　筋	3-Ⅲ-D16	2-Ⅲ-D16
上下縦筋	D16@100以内	D13@100以内

（注）配筋の表示の凡例は、表12.3による。

（c）一般の梁貫通孔（400φ以下）の補強要領

φ400以下の梁貫通孔の補強要領は、梁のあばら筋量【表12.5】に応じて設定し、補強種別は 表12.2、補強要領は 表12.3 による。

表12.2　補強種別

梁せい	梁幅	300					400					500				
	径	A	B	C	D	E-F	A	B	C	D	E-F	A	B	C	D	E-F
500	100	1	1	2	2	3	1	2	2	3	3	1	2	2	3	3
550	150	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
600	100	1	2	2	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
650	150	2	2	3	3	3	2	2	3	3	3	2	3	3	3	3
700	200	2	2	3	3	3	2	3	3	4	4	3	3	3	4	4
750 800 850	100	2	2	3	3	3	2	2	3	3	3	2	2	3	3	3
	150	2	3	3	4	4	2	3	3	4	4	2	3	3	4	4
	200	2	3	3	4	4	3	3	3	5	4	3	3	3	5	5
	250	3	3	3	5	5	3	3	3	5	5	3	3	4	5	5
900 950 1,000	100	2	3	3	4	4	2	3	3	4	4	2	3	3	4	4
	150	2	3	3	5	5	3	3	3	5	5	3	3	3	5	5
	200	3	3	3	5	5	3	3	3	5	5	3	3	4	5	5
	250	3	3	3	5	5	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6
	300	3	3	4	6	6	3	4	5	6	6	3	4	5	7	6
1,050 1,100 1,150	100	2	3	3	5	5	3	3	3	5	5	3	3	3	5	5
	150	3	3	3	5	5	3	3	3	5	5	3	3	3	5	6
	200	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6
	250	3	3	4	6	6	3	4	4	6	6	3	4	5	7	6
	300	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	5	5	7	7
1,200 以上	100	3	3	3	5	5	3	3	3	5	5	2	3	3	5	5
	150	3	3	3	5	6	3	3	3	6	6	3	3	4	6	6
	200	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6
	250	3	3	4	6	6	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6
	300	3	4	5	7	6	3	4	5	7	7	4	5	5	8	8
	350	3	4	5	7	7	4	5	5	8	8	4	5	6	8	8
	400	4	5	5	8	8	4	5	6	8	8	5	6	7	8	8

梁せい	梁幅	600					700					800				
	径	A	B	C	D	E-F	A	B	C	D	E-F	A	B	C	D	E-F
500	100	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
550	150	2	2	3	3	3	2	2	3	3	3	2	3	3	4	3
600	100	2	2	3	3	3	2	2	3	3	3	2	2	3	3	3
650	150	2	3	3	4	3	3	3	3	4	4	3	3	3	4	4
700	200	3	3	3	5	4	3	3	3	5	4	3	3	4	6	5
750 800 850	100	2	2	3	4	4	2	2	3	4	4	2	2	3	4	4
	150	3	3	3	5	4	3	3	3	5	4	3	3	3	5	5
	200	3	3	4	6	5	3	3	4	6	5	3	3	4	6	5
	250	3	3	5	6	5	3	4	5	6	6	3	4	5	7	6
900 950 1,000	100	2	3	3	5	4	2	3	3	5	5	2	3	3	5	5
	150	3	3	3	6	5	3	3	3	6	5	3	3	4	6	5
	200	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6	3	3	5	6	6
	250	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	4	4	6	7	6
	300	4	4	6	7	6	4	5	6	8	7	5	5	6	8	7
1,050 1,100 1,150	100	3	3	3	5	5	3	3	3	6	5	3	3	3	6	5
	150	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6
	200	3	3	5	7	6	3	3	5	7	6	3	4	5	7	6
	250	3	4	5	7	6	3	4	6	7	7	4	5	6	8	7
	300	4	5	6	8	8	4	5	6	8	7	5	5	6	8	7
	350	5	5	6	8	8	5	6	7	8	7	5	6	7	8	7
1,200 以上	100	3	3	3	6	5	3	3	3	6	6	3	3	3	6	6
	150	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6
	200	3	3	5	7	6	3	3	5	7	6	3	4	5	7	6
	250	3	4	5	7	7	4	4	6	8	8	4	5	6	8	8
	300	4	5	6	8	8	4	5	6	8	8	5	5	6	8	8
	350	5	6	7	8	8	5	6	7	8	8	6	6	7	8	8
	400	5	6	7	8	8	6	6	8	8	8	6	7	8	8	8

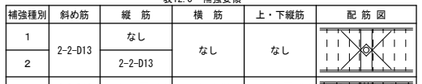
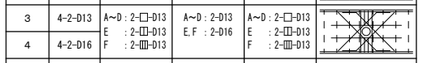
（注）1．A～Fは、表12.5の梁のあばら筋を示す。

2．1～7の数字は、表12.3における補強種別を示す。

数字が8の場合の補強は、特記による。

3．梁せい、梁幅、あばら筋、貫通孔径が上表の中間にある場合は、補強量の多い方を採用する。

表12.3　補強要領

補強種別	斜め筋	縦　筋	横　筋	上・下縦筋	配 筋 図
1	2-2-D13	なし	なし	なし	
2		2-2-D13			
3	4-2-D13	A～D：2-□-D13 E　：2-Ⅲ-D13 F　：2-Ⅲ-D13	A～D：2-D13 E,F：2-D16	A～D：2-□-D13 E　：2-Ⅲ-D13 F　：2-Ⅲ-D13	
4	4-2-D16				
5	4-2-D16	A～D：2-□-D13 E　：2-Ⅲ-D13 F　：2-Ⅲ-D13	A～D：2-D13 E,F：2-D16	A～D：2-□-D13 E　：2-Ⅲ-D13 F　：2-Ⅲ-D13	
6	4-2-D19				
7	4-2-D22				
8	4-2-D22	2-Ⅲ-D13	4-D19	2-Ⅲ-D13	

（注）1．A～Fは、表12.5の梁のあばら筋を示す。　－－－－：一般部のあばら筋を示す。

表12.4　配筋の表示

凡　例	配　筋
・斜め筋　4-2-D22	４本のD22が２面入ることを示す
・縦　筋　2-Ⅲ-D13	４本のD13があばら筋状に孔の両側に２本ずつ入ることを示す
・横　筋　2-D16	孔の上下の部分にそれぞれD16が２本ずつ入ることを示す
・上下縦筋　3-□-D13	孔の上下の部分にそれぞれD13のあばら筋が３本入ることを示す

表12.5　梁のあばら筋

A	□-D10@150 □-D10@200		D	□-D13@100 , □-D13@125 □-D16@150
B	□-D10@125 □-D13@200		E	Ⅲ-D13@100 □-D16@100
C	□-D10@100 □-D13@150		F	Ⅲ-D13@100 Ⅲ-D16@100

（d）既製品を用いる場合

梁貫通孔補強材として、既製品を使う場合は、『一般財団法人　日本建築センター』の評価を取得した製品を用い、構造計算等を事前に監理者に提出する。

12.2　コンクリートブロック帳壁との取合い

（a）控壁は、次による。

（1）控壁の配置は、構造図による。

（2）配筋は、図12.2.1 による。

（3）コンクリートブロック内の配筋は、間仕切り壁の場合、縦横共 D10@400とする。

但し、その使用部分が外壁となる場合は、縦筋は D13@400とする。

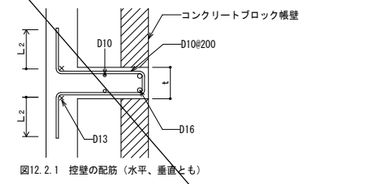


図12.2.1　控壁の配筋（水平、垂直とも）

（b）帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図12.3による。

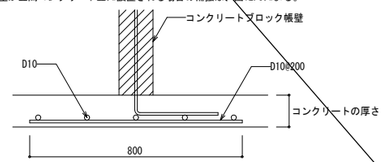


図12.2.2　壁付き土間コンクリートの補強配筋

12.3　擁壁

宅地造成等規制区域外での高さ２m以下の擁壁の定着長さは、図12.5により

コンクリートの厚さ及び配筋は、構造図による。

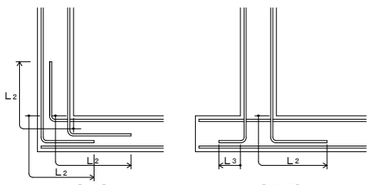


図12.5　擁壁の鉄筋定着長さのとり方

構造担当 有限会社　藤木隆司建築設計事務所

１級建築士事務所　広島県知事登録　21(1)2157号

１級建築士登録　第126381号　構造一級　第5747号　藤木　隆司

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	構造関係共通図［配筋標準図その６］ 縮尺 (A2:100%　A3:70.7%) NS	S ――1008

構造関係共通図［鉄骨標準図］

1．一般事項

1.1 目的

本鉄骨標準図は、建築構造図に示す鉄骨の精度標準、高力ボルト接合、溶接接合等を規定したものである。
設計図、構造特記仕様書に記載がないものは、本標準図等によるものとする。

1.2 適用範囲

本標準図の適用範囲は、鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨部分並びに付属建物の鉄骨部分とする。
本標準図内で準拠する技術関連図書は、最新版による。

技術関連図書

- 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　『 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）』
- 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　『 建築工事監理指針 』
- 公共建築協会　『 建築鉄骨設計基準及び同解説　平成１０年版 』
- 日本建築学会　『 建築工事標準仕様書　ＪＡＳＳ６　鉄骨工事 』
- 日本建築学会　『 鉄骨工事技術指針　工場製作編 』
- 日本建築学会　『 鉄骨精度測定指針 』
- 日本建築学会　『 高力ボルト接合設計施工ガイドブック 』
- 日本建築学会　『 鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説 』
- 日本建築学会　『 鋼構造設計規準 』
- 日本建築学会　『 鋼構造接合部設計指針 』
- 日本建築センター　『 冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアル 』
- 建設省住宅局建築指導課監修　『 ＳＣＳＳ－Ｈ９７　鉄骨構造標準接合部　Ｈ形鋼編 』

1.3 優先順位

設計図書中の構造関係図書に於ける優先順位は、次の通りとする。

① 現場説明に対する質問回答書
② 現場説明書（見積要領書のある場合はそれを含む）
③ 工事基本仕様書
④ 構造特記仕様書
⑤ 設計図（本基準図以外）
⑥ 構造関係共通図（鉄骨標準図）
⑦ 適用共通仕様書・標準仕様書

1.4 材料（使用鋼材）

構造特記仕様書及び設計図による。

1.5 製作工場の選定

製作工場の加工能力は、構造特記仕様書に定めるグレード以上とする。

工場分類（グレード区分と適用範囲）

国土交通大臣認定工場		グレード	S	H	M	R	J
指定工場		指定工場	（指定工場名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）				
建物規模	建物階数		制限なし	制限なし	制限なし	5階以下	3階以下
	延床面積		制限なし	制限なし	制限なし	3,000m²以内	500m²以内
	建物高さ		制限なし	制限なし	制限なし	20m以下	13m(軒高10m)以下
使用鋼材	鋼材種類		制限なし	520Nまで	490Nまで	490Nまで	400N
	鋼材板厚		制限なし	60mm以下	40mm以下	25mm以下	16mm以下
	通しダイアフラム		制限なし	70mm以下	50mm以下	32mm以下	490Nまで 22mm以下
	ベースプレート		制限なし	制限なし	制限なし	50mm以下	490Nまで 50mm以下

1.6 検　査

（a）一般事項
鉄骨工事の中間検査は、受注者が製作工場において製作途上に実施する検査をいう。
鉄骨工事の受入検査は、受注者が鉄骨製品を受入れるにあたって実施する検査をいう。

（b）検査実施者
中間検査，受入検査を実施する受注者の担当技術者は、一級建築士又は一級建築施工管理技士の資格を有する者とする。

（c）検査計画書
中間検査及び受入検査に先立って、検査計画書を作成し、監督員の承諾を受ける。
検査を依頼する第三者検査機関は、『第三者検査機関の選定』による。

（d）検査報告書
社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する。

1.7 第三者検査機関の選定

施工業者は、下記の選定条件に基づき鉄骨第三者検査機関を選定のうえ、経歴書、資格者数資格者名簿を提出し、監督員(監理者)の承諾を得ること。

（a）選定
中間検査・受入検査を依頼する第三者機関は、（一社）日本溶接協会『溶接構造物非破壊検査事業者の技術認定（ＣＩＷ認定）』の超音波探傷検査部門（ＵＴ）の認定を取得した事業者から選定し、監督員(監理者)の承諾を受ける。
第三者検査機関の選定条件
CIW認定検査事業者
・ A種　・ B種以上　※ C種以上　・ D種以上

（b）契約
第三者検査機関との契約は受注者が行い、検査費用は受注者の負担とする。

（c）検査実施者
検査実施者は、（一社）日本鋼構造協会・建築鉄骨品質管理機構認定の『建築鉄骨超音波検査技術者』の資格を有する者とする。

（d）検査報告書
各検査の途中経過報告（速報）及び検査終了後の報告書は、速やかに作成し、監督員(監理者)に提出する。

2．工作一般

（a） 鉄骨製作及び施工に先立って、『鉄骨工作図』，『鉄骨工事工場製作要領書』を提出し、監督員(監理者)の承諾を得る。
（b） 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
（c） 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする。

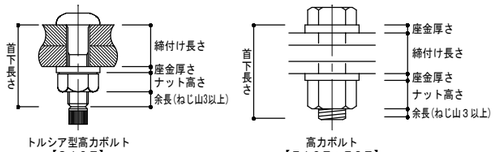
3．高力ボルト接合等

3.1 ボルトの種類

構造特記仕様書及び設計図による。

3.2 高力ボルトの長さ

（a） 高力ボルトの長さは、締付け長さに表3.1の値を加えたものを標準長さとする。
（b） 特記以外は、全て S10T（トルシア形高力ボルト）又は F10T とする。
（c） 本締めに使用するボルトと仮締めボルトの兼用はしてはならない。
（d） ボルトの接合面の処理は、締め付け摩擦面を平グラインダー掛け等を行い、黒皮を除去して一様に赤錆を自然発生させる。ただし、ショットブラスト等を行った場合はこの限りでない。締付けは１次締付け後、マーキングを入れてから本締めをする。
（e） 亜鉛メッキボルトの場合は、全て F8T とする。



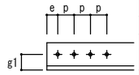
トルシア型高力ボルト【Ｓ１０Ｔ】　　高力ボルト【Ｆ１０Ｔ・Ｆ８Ｔ】

表3.1　高力ボルトの締付け長さに加える長さ　［単位：mm］

ねじの呼び	M16	M20	M22	M24
F10T・F8T	30	35	40	45
S10T	25	30	35	40

3.3 縁端距離及びボルト間隔

（a） 縁端距離及びボルト間隔

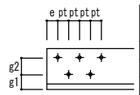


［単位：mm］

呼び径			M16	M20	M22	M24
孔径			18	22	24	26
ピッチ	標準	p	60	60	60	70
	最小		40	50	55	60
はしあき		e	40	40 (50)	40 (55)	45 (60)
最小縁端距離	せん断縁，手動ガス切断縁		28	34	38	44
	圧延縁，自動ガスせん断縁等		22	26	28	32

（ ）内は、ボルトが応力方向に３本以上並ばない場合を示す。

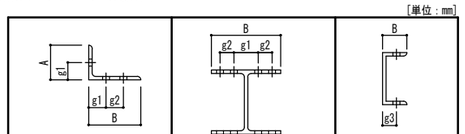
（b） 千鳥打ちのゲージ及び間隔



［単位：mm］

ゲージ	千鳥打ちのゲージ及び間隔 pt			
g2	M16	M20	M22	M24
35	50			65
40	45			60
55	25			45

（c） 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径



［単位：mm］

A or B	g1	g2	最大軸径	B	g1	g2	最大軸径	B	g3	最大軸径
**50	30		16	**100	60		16	**50	30	16
60	35		16	125	75		16	65	35	20
65	35		20	150	90		22	70	40	20
70	40		20	175	105		22	75	40	22
75	40		22	200	120		24	80	45	22
80	45		24	250	150		24	90	50	24
90	50		24	*300	150	40	24	100	55	24
100	55		24	350	140	70	24			
125	50	35	24	400	140	90	24			
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

＊　B=300は千鳥打ちとする。
＊＊印欄のgおよび最大軸径の値は強度上支障がないとき最小縁端距離の規定に関わらず用いることができる。

3.4 その他

母屋、胴縁類の取付け用ボルトを普通ボルト接合とする場合は、二重ナットとする。

4．溶接接合

4.1 共通事項

（a） 溶接方法
溶接工法の種類は、被覆アーク溶接(アーク手溶接)、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフシールドアーク半自動溶接、サブマージアーク自動溶接及びアークスタッド溶接とする。

（b） 溶接継手
溶接継手の種類は、完全溶込み溶接、隅肉溶接、部分溶込み溶接及びフレア溶接とし、完全溶込み溶接の継手形状の種類は、突合わせ継手、Ｔ形継手及びかど継手とする。

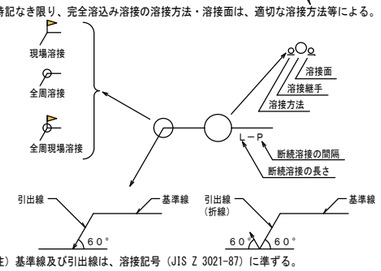
（c） 溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類別記号

分類			記号
溶接方法	被覆アーク溶接(アーク溶接)		H
	ガスシールドアーク半自動溶接		
	セルフシールドアーク半自動溶接		
	サブマージアーク自動溶接		A
	アークスタッド溶接		SW
	エレクトロスラグ溶接		E
溶接継手	完全溶込み溶接	突合わせ継手	B
		Ｔ形継手	T
		かど継手	L
	隅肉溶接		F
	部分溶込み溶接		P
	フレア溶接		FL
溶接面	片面溶接		1
	両面溶接		2

（d） 溶接の補助記号

区分	補助記号
現場溶接	⚑
全周溶接	○
全周現場溶接	⚑○
断続溶接の長さ及び間隔	L－P

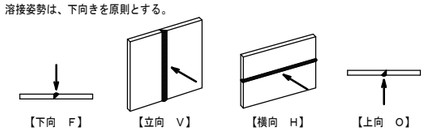
（e） 溶接記号の記載方法
溶接記号の記載方法は、下図またはＪＩＳによる。
但し、溶接方法又は溶接面の指定を行わない場合は、溶接継手のみの記入とする。
尚、ＪＩＳによる場合の完全溶込み溶接に対する溶接継手の記号は、⟨ で代表させる場合がある。
※特記なき限り、完全溶込み溶接の溶接方法・溶接面は、適切な溶接方法等による。



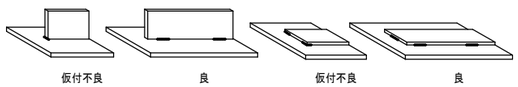
（注）基準線及び引出線は、溶接記号（JIS Z 3021-87）に準ずる。

（f） 溶接技能者
溶接技能者は、施工する溶接に適応するJIS Z 3801(手溶接)又はJIS Z 3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。

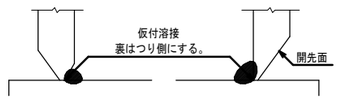
（g） 溶接姿勢
溶接姿勢は、下向きを原則とする。



（h） 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。
（1） 仮付位置
組立て溶接は、溶接の始，終端，隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。



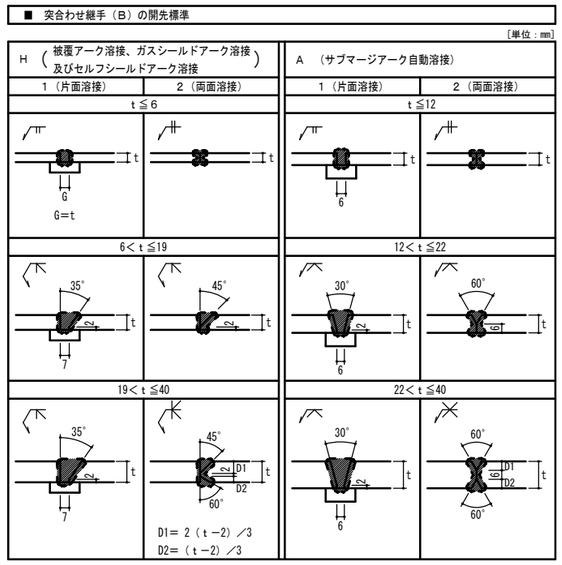
（2） 完全溶込み溶接部の仮付溶接は、必ず裏はつり側に施工する。



4.2 完全溶込み溶接開先標準

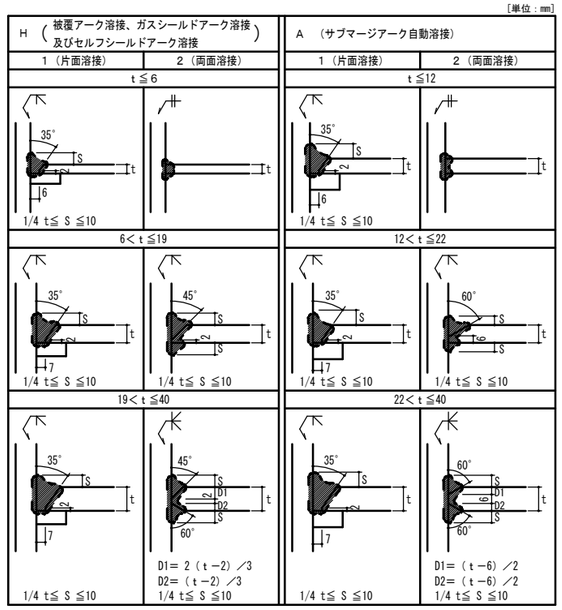
■ 突合わせ継手（B）の開先標準

［単位：mm］



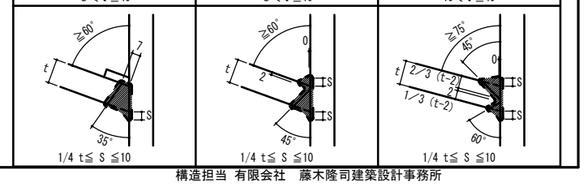
■ Ｔ型継手（T）の開先標準

［単位：mm］



■ 部材が直交しない場合の開先標準（ハンチ部等のＴ型継手）

［単位：mm］



構造担当　有限会社　藤木隆司建築設計事務所
１級建築士事務所　広島県知事登録　21(1)2157号
１級建築士登録　第126381号　構造一級　第5747号　藤木　隆司

訂正	月．日	

協同組合建築設計団ＳＯＵ間
1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号
広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号

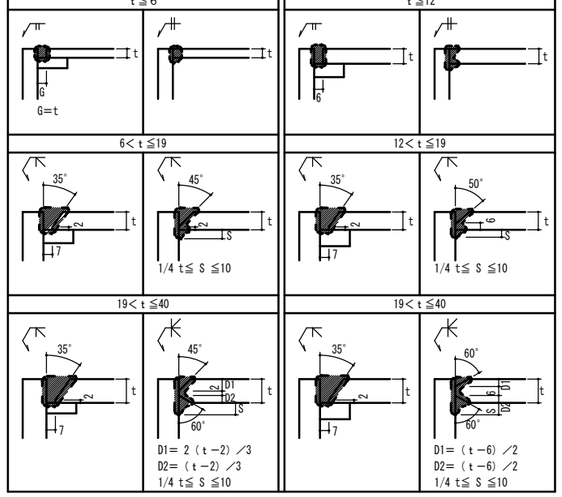
1級建築士 前岡 正伸
第234595号

設計年月日	設計	検図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
	製図	担当	承認年月日	図面名称	構造関係共通図［鉄骨標準図その１］ 縮尺 (A2:100%　A3:70.7%) NS	S ——1009

■ かど継手（L）の開先標準

［単位：mm］

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）		A（サブマージアーク自動溶接）	
1（片面溶接）	2（両面溶接）	1（片面溶接）	2（両面溶接）
t≦6		t≦12	
6＜t≦19		12＜t≦19	
19＜t≦40		19＜t≦40	

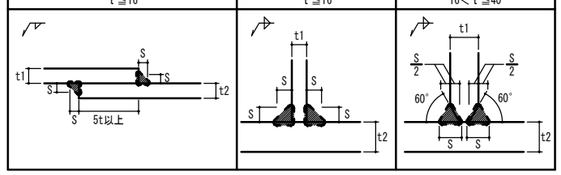


4.3 隅肉溶接標準

■ 隅肉溶接（F）の開先標準

［単位：mm］

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）		
1（片面溶接）	2（両面溶接）	
t≦16	t≦16	16＜t≦40



■ 隅肉溶接サイズ

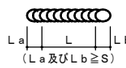
注）tはt1，t2の薄い方の板厚とする。 ［単位：mm］

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
s	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

注）隅肉溶接の長さ

設計図書（図面及び仕様書）に示す断続隅肉溶接長さは、右図の有効長さ（L）とし、隅肉のサイズ（S）の10倍以上とする。

ただし、有効長さは、ビードの始点（La）及びクレーター（Lb）を除いた部分の長さとする。

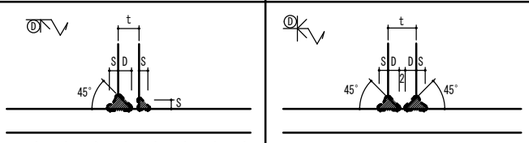


4.4 部分溶込み溶接（P）開先標準

■ 部分溶込み溶接（P）開先標準

［単位：mm］

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）	
1（片面溶接）	2（両面溶接）
12≦t≦32	16≦t≦32



t	12	16	19	22	25	28	32
D	10	11	12	13	13	14	15

1/4 t≦ S ≦10

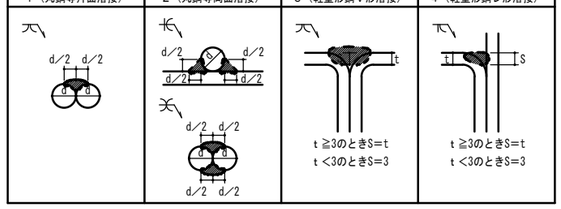
D＝（t－2）／2
1/4 t≦ S ≦10

4.5 フレア溶接標準

■ フレア溶接（FL）の標準

［単位：mm］

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）			
1（丸鋼等片面溶接）	2（丸鋼等両面溶接）	3（軽量形鋼V形溶接）	4（軽量形鋼レ形溶接）
		t≧3のときS＝t t＜3のときS＝3	t≧3のときS＝t t＜3のときS＝3



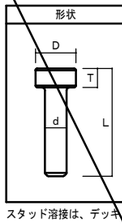
4.6 その他の溶接標準

■ スタッド溶接

1） スタッド溶接は、アークスタッド溶接方式による直接溶接とし、溶接姿勢は下向きを原則とする。

2） スタッド溶接用材料は、JIS B 1198（頭付スタッド）の規格品とし、適用呼び名は、13mm、16mm、19mm及び22mmの4種類とする。

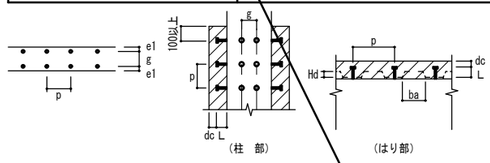
スタッド材の標準形状及び寸法

形状	呼び名	寸法 軸径d [mm]	頭部直径D [mm]	頭部厚T [mm]	溶接後の長さL [mm]
	φ13	13.0	22.0	10.0	80・100・120
	φ16	16.0	29.0	10.0	
	φ19	19.0	32.0	10.0	80・100・130・150
	φ22	22.0	35.0	10.0	

3） スタッド溶接は、デッキプレート上から行ってはならない。ただし、デッキプレート厚1.6mm以下で、あらかじめ施工試験で良好な溶接が得られることが確認された場合は、この限りではない。

4） スタッドの間隔、ゲージ等の寸法

項目		規定
最小ピッチ(材軸方向の間隔)	(p)	呼び名の7.5倍以上かつ600mm以下
最小ゲージ(材軸と直角方向の間隔)	(g)	呼び名の5倍以上
最小へりあき (鉄骨梁フランジ縁と頭付きスタッドの軸心との距離)	(e1)	40mm以上
デッキプレートの溝の平均幅	(ba)	呼び名の2.5倍以上
デッキプレートの高さ	(Hd)	75mm以下
呼び長さ	(L)	呼び名の4倍以上。 デッキプレートが介在する場合は、呼び名の4倍以上で、かつ、デッキプレート高さ(Hd)に30mmを加えたもの以上とする。
コンクリート最小かぶり厚	(dc)	30mm以上。土に接する部分及び外壁仕上なしの部分は、40mm以上とする。



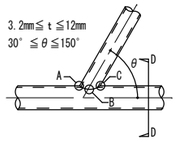
■ 鋼管分岐継手

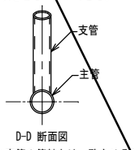
鋼管分岐継手における支管は、主管外径より細径のものを使用し、その開先標準は下図による。

ただし、自動機械により開先加工を行う場合は、これ以外の形状をとることができる。

適用管厚 3.2mm≦t≦12mm

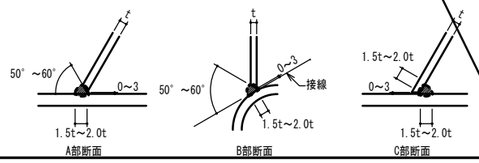
交 角 30°≦θ≦150°





D-D 断面図

主管の管軸と支管の管軸とは一致させること。



■ 焼抜き栓溶接

各デッキメーカーの設計施工標準などで規定があるため、参考とする。

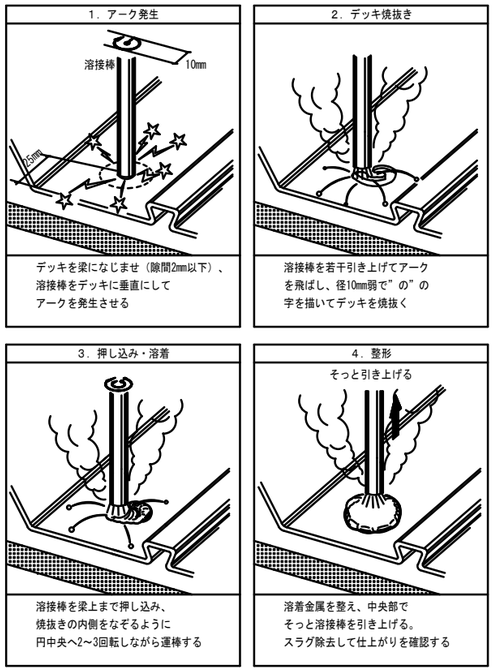
1）焼抜き栓溶接［SPW］－アーク手溶接－

項目		
溶接作業者資格		JIS Z 3801 基本級以上の有資格者
材料及び設備	溶接棒及び溶接材料	JIS Z 3211のE4316、E4916 に定める 低水素系被覆アーク溶接棒 φ4mm以上
	溶接機	交流アーク溶接機 AW250A以上 エンジン溶接機 230A以上
	附属設備	ケーブル類：38mm²以上
	電源容量	溶接機１台につき75Aヒューズ
標準溶接条件	デッキプレート板厚 (mm)	1.2～1.6mm
	梁フランジ板厚 (mm)	6.0mm以上
	溶接電流 (A)	190～230A（標準210A）
	溶接電圧 (V)	――
	アークタイム (sec)	8～12秒
余盛り径 (mm)		18mm以上

2）自動焼抜き栓溶接［A.P.W］ －CO_2アークスポット溶接－

項目					
溶接作業者資格		JIS Z 3841 基本級以上の有資格者			
材料及び設備	溶接棒及び溶接材料	ワイヤ：YGW11, 12 φ1.2mm ガス：CO_2			
	溶接機	専用溶接機（350A）			
	附属設備	ﾌﾞｯｼｭﾌｨｰﾀﾞｰ、ｹｰﾌﾞﾙ類、ｱｰｸｽﾎﾟｯﾄｶﾞﾝ、ﾊｽﾞﾙ、ﾚｷﾞｭﾚｰﾀ			
	電源容量	溶接機１台につき60Aヒューズ ｴﾝｼﾞﾝ発電機35KVA以上			
標準溶接条件	デッキプレート板厚 (mm)	1.2		1.6	
	梁フランジ板厚 (mm)	6～9未満	9以上	6～9未満	9以上
	溶接電流 (A)	300～320	300～320	300～320	300～320
	溶接電圧 (V)	33～35	33～35	34～36	34～36
	アークタイム (sec)	3.0～4.0× １度打ち	3.5～4.0× ２度打ち	3.5～4.5× １度打ち	4.0～4.5× ２度打ち
余盛り径 (mm)		25±3mm			

3）焼抜き栓溶接作業要領



5．溶接施工

5.1 溶接施工一般

（a） 溶接部の形状および溶接欠陥

溶接の外観形状は、付則6『鉄骨精度検査基準』による。溶接部には、割れ，溶接不良，スラグ巻込み，ブローホールなど継手の性能を損なうような有害な欠陥があってはならない。

（b） 溶接条件

溶接は、溶接技術者の管理のもとで行い、溶接部の性能を確保するため、適切な溶接電流，アーク電圧，溶接速度，積層法，パス間温度，ガス流量などを選定して施工する。

（c） 溶接姿勢

溶接を適切な姿勢を行うために作業架台やポジショナを設置し、有効活用する。

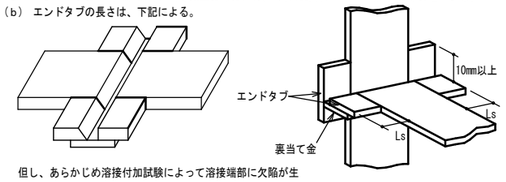
（d） 予 熱

溶接の施工では予熱の必要な場合があり、鋼材の化学成分，鋼材の板厚，継手の拘束度，鋼材の温度，溶接入熱量，溶接金属の拡散性水素量などを考慮して適切な条件を選定する。

5.2 エンドタブ

（a） エンドタブの材質は、母材と同等以上のものとし、形状は母材と同厚・同開先のものを用いる。

（b） エンドタブの長さは、下記による。



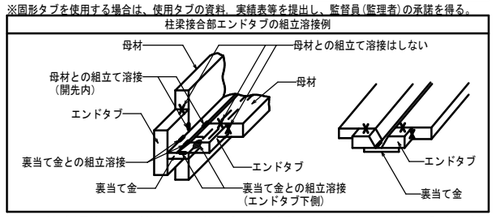
但し、あらかじめ溶接付加試験によって溶接端部に欠陥が生じないことが確認された材質及び形状のものを用いる場合は、この限りではない。

溶接付加試験とは、「新エンドタブ工法（代替エンドタブ工法及びエンドタブ省略化工法）に関する標準化方策」（日本鋼構造協会）にもとづいて実施するものをいう。

溶接方法	エンドタブ長さ Ls
手溶接	35mm以上
半自動溶接	38mm以上
自動溶接	70mm以上

※固形タブを使用する場合は、使用タブの資料，実績表等を提出し、監督員(監理者)の承諾を得る。

柱梁接合部エンドタブの組立溶接例



（c） エンドタブは原則として、溶接終了後、母材より5～10mm程度残して切断し、グラインダーで平滑に仕上げる。

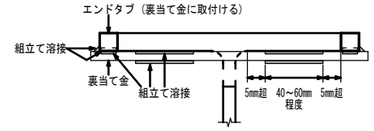
5.3 裏当て金

（a） 裏当て金の材質は、母材と同等とする。

（b） 柱梁接合部の裏当て金の組立て溶接は、下図の範囲内で行う。

梁フランジの両端から5mm以内及びフィレット部のR止まり，又は隅肉溶接止端部から5mm以内の位置には行わない。

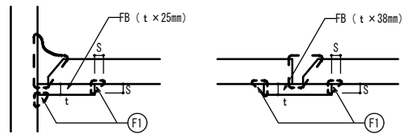
完全溶込み位置溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。



（c） 裏当て金の組立て用の隅肉溶接は、サイズは4～6mmを1パスとし、長さ40～60mm程度とする。

尚、溶接間隔は、溶接部に支障を与えない程度とする。

（d） 裏当て金の厚さ及び組立て溶接の溶接サイズは、下記による。



溶接方法	裏当て金の厚さ t
手溶接	6mm以上
半自動溶接	9mm以上
自動溶接	12mm以上

裏当て金の厚さ	溶接サイズ S
t≦9	5mm
t＞9	9mm

5.4 裏はつり

（a） 完全溶込み溶接における両面溶接は、裏面側の初層溶接を行う前に、表面側の溶接の健全な溶接金属部分が現れるまで裏はつりを行う。

但し、サブマージアーク自動溶接においては、超音波探傷検査などで完全溶込みが得られたことが確認できる場合は、監督員(監理者)の承諾を受けて、裏はつりを省略できる。

構造担当 有限会社 藤木隆司建築設計事務所
１級建築士事務所 広島県知事登録 21(1)2157号
１級建築士登録 第126381号 構造一級 第5747号 藤木 隆司

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所 広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設計	検図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事		図面番号
						製図	担当	承認年月日	図面名称	構造関係共通図［鉄骨標準図その２］	縮尺 (A2:100% A3:70.7%) NS	S ――1010

26 09 25: 10: 1010_構造関係共通図［鉄骨標準図その２］.jww

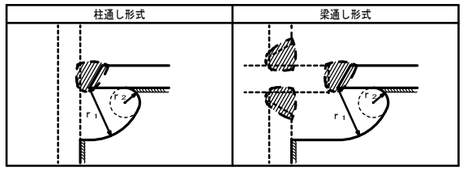
5.5 スカラップ

（a） 構造図に記載のない場合、H形断面材端部の開先を含めたスカラップの加工は、下記の ｉ）又は ii）による。

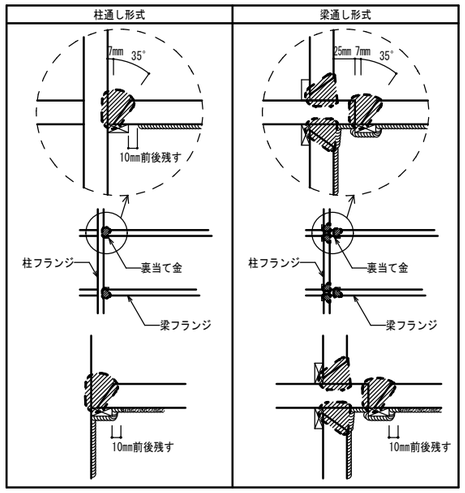
ｉ） 改良型スカラップ（複合円スカラップ）工法

スカラップの円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工する。

r_1は35mm程度，r_2は10mm程度とする。複合円はなめらかに仕上げる。



ii） ノンスカラップ工法

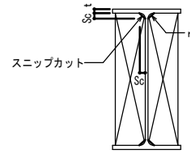


5.6 スニップカット

（a） 溶接のコーナー部をスニップカット（Sc）で処理する場合の標準寸法は、鋼板の板厚に応じて材の板厚に応じて下表によるものとし、スニップカット部は、溶接により埋めることとする。
ただし、既製形鋼のスニップカットは、Sc=ｒ+2 により求めるものとする。

［単位：mm］

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15



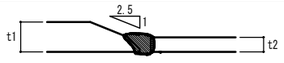
5.7 溶接部分の段差（板厚の異なる突合せ継手）

（a） クレーンガーターのように低応力高サイクル疲労を受ける突合せ継手は、図(1)のように厚い方の材を1/2.5以下の傾斜に加工し、開先部分で薄い方と同一の高さにする。

（b） 上記以外で板厚差による段違いｅが薄い方の板厚の1/4を超える場合、あるいは10mmを超える場合は、図(2)のようにＴ字継手に準じた高さの余盛りを設ける。

（c） 板厚差による段違いｅが薄い方の板厚の1/4以下かつ10mm以下の場合は、図(3) のように、溶接表面が薄い方の材から厚い方の材へなめらかに移行する。

■ 図(1) 傾斜加工



低応力高サイクル疲労を受ける継手
（注）1/2.5以下のテーパー加工

■ 図(2) Ｔ継手に準じた余盛り

板厚差が1/4を超える場合あるいは10mmを超える場合

■ 図(3) なめらかに溶接

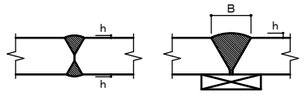
板厚差が1/4以下の場合かつ10mm以下

5.8 余盛り高さ

（a） 完全溶込み溶接部（突合せ継手，かど継手）隅肉溶接部及びフレア溶接の溶接部は、余盛りを行う。

（b） 余盛りは、応力集中を避けるため過度の余盛りをせず、母材表面から滑らかに連続する形状とする。

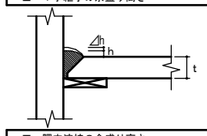
■ 突合せ継手の余盛り高さ



≪限界許容差≫

B	余盛り高さ（h）
B＜15mm	0＜h≦3mm
15mm≦B＜25mm	0＜h≦4mm
25mm≦B	0＜h≦(4/25)B mm

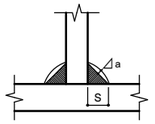
■ Ｔ字継手の余盛り高さ



≪限界許容差≫

t	h	⊿h
t ≦40mm	h＝t /4 mm	0＜⊿h≦7
t ＞40mm	h＝10mm	0＜⊿h≦(t /4)-3

■ 隅肉溶接の余盛り高さ



≪管理許容差≫
0≦⊿a ≦0.4S かつ 4mm以下

≪限界許容差≫
0≦⊿a ≦0.6S かつ 6mm以下

5.9 鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱（kJ/cm）	パス間温度（℃）
400N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570Mpa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11,15	40以下	350以下
		YGW-18,19	30以下	450以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
			30以下	450以下
	JIS Z 3214	引張強さ570N/mm²以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3315	YGA-50W,50P		
490N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570Mpa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11,15	30以下	250以下
		YGW-18,19	40以下	350以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30以下	250以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
	JIS Z 3214	引張強さ570N/mm²以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3315	YGA-50W,50P		
520N級鋼	JIS Z 3312	YGW-18,19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		
400N級STKR BCR及びBCP	JIS Z 3312	YGW-11,15	30以下	250以下
		YGW-18,19	40以下	350以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30以下	250以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
490N級STKR 及びBCP	JIS Z 3312	YGW-18,19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		

5.10 気温，天候，その他

（a） 気温－5℃を下回る場合は、溶接を行ってはならない。気温が－5℃から5℃においては、接合部より100mmの範囲の母材部分を適切に加熱すれば溶接することができる。

（b） 風の強い日は、遮風対策をして溶接を行う。雨天または特に湿度の高い場合は、たとえ屋内であっても、水分が母材の表面及び裏面付近に残っていないを確認してから溶接を行う。
尚、ガスシールドアーク半自動溶接の場合、風速が2m/s以上ある場合には適切な防風処置を講じた場合のみ溶接を行うことができる。

6．塗 装

（a） コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。
① 工事現場溶接を行う箇所及びそれに隣接する両側100mm以内かつ超音波探傷検査に支障を及ぼす範囲
② 高力ボルト摩擦接合部の摩擦面
③ コンクリートに埋め込まれる部分
④ ピン，ローラーなど密着する部分や回転，摺動(しゅうどう)面で削り仕上げした部分
⑤ 組立てによって肌合せとなる部分
⑥ 密閉となる内面

（b） 塗装面の素地調整は、動力工具を主体とし、手工具を併用しさび落としを行う。

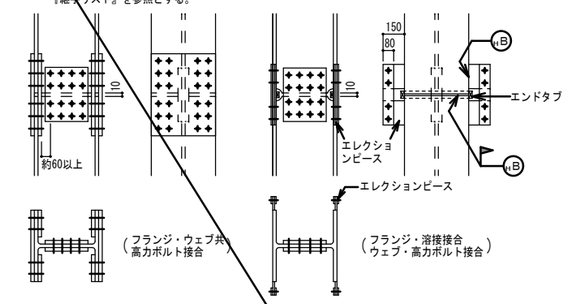
（c） 現場における高力ボルト接合部は、素地調整を入念に行う。

7．継 手

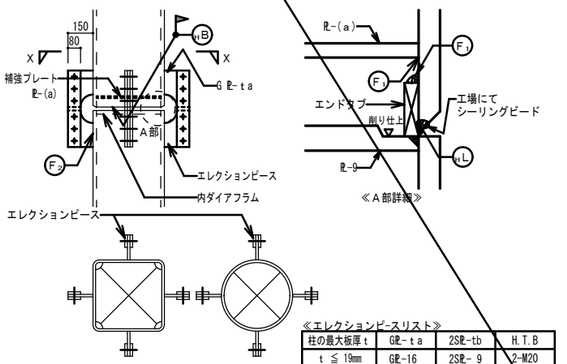
7.1 柱の継手

■ H形柱の継手

（a） フランジ・ウェブの添板厚さ、寸法(長さ)及びボルト仕様(径・本数・間隔・縁端距離)は、『継手リスト』を参照とする。



■ 角形鋼管・鋼管柱の継手



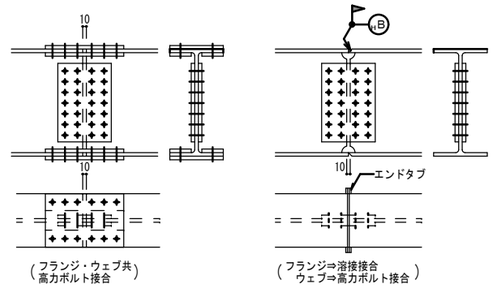
≪エレクションピースリスト≫

柱の最大板厚 t	GPL-ｔa	2SPL-tb	H.T.B
t ≦ 19mm	GPL-16	2SPL- 9	2-M20
19mm＜t ≦40mm	GPL-19	2SPL-12	3-M20
40mm ＜ t	GPL-22	2SPL-16	3-M22

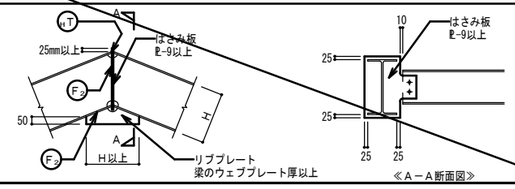
注） PL-(a)は厚さ9mmとし、柱径400mm以下の場合は省略してよい。
エレクションピースは、溶接完了後切り落としグラインダーにて仕上げること。

7.2 梁の継手

（a） フランジ・ウェブの添板厚さ、寸法(長さ)及びボルト仕様(径・本数・間隔・縁端距離)は、『継手リスト』を参照とする。



7.3 山形ラーメン棟部の継手

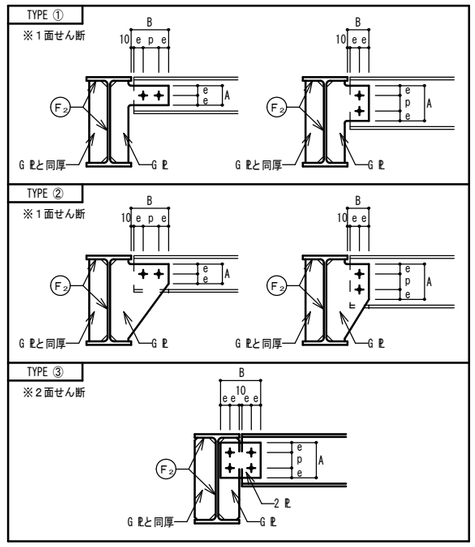


7.4 小梁の継手

■ 小梁の接合（ピン接合）

（a） 縁端距離（e）及びボルト間隔（p）は、『継手リスト』を参照とし、記載のない場合は、『3．高力ボルト接合等 3.3』に準ずる。
G PL の厚さは、『継手リスト』を参照する。

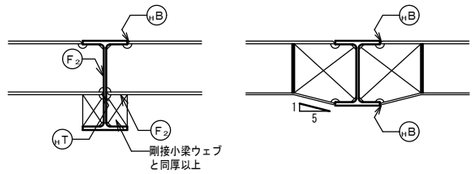
（b） 小梁仕口要領（仕口タイプ）は、下記へ示す。



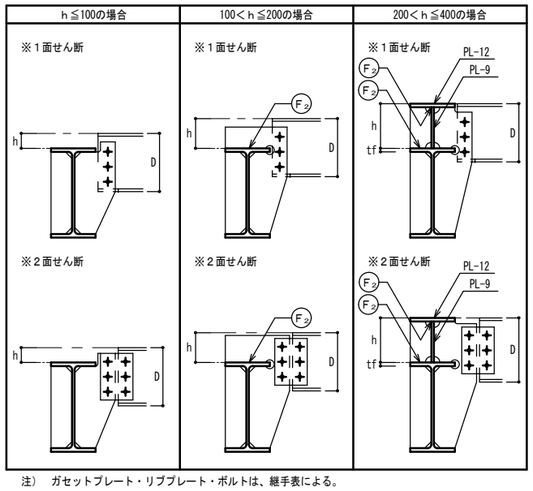
■ 小梁の接合（剛接合）

（a） G PL 及びR PLの材種，板厚は、小梁ウェブプレートと同厚以上とする。

■ 直交する梁との段差が100mm以上の場合　　■ 直交する梁との段差が100mm未満の場合



■ 小梁段差部取付け要領



注） ガセットプレート・リブプレート・ボルトは、継手表による。
h>400の場合は、監督員(監理者)との協議による。

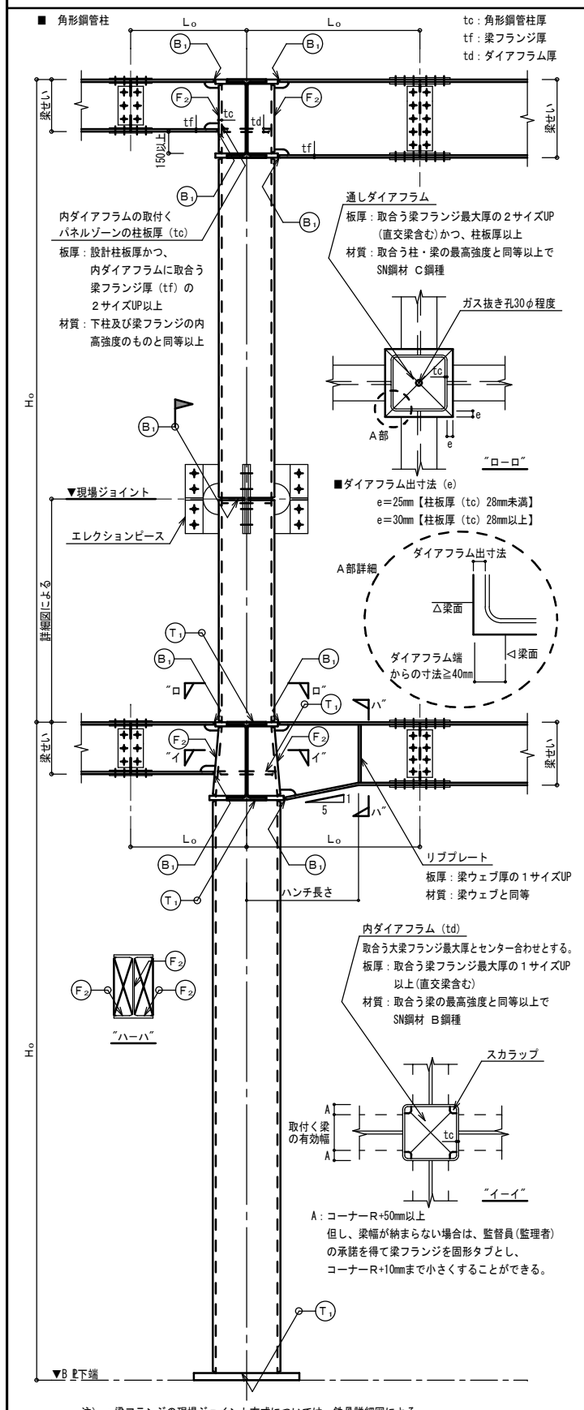
構造担当 有限会社 藤木隆司建築設計事務所
１級建築士事務所 広島県知事登録 21(1)2157号
１級建築士登録 第126381号 構造一級 第5747号 藤木 隆司

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所 広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設 計	検 図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製 図	担 当	承認年月日	図面名称	構造関係共通図［鉄骨標準図その３］	縮尺 (A2:100% A3:70.7%) NS

S ――1011

8．仕口部詳細

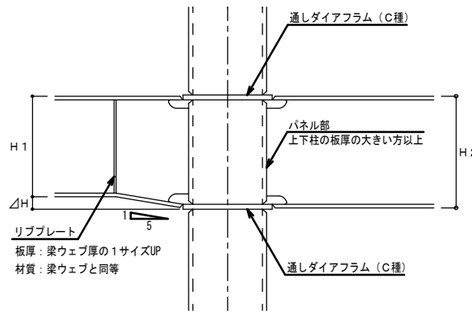
8.1 標準架構詳細



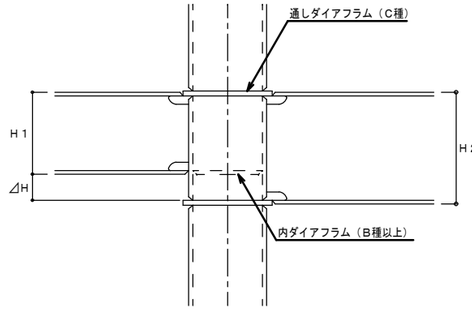
注）・梁フランジの現場ジョイント方式については、鉄骨詳細図による。
記載がなければ、本標準図に準ずる。
・L_oは柱心から鉄骨梁ジョイント位置の長さ、H_oは鉄骨柱高さを示す。

8.2 梁段差部の仕口部施工詳細要領

■ ⊿H≦100mmの場合



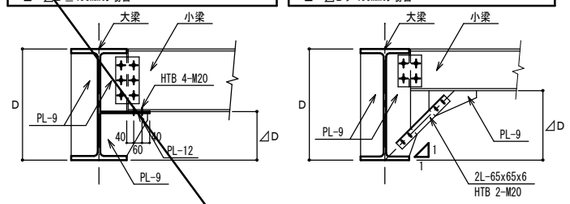
■ ⊿H＞100mmの場合



8.3 梁下端フランジ補剛要領

大梁と小梁下端との差⊿Dが D／2 を越える場合、以下に示す補剛要領にて補強する。

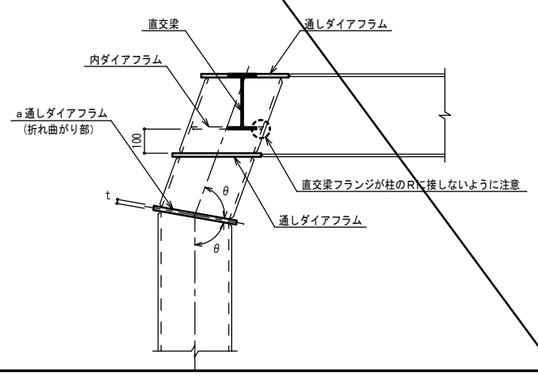
■ ⊿D≦400mmの場合　　■ ⊿D＞400mmの場合



8.4 柱のセットバック

柱が途中で折れる場合は、下記による。

注） 1．a通しダイアフラム（折れ曲がり部）は、柱板厚の１サイズUP以上とする。
材質は、SN鋼種 C種 とする。
2．開先加工の状況により、105°≧θ≧75°とすることが望ましい。

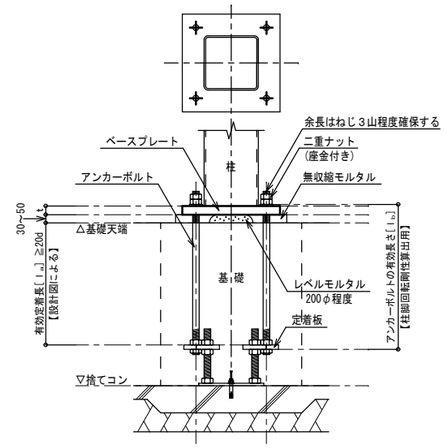


9．柱脚

9.1 露出型柱脚

（a） 露出型柱脚の要件 【平12建告第1456号】許容応力度計算を行った場合
・ アンカーボルトは、当該鉄骨柱の中心に対して均等に配置すること。
・ アンカーボルトには座金を用い、ナット部分の溶接，ナットの二重使用する他、これらと同等以上の効力を有する戻り止めを施したものであること。
・ アンカーボルト孔の径は、ｄ＋５mm以下、かつ最小縁端距離を確保すること。
最小縁端距離は、『３．高力ボルト接合等 3.3 最小縁端距離』による。

（b） 主柱に用いる場合の標準納まり要領
・ 露出型弾性固定柱脚の仕様は、メーカーの規定、標準図による。
・ アンカーボルト及びベースプレートは、設計図による。
・ ベースプレートの材質は、B種を標準とする。
・ アンカーフレームを使用する場合は、設計図による。
・ ＲＣ柱型が立上がる場合の柱主筋及びHOOP筋は、設計図による。



アンカーボルト施工に誤差のある場合
・ アンカーボルトの施工に誤差がある場合は台直しをせず下図のように補強する。
・ 構造図に溶接の表記がある場合も同様に、下図のように補強する。（建方用等は不要）
・ tは、B 鋼厚の1/2以上かつ12mm以上

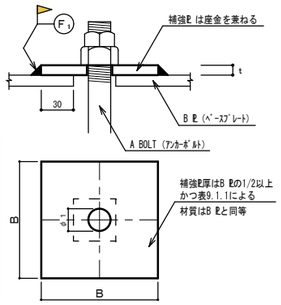
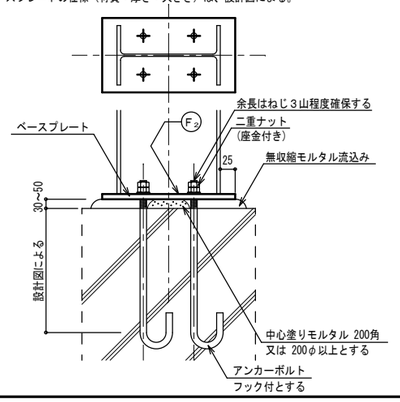


表9.1.1 アンカーボルトと補強PL厚・幅

アンカーボルト	φ1	補強PL厚 t≧	補強PL幅 B≧
M16	16.5	12	60
M20	20.5		
M22	22.5		
M24	24.5		
M27	27.5		
M30	30.5		
M33	33.5		70
M36	36.5		80

（c） 間柱等二次部材に用いる場合の標準納まり要領
・ アンカーボルトの仕様（材質・径・定着長）は、設計図による。
・ ベースプレートの仕様（材質・厚さ・大きさ）は、設計図による。

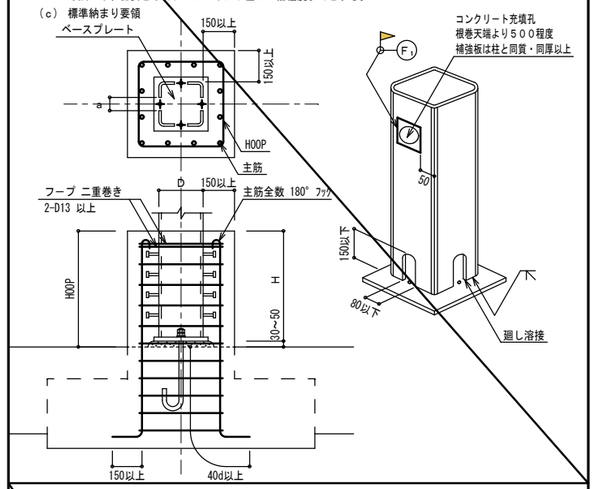


9.2 根巻型柱脚

（a） 根巻型柱脚の要件 【平12建告第1456号】
・ Hは、計算上必要な定着長さ 又は 主筋の４０ｄかつ２．５Ｄ以上とすること。
・ 立ち上がり主筋は４本以上とし、頂部は全数180° フックとする。
・ 根巻部分の帯筋は、pw≧0.20%かつピッチ100mm以下 とする。

（b） その他注意事項
・ ベース下の施工を慎重に行うこと。
・ ＨＯＯＰ筋と頭付スタッドの納まり、主筋フックと鉄骨断面が干渉しないように注意すること。
・ 寸法ａは、目安としてアンカーボルト径の５倍程度までとする。

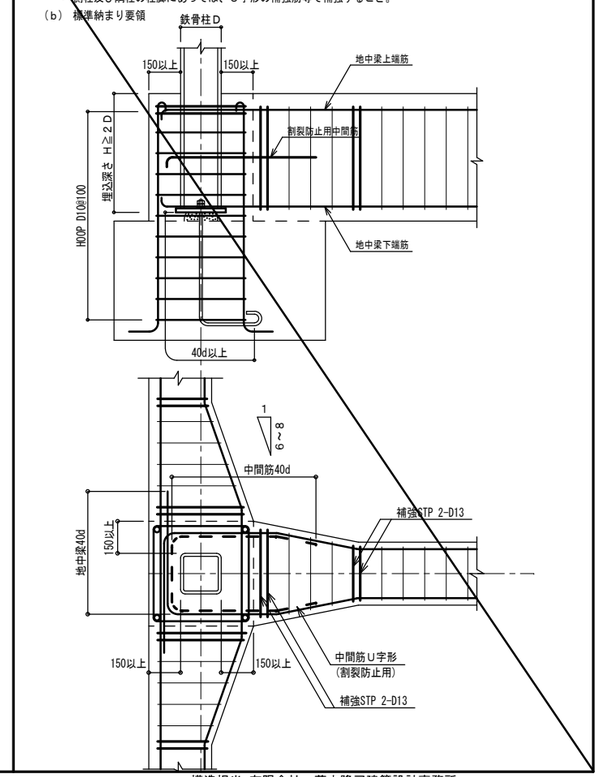
（c） 標準納まり要領



9.3 埋込型柱脚

（a） 埋込型柱脚の要件 【平12建告第1456号】
・ コンクリートへの埋込み深さＨは、２Ｄ以上とすること。
・ 側柱及び隅柱の柱脚にあっては、Ｕ字形の補強筋等で補強すること。

（b） 標準納まり要領



構造担当 有限会社 藤木隆司建築設計事務所
１級建築士事務所 広島県知事登録 21(1)2157号
１級建築士登録 第126381号 構造一級 第5747号 藤木 隆司

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所 広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設 計	検 図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製 図	担 当	承認年月日	図面名称	構造関係共通図［鉄骨標準図その４］ 縮尺 (A2:100% A3:70.7%) NS	S ——1012

ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準　（参考図）

ＱＬデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(社)日本鉄鋼連盟「デッキプレート床構造設計・施工規準-2004」、合成スラブ工業会「合成スラブの設計・施工マニュアル」、ＱＬデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設　　計

材料／デッキプレート　［ISO 9001認証取得］

デッキプレート種類		板厚(mm)	表　面　処　理
ＱＬデッキ ■ＱＬ９９－５０ □ＱＬ９９－７５	端部加工 □ｴﾝﾄﾛ有り ■無し	■1.2 □1.6	□裏面防錆処理(一次塗装) ＱＬプライマー(P) ■亜鉛めっき　［ ■Z12　□Z27 ］ □ZAM(高耐食溶融めっき鋼板)［ □K27　□K35 ］ □無し(　　)
材　質	ＪＩＳ Ｇ ３３５２に定めるSDP１T、SDP２、SDP２G		

材料／コンクリート

種　　類	■普通コンクリート　□軽量コンクリート（□1種　□2種）
設計基準強度	□18　■21　□（　　）N／mm²
厚さ(QLデッキ山上)	□60　□70　■80　□85　□90　□95　□100　□（　）mm

材料／溶接金網・異形鉄筋

■ 溶 接 金 網	ＪＩＳ Ｇ ３５５１　□φ6－150×150　■φ6－100×100
□ 異 形 鉄 筋	ＪＩＳ Ｇ ３１１２、３１１７　□D10－@200　□（　　）

接　　合

■焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
□打込み鋲	接合箇所は特記による
□頭付きスタッド	JIS B 1198　□φ13　□φ16　□φ19　□φ22　各長さ・ピッチは特記による
□そ　の　他	

耐　　火

	１　時　間	２　時　間
連 続 支 持	■ＦＰ０６０ＦＬ－９０９５	□ＦＰ１２０ＦＬ－９１０７
単 純 支 持	■ＦＰ０６０ＦＬ－９１０１	□ＦＰ１２０ＦＬ－９１１３
そ　の　他 □指定なし	□（　　） □（　　）	□（　　） □（　　）

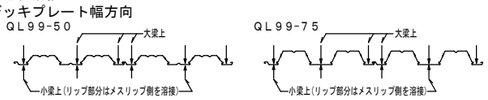
特　　記

支保工有無 ■無　□有	その他：

上欄内の採用項目に☑を記して下さい。

焼抜き栓溶接

デッキプレート幅方向



デッキプレートスパン方向

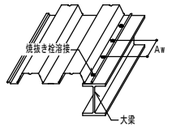
「ＱＬデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

$$A_W = \frac{1.5Q_a}{Q_0} \times 1000\text{mm}$$ かつ600mm 以下

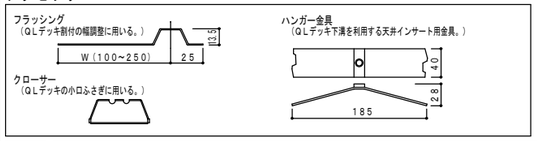
Qa：焼抜き栓溶接１個当たりの長期許容せん断力（N）
Q0：設計最大せん断力(N/m)
Aw：焼抜き栓溶接ピッチ

板厚	Qa (N)
1.2	4,900
1.6	7,350(SPW)、6,860(A.P.W)

Aw ＝（ 600 ）mm
(注) 接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要



アクセサリー

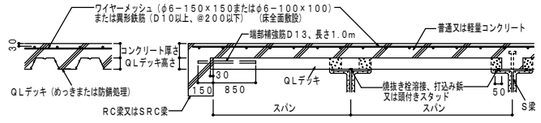


耐　火　仕　様

【連続支持合成スラブ】

支　持　梁　：鉄骨(S)梁 及び 大梁：鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁、小梁：鉄骨(S)梁
コンクリート：設計基準強度１８N/mm²以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート（1種・2種）

耐火時間	コンクリート種類	品　名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋（D10－@200）	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9095	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	3.0m 以下	80mm 以上	φ6－150x150	算出式 注5）A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5）B 参照
			3.6m 以下	90mm 以上	φ6－100x100	4,400N/m²以下 注2）
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	3.0m 以下	80mm 以上	φ6－150x150	算出式 注5）A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5）B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9107	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	95mm 以上	φ6－100x100	算出式 注5）A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5）B 参照
			3.6m 以下	95mm 以上	D10－@200	5,400N/m²以下 注2）
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	85mm 以上	φ6－100x100	算出式 注5）A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5）B 参照
			3.6m 以下	90mm 以上	D10－@200	5,400N/m²以下 注2）



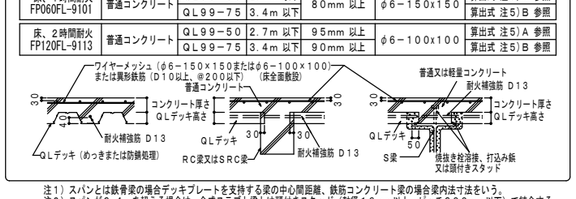
【単純支持合成スラブ】

支　持　梁　：鉄骨(S)梁　　コンクリート：設計基準強度１８N/mm²以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート（1種・2種）
耐火補強筋　：D１３（デッキプレート各溝@３００）

耐火時間	コンクリート種類	品　名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋（D10－@200）	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	80mm 以上	φ6－150x150	算出式 注5）A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5）B 参照
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下			算出式 注5）A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5）B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	95mm 以上	φ6－100x100	算出式 注5）A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5）B 参照
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	85mm 以上		算出式 注5）A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5）B 参照

支持梁：鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁の場合　　コンクリート：設計基準強度１８N/mm²以上の普通コンクリート
耐火補強筋：D１３（デッキプレート各溝@３００）

耐火時間	コンクリート種類	品　名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋（D10－@200）	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	80mm 以上	φ6－150x150	算出式 注5）A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5）B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	95mm 以上	φ6－100x100	算出式 注5）A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5）B 参照



注1）スパンとは鉄骨梁の場合デッキプレートを支持する梁の中心間距離、鉄筋コンクリート梁の場合梁内法寸法をいう。
注2）スパンが3.4mを超える場合は、合成スラブと梁とは頭付きスタッド（軸径16mm以上、ピッチ300mm以下）で結合する。
注3）鉄骨梁の場合、梁との接合は焼抜き栓溶接、打込み鋲、または頭付きスタッドを用いる。
注4）梁の耐火被覆　梁に1、2または3時間の耐火性能が要求される場合は、それらに応じ耐火被覆を施す。
注5）許容積載荷重W　算出式

ℓ：支持スパン（m）

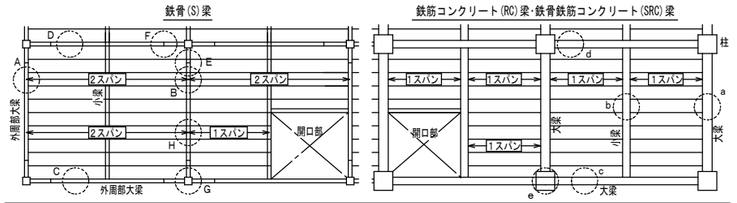
［A］ＱＬ９９－５０	［B］ＱＬ９９－７５
$W=5,400\times\left(\frac{2.7}{\ell}\right)^2$ かつ9,800 N/m² 以下	$W=5,400\times\left(\frac{3.4}{\ell}\right)^2$ かつ9,800 N/m² 以下

※許容積載荷重は、床にかかる全荷重(仕上げ荷重も含む)から床荷重(デッキプレートとコンクリートの自重)を差し引いた値を示します。

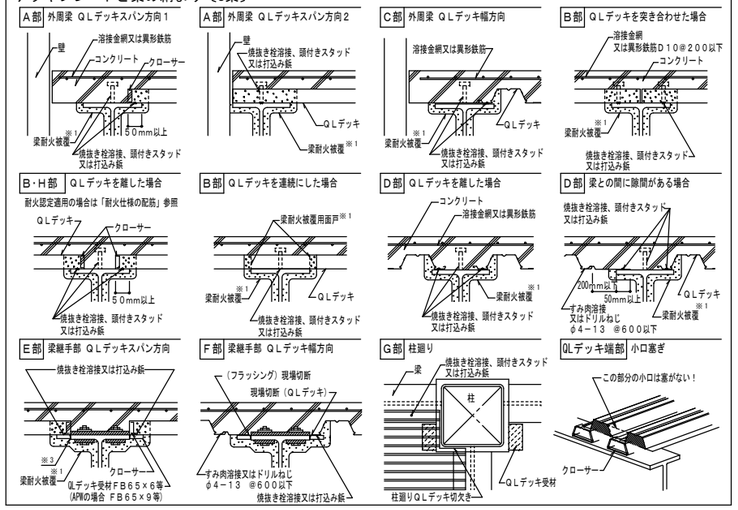
付帯条件
連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは２スパン以上にわたって連続的に小ばり等によって、ほぼ等間隔に支持されるものとする。

標　　準　　納　　ま　　り

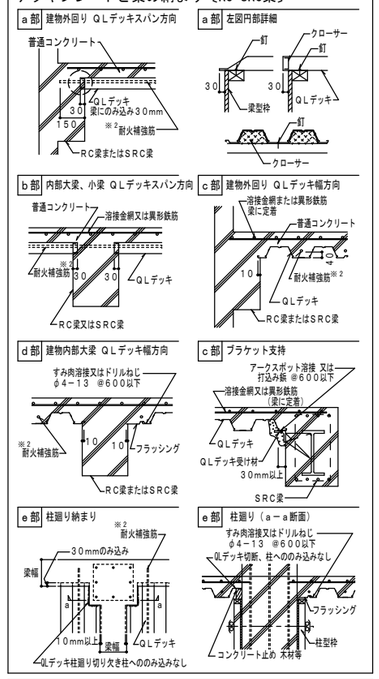
図中※1は、梁に1、2または3時間の耐火性能が要求される場合のみ適用。　※2はＱＬデッキ耐火認定を適用する場合に必要。
※3 溶接方法等は別途検討が必要。（合成スラブ工業会Ｑ＆Ａ参照）



デッキプレートと梁の納まり〔S梁〕



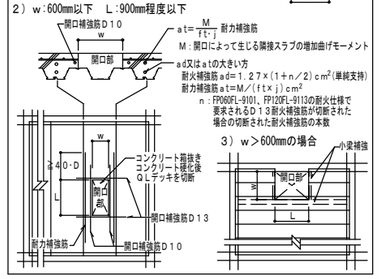
デッキプレートと梁の納まり〔RC・SRC梁〕



開口部補強案

1）開口がφ１５０程度の場合
A）開口間隔≧３×開口径　B）開口間隔＜３×開口径　C）開口が連続している場合
連続する開口の開口群(仮想開口)と見なし、その開口部の大きさにより、2)又は3)に準じて補強を行う

2）w：600mm以下　L：900mm程度以下

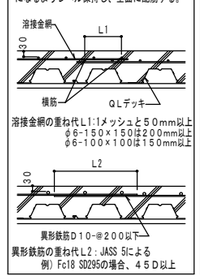


$$a_t = \frac{M}{f_t \cdot j}$$ 耐火補強筋

M：開口によって生じる隣接スラブの増加曲げモーメント
ad又はatの大きい方
耐火補強筋 $a_d = 1.27\times(1+n/2)\,cm^2$(単純支持)
耐火補強筋 $a_t = M/(f_t \times j)\,cm^2$
n：FP060FL-9101、FP120FL-9113の耐火仕様で要求されるD１３耐火補強筋が切断された場合の切断された耐火補強筋の本数

スラブの配筋

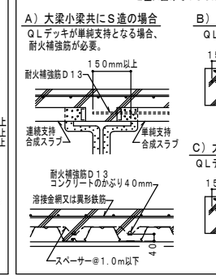
コンクリート表面よりのかぶり厚さが３０mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。



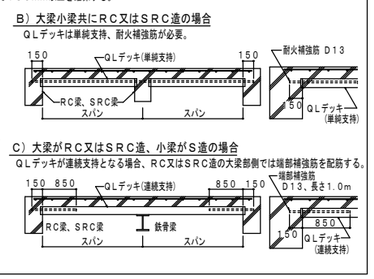
耐火仕様の配筋

・ＱＬデッキが単純支持となる場合、耐火補強筋を配筋する。配筋はＪＡＳＳ５鉄筋コンクリート工事による。
・耐火補強筋・端部補強筋が必要な場合、ＱＬデッキの各溝中央部にかぶり４０mmで配筋する。
・耐火補強筋、端部補強筋共、梁へ150mm以上定着させる。梁上で定着が１５０mmとれない場合は、Ｌ型に曲げて１５０mm以上を確保する。

A）大梁小梁共にＳ造の場合
ＱＬデッキが単純支持となる場合、耐火補強筋が必要。



B）大梁小梁共にＲＣ又はＳＲＣ造の場合
ＱＬデッキは単純支持、耐火補強筋が必要。



C）大梁がＲＣ又はＳＲＣ造、小梁がＳ造の場合
ＱＬデッキが連続支持となる場合、ＲＣ又はＳＲＣ造の大梁部側では端部補強筋を配筋する。

施　工

施工順序

墨出し
↓
敷込み仮止め溶接
↓
ＱＬデッキと梁との接合
1）頭付きスタッド
2）打込み鋲
3）焼抜き栓溶接
↓
溶接金網敷込み
↓
検　査
↓
コンクリート打設

敷　込　み

鉄骨梁の場合
1）墨出し線に合わせて１枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数(５～１０枚)ごとに仮止め溶接する。
2）各大梁上にデッキプレートの溝部が乗るように敷込む。

デッキプレート幅方向のかかり代は、５０mm以上あることを確認する。(頭付きスタッドの場合は３０mm以上)
3）デッキプレート長手方向の大梁のかかり代は、５０mm以上あることを確認する。

ＲＣ梁またはＳＲＣ梁の場合
1）デッキプレートは梁型枠に釘止めする。
2）デッキプレートの梁型枠へのみみ込み代が幅方向１０mm以上、長手方向が３０mmあることを確認する。

デッキプレートと梁との接合

1）頭付きスタッド
施工は、JASS6「鉄骨工事」による。
デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。

2）打込み鋲
施工は付込み鋲製造業者の施工要領による。
施工の仕様等については別途製造業者へご確認下さい。
日本ヒルティ(株)、　ＪＰＦ(株)

3）焼抜き栓溶接
国土交通省告示第３２６号(平成14年4月16日制定)及び国土交通省告示第６０６号(平成19年6月20日改正)の第２接合ハ(4)焼抜き栓溶接に基づく下記仕様による。（梁フランジの表面処理条件；黒皮または一般鋼止め塗装）
合成スラブ工業会主催の「焼抜き栓溶接講習会」の受講が望ましい。

焼抜き栓溶接［ＳＰＷ］ ―アーク手溶接―

（1）溶接機
交流アーク溶接機 AW２５０Ａ以上　エンジン溶接機 ２３０Ａ以上
（2）溶接棒
JIS Z 3211のE4316、E4916 に定める低水素系被覆アーク溶接棒で棒径4mmφのもの
（3）標準溶接条件
梁フランジ板厚：6mm以上
溶 接 電 流　：１９０～２３０Ａ(標準２１０Ａ)
（4）溶接工の資格
JIS Z 3801、JIS Z 3841 における基本級の有資格者
（5）手順・要領
右の１～４の順に行う。

	工　程	手　順・要　領
1	アーク発生	ＱＬデッキを変になじませ(隙間２mm以下)溶接棒をＱＬデッキに垂直にしてアークを発生させる。
2	ＱＬデッキ焼抜き	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、径10mm開で"の"の字を描いてＱＬデッキを焼抜く。
3	押し込み・溶着	溶接棒を梁上まで押し込み、焼抜きの内側をなぞるように円中央へ２～３回転しながら溶棒。
4	整　形	溶着金属を整え、中央部でそっと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認。

溶接時間の目安：電流値２１０Ａ(標準)の場合８秒程度

自動焼抜き栓溶接［Ａ．Ｐ．Ｗ］ ―CO_2アークスポット溶接 ―

（1）一次側電源の必要容量：仮設電力の場合　１８ＫＶＡ以上　３相　２００Ｖ
発電機の場合　３５ＫＶＡ以上　３相　２００Ｖ
（2）ワイヤの種類と直径　：ＹＧＷ　１１、１２　φ1.2mm
（3）標準溶接条件：下表

Qデッキ板厚	梁フランジ板厚	電流 (A)	電圧 (V)	アークタイム (秒)
1.2mm	6～9mm未満	300～320	33～35	3.0～4.0×1度打ち
	9mm以上	300～320	33～35	3.0～4.0×2度打ち
1.6mm	6～9mm未満	300～320	34～36	3.5～4.5×1度打ち
	9mm以上	300～320	34～36	4.0～4.5×2度打ち

注1.デッキプレート　板厚1.2、1.6mm　表面条件：Ｚ１２、Ｚ２７、裏面塗装
2.CO_2ガス流量：２０ℓ/ｍ分以上

検　　査

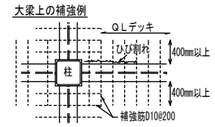
【焼抜き栓溶接（ＳＰＷ）及び自動焼抜き栓溶接（Ａ．Ｐ．Ｗ）】
□事前検査
ＳＰＷ；適正な溶接を行うため下記1)または2)の方法で電流値をチェックする。
1）検流計での計測
2）溶接棒の消費長さによる確認 ―― 未使用の規定の溶接棒を用いて、アーク長さを約3mmに保持し、１０mm程度の円を描いて１０秒間溶接した時の溶接棒の消費長さが４５～５３mmであること。
Ａ．Ｐ．Ｗ；試し溶接を行って溶接径を確認する。
□溶接後の外観検査
1）溶接箇所の確認　2）焼き切れ、余盛り不足の有無
3）標準余盛り径　SPW；10mm以上　A.P.W；25mm±3
□不良部の補修
ＳＰＷ　の場合：スラグ除去後、梁にデッキプレートを密着させて再溶接する。
不具合箇所に溶着金属を流し込む要領で補修。
Ａ．Ｐ．Ｗの場合：重ね溶接して補修する。
【そ　の　他】
(1)ＱＬデッキ相互の嵌合状況　(2)溶接金網の敷込み状況　(3)開口部の補強状況

(参考)ひび割れ拡大防止のための留意事項

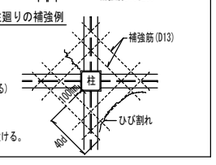
[1]設計上の留意点
1)小梁の剛性を大きくする。
2)ひび割れ拡大防止のため補強筋を設ける。(右図補強例参照)
3)スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。
(コンクリート厚さをＱＬデッキ山上から、80～90mmと厚くする。)
4)デッキプレートは各溝で梁に接合すること。
頭付きスタッド使用の場合にも、デッキプレート各溝全てをアークスポット溶接するのが望ましい。

[2]施工上の留意点
1)水セメント比を小さくする。
[例] 単位水量　175リットル/m³以下
ベースコンクリートスランプ　10cm
高性能ＡＥ減水剤　スランプ 15cm
2)溶接金網の位置一かぶり厚さ30mm－を確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する)
3)コンクリート打込み後１週間は載荷作業を行わない。歩行程度は可。
4)打込み後初期には散水や養生シート等で湿潤養生を行う。
直射日光が当たる屋上は、散水養生は必須。
5)打込み後４～７日間はスラブに振動や荷重を加えないようにし、充分な養生期間を設ける。

大梁上の補強例



柱廻りの補強例



構造担当　有限会社　藤木隆司建築設計事務所
１級建築士事務所　広島県知事登録　21(1)2157号
１級建築士登録　第126381号　構造一級　第5747号　藤木　隆司

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	EV棟 ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準	縮尺 (A2:100%　A3:70.7%) NS	S ――1013

角形鋼管

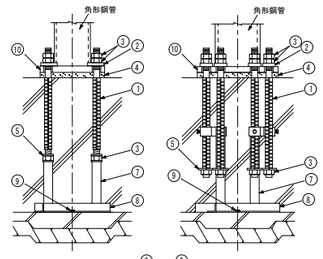
F値295N/mm²以下

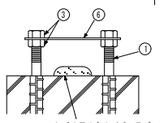
□-150×150 ～ □-300×300 用

露出型弾性固定柱脚工法（参考図）
ベースパック柱脚工法 設計 施工 標準図（参考図）

1．工法概要

1．1 構成部材

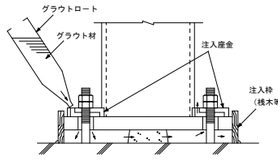




①アンカーボルト
②注入座金
③Mナット
④ベースパックグラウト（グラウト材）
⑤定着座金
⑥テンプレート
⑦フレームポスト
⑧フレームベース
⑨ステコンアンカー（コンクリートアンカー）
⑩ベースプレート

(注)上記①～⑩の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記⑥～⑨は現場状況により仕様が異なる場合がある。

1．2 柱脚の定着方法概要



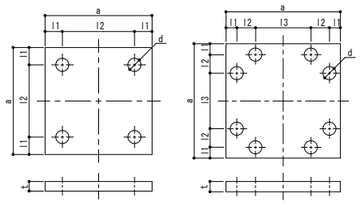
2．柱

F値(N/mm²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	○
	TSC295	

3．構成部材・寸法

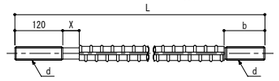
3．1 ベースプレート

●材質
SN490B 【JIS G 3136】



3．2 アンカーボルト（Mアンカーボルト） 【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

i）アンカーフレーム Aタイプの場合

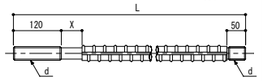


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L 注1)	X	b 注1)	基準強度 (N/mm²)
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690,735	45	95,140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770,810	60	98,135	490

注1)据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

ii）アンカーフレーム Cタイプ の場合

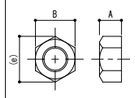


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L	X	基準強度 (N/mm²)
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490
M36	D38	770	60	490

3．3 Mナット

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

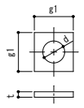


単位 mm

呼び	A	B	(e)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

3．4 定着座金

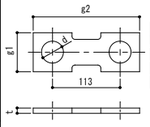
i）アンカーフレーム Aタイプの場合



単位 mm

適用アンカーボルト	g1	t	d	材質
M27	55	9	28	SS400
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

ii）アンカーフレーム Cタイプ の場合

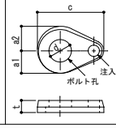


単位 mm

適用アンカーボルト	g1	g2	t	d	材質
M30	55	168	9	32	SS400
M33	60	173	9	35	
M36	65	178	9	38	

3．5 注入座金

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

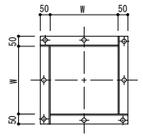


単位 mm

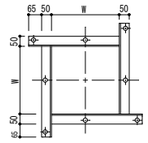
記号	適用アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM27	M27	32	42	101	18	28
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34
PM36	M36	35	45	110	18	37
PM39	M39	38	48	118	18	40

3．6 フレームベース

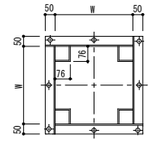
i）Aタイプ



ii）Cタイプ



iii）特Cタイプ

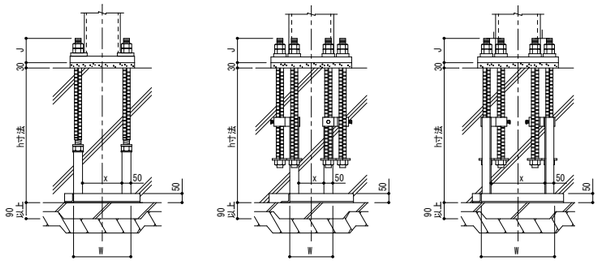


3．7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ（h寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は下表に記載の値とする。

〈 Aタイプ 〉　〈 Cタイプ ※ 〉　〈 特Cタイプ 〉

※杭頭納まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。

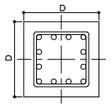


単位 mm

4．コンクリート柱型

4．1 形状・材質

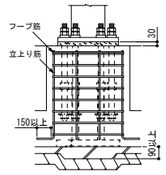
●形状
柱型寸法を標準から変更する場合は、別紙「ベースパック柱脚工法における柱型寸法最大・最小値一覧」による。



●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm²以上とする。

●鉄筋
SD295(D13,D16)
SD345(D19,D22)

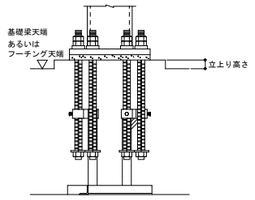
4．2 配筋



※トップフープはダブルとする

4．3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。
※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。



5．工場製作（溶接）

■組立
●ベースプレートの中心線（ｹｶﾞｷ線）に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）
●完全溶込み溶接とする。（JASS 6 鉄骨工事による）

完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6 鉄骨工事 2007年版より）

図	溶接方法	適用板厚 T(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	ルート間隔G(mm) 許容差	ルート面R(mm) 標準値	ルート面R(mm) 許容差	開先角度α1(°) 標準値	開先角度α1(°) 許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6～	7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：45	-2.5,+∞ (-5,+∞)	下向き
			9	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	6	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：45	-2.5,+∞ (-5,+∞)	下向き
			7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：35		

許容差・記号+∞は制限無しを示す。
・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段括弧内：限界許容差）を示す。

■ベースプレートの予熱
●気温（鋼材表面温度）が5°C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm) t<32	32≦t<40	40≦t≦50
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	予熱なし	50 ℃	50 ℃
CO_2ガスシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	予熱なし	予熱なし

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。

■施工管理：７．本工法の施工及び施工管理参照。

6．工事場施工

6．1 基礎工事

●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6．2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト（フレーム）の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。

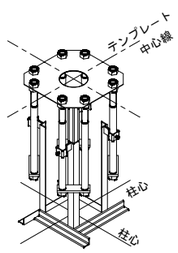
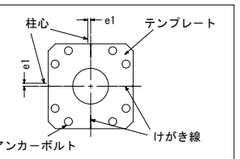


図	
標準許容差	-2≦e1≦2 基準高さより誤差は -3≦e≦10

e1:柱心とテンプレートのけがき線との許容差

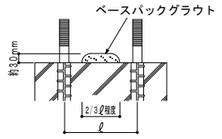
6．3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6．4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し大きさは右図による。



6．5 アンカーボルトの本締め（弛み止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6．6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材１袋（6kg）に対して、計量カップで1.0～1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち６．２アンカーボルト据付け及び６．６ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

採用	ベースパック記号	柱 外径(mm)	柱 板厚(mm)	ベースプレート 材質	形状	寸法(mm) a	t	l1	l2	l3	d	本数-呼び	基準強度(N/mm²)	アンカーフレームタイプ	コンクリート柱型 寸法D(mm) 標準フレーム	特C	配筋 立上り筋	フープ筋	設計基準強度(N/mm²)	フレームベース 寸法W(mm) 標準フレーム	特C	フレームポスト間 寸法X(mm) 標準フレーム	特C	最低h寸法(mm)	J寸法(mm)
	15-12V	□-150×150	t≦12	SN490B	(イ)	300	28	50	200	-	φ45	4-M27	490	A	500	-	12-D16	D13@100	21以上	250	-	150	-	550	135
	17-12V	□-175×175	t≦12	SN490B	(イ)	320	32	45	230	-	φ45	4-M30	490	A	530	-	12-D19	D13@100	21以上	280	-	180	-	600	135
	20-09V	□-200×200	t≦9	SN490B	(イ)	360	28	50	260	-	φ45	4-M30	490	A	560	-	12-D16	D13@100	21以上	310	-	210	-	600	135
	20-12V	□-200×200	t≦12	SN490B	(イ)	360	32	50	260	-	φ50	4-M33	490	A	560	-	12-D19	D13@100	21以上	310	-	210	-	600	135
	25-09V	□-250×250	t≦9	SN490B	(イ)	420	32	55	310	-	φ55	4-M36	490	A	610	-	12-D19	D13@100	21以上	360	-	260	-	650	150
	25-12V	□-250×250	t≦12	SN490B	(イ)	420	36	55	310	-	φ55	4-M39	490	A	630	-	12-D19	D13@100	21以上	370	-	270	-	650	150
○	25-16V	□-250×250	t≦16	SN490B	(ハ)	450	32	50	80	190	φ50	8-M33	490	C	620	640	12-D19	D13@100	21以上	240	440	140	300	650	135
	30-09V	□-300×300	t≦9	SN490B	(イ)	480	36	60	360	-	φ55	4-M39	490	A	680	-	12-D22	D13@100	21以上	420	-	320	-	650	150
	30-12V	□-300×300	t≦12	SN490B	(ハ)	520	32	50	80	260	φ50	8-M30	490	C	700	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	650	135
	30-16V	□-300×300	t≦16	SN490B	(ハ)	520	40	50	80	260	φ55	8-M36	490	C	700	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	700	150
	30-19V	□-300×300	t≦19	SN490B	(ハ)	550	50	50	80	290	φ55	8-M36	490	C	740	740	12-D22	D13@100	21以上	340	540	240	400	700	150

構造担当 有限会社 藤木隆司建築設計事務所
１級建築士事務所 広島県知事登録 21(1)2157号
１級建築士登録 第126381号 構造一級 第5747号 藤木 隆司

訂正	月．日	

協同組合建築設計団ＳＯＵ間
1級建築士事務所 広島県知事登録24(1)第5062号
広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号

1級建築士 前岡 正伸
第234595号

設計年月日	設 計	検 図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
	製 図	担 当	承認年月日	図面名称	EV棟 ベースパック柱脚工法標準図 参考図	縮尺 (A2:100% A3:70.7%) NS

S ――1014

地盤改良(テノコラム)地業特記仕様書

1. 工事概要

本地業は、テノコラム工法による地盤改良地業である。テノコラム工法は、スラリー状のセメント系固化材（以下、固化材液と称す）を地盤に注入しながら、共回り防止翼を装着した掘削撹拌装置を用いて、地盤と固化材液を撹拌混合することで、地中にソイルセメント柱体（以下、コラムと称す）を築造する深層混合処理工法である。

2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」(日本建築センター、ベターリビング)及び「建築工事標準仕様書・同解説 JASS４ 杭・地業および基礎工事」(日本建築学会)による。

3. 特記事項

(1) コラムの径、掘削長（設計コラム長＋空掘長）、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及び固化材液の配合等について、土質や地盤構成、施工条件等により変更した方が適切だと判断される場合は、監理者の承認の下に変更することができる。

(2) コラムの設計基準強度はＦｃ＝ 1200 kN/m2 (1.2 N/mm2)とする。

(3) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理及び施工管理、品質検査を実施する。

(4) 本工事工法は、技術審査証明取得工法(技審証第202001号)とし、各土質(砂質土・礫質土、粘性土、ローム、有機質土・高有機質土)で改良強度の変動係数25%程度を確保できる工法とする。また、事前にその証明書を監理者に提出し、承認を得ることとする。

4. 施工計画

(1) 本工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したもので、テノコラム協会に所属する会員が認定した専業者とする。

(2) 施工計画書

工事に先立ち、施工計画書を監理者に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

1. 工事件名及び工事場所
2. コラム仕様及び数量
   〔コラム径、掘削長（設計コラム長＋空掘長）・本数
   ・設計基準強度 〕
3. 工事期間及び工程
4. 工事の組織（建設工事元請業者の本工事責任者、コラム施工業者名及び責任者、各種作業の主たる従事者）
5. 施工手順
6. 施工機器
7. 固化材配合条件
8. 施工管理（立合い、管理項目、施工記録）
9. 品質検査
10. 安全衛生対策
11. 地盤概要（土質柱状図）
12. コラム伏図
13. 技術審査証明書（写）

5. 施工

(1) 作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないよう養生する。

(2) 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事象が発生した場合は、別途検討する。

a. 掘削撹拌装置をコラム芯に合わせる。

b. 固化材液を吐出せずに、空掘り部を所定の深度まで掘削撹拌装置を正回転させながら掘進する。

c. 改良部上端深度から固化材液を吐出し、掘削撹拌装置を正回転させながら掘進・撹拌混合する。

d. 注入掘進工程が終了したら、固化材液の吐出を停止し、先端部の練り返しを行う。

e. 先端練り返し工程が終了したら、掘削撹拌装置を逆回転させながら引上げ撹拌混合する。

f. 改良部の引上げ撹拌混合が終了したら、掘削撹拌装置を地上に引上げて、コラムの築造を完了する。

(3) 設計図書に示された支持地盤に着底する長さを実施コラム長という。

(4) 本工事により排出される発生残土は場内又は場外処分とする。

6. 施工機械

(1) 土の共回り現象を防止する機構を有し、固化材と地盤を確実に撹拌混合できる掘削撹拌装置を用いること。

(2) 所定の施工管理項目の計測、記録を行い、施工中の各管理値が管理基準値を満足するかの判定をリアルタイムに行う機能を搭載した施工管理装置を用いること。

(3) 改良機本体は、本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。

(4) ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

7. 配合管理

(1) 固化材液に使用する材料は、セメント又はセメント系固化材とする。また、施工条件等により混和剤（材）を用いる。

(2) 配合強度

変動係数を25%と想定し、９項に規定する抜取箇所数Ｎ、合格確率80%とした下表を用いて設定する。

N	1	2	3	4～6	7～8	9～
αt	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

Ｘｆ＝αｔ×Ｆｃ ［Ｘｆ：配合強度(kN/m2 ,N/mm2)、αｔ：割増し係数］

(3) 室内配合試験

固化材液の配合条件（水／固化材比Ｗ／Ｃ、配合量（固化材添加量））は、現地土を用いた室内配合試験の結果に基づき、現場室内強度比を考慮して配合強度を満足するように決定する。あるいは、正確に土質を把握し、かつ、その土質に対する既存データがある場合は、その結果を用いて添加量等を決定する。

8. 施工管理

(1) 施工の安定性を確保するため下記に示す項目について施工管理する。

6. (2) に示す施工管理装置（スーパーシステム）を用いて、コラム１本毎の施工結果（施工深度、固化材添加量、撹拌混合回数、仕事量）を記録・保存（出力）するとともに、各管理値が基準値未達の場合は、修正施工の指示を行う。

1	形状・寸法	：鉛直性	改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する
		コラム芯	事前にコラム芯にマークを設ける
		掘削深度	深度計で計測し記録する
		コラム径	掘削撹拌装置の形状・寸法を記録する
2	固化材	：材料計量	水、固化材の重量
		固化材液の密度	マッドバランス等
		固化材添加量	区間深度毎の注入固化材量を算出し、記録・保存する
3	撹拌混合度	：撹拌混合回数	区間深度毎の撹拌混合回数を算出し、記録・保存する
4	支持地盤	：仕事量	掘削深度毎の仕事量を算出し、記録・保存する

支持地盤への着底判定は、仕事量による掘削抵抗値とし、試験コラムの施工状況により、監理者及び元請業者、地盤改良施工業者の三者で協議のうえ、決定する。

(2) コラムの芯ズレ

コラムの芯ズレが許容値を超えた場合は、監理者と協議し、設計検討により応力照査を行ったうえ、安全であると判断した場合、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。

(3) 施工の立合い

建設工事の元請業者は、本地業責任者（請負業者の中から選定）及び施工責任者を定め、両者は本地業の施工中は立ち会うものとする。

9. 品質検査

(1) 検査対象群、検査対象層及び調査箇所数

1. 検査対象群は、概ねコラム300本を１単位とする。地層毎に検査対象層を決めるが、最小層厚を0.5mとする。
2. 検査対象層は 粘土混り礫混り砂.腐植粘土.礫混り粘土質砂.であり、設計対象層を 腐植粘土 とする。
   ただし、設計対象層以外の平均強度が設計対象層の平均強度より小さい場合は、
   最も小さい平均強度の地層を設計対象層とする。
3. 調査箇所数
   頭部コア（コアマシン） 100コラムを１単位とし、１単位毎に１箇所
   深度コア（ボーリングコア） 100コラムを１単位とし、１単位毎に１箇所

(2)コア採取率による調査

コアボーリング調査の内、検査対象群に１箇所の割合でコア採取率を調査する。コア採取率が、全長に対して粘性土で90%、砂質土で95%以上、深さ１ｍ毎に粘性土85%以上、砂質土で90%以上あることを確認する。

(3) 合否の判定

1. 設計対象層についての抜取箇所数をＮとする。１箇所あたり３個のコア供試体を採取し、その平均強度をその箇所の強度とする。
2. 一軸圧縮試験は公的機関あるいは検査員（監理者）立会いの下に行うものとする。
3. 検査手法は品質のバラツキを想定する場合の検査手法Ａによる。
4. 検査手法Ａによる品質検査

合否の判定は、設計対象層（検査対象層）におけるＮ箇所（抜取箇所数）の一軸圧縮試験結果が下式を満足すれば合格とする。

$\overline{X}N \geqq XL = Fc + ka \cdot \sigma d$

$\overline{X}N$： Ｎ箇所の一軸圧縮強度の平均値(kN/m2 ,N/mm2)

ＸＬ： 合格判定値(kN/m2 ,N/mm2)

Ｆｃ： 設計基準強度(kN/m2 ,N/mm2)

ｋａ： 合格判定係数（下表による）

σｄ： 標準偏差(kN/m2 ,N/mm2) $= Vd \cdot \overline{q}ud$ （Ｖｄ：変動係数、技術証明書等により想定する $\overline{q}ud$：想定した平均一軸圧縮強さ(kN/m2 ,N/mm2) ）

抜取箇所数N	1	2	3	4～6	7～8	9～
合格判定係数 ka	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

10. 報告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監理者に提出する。

1. コラムの伏図及び番号
2. コラムの施工日
3. コラムの径及び実施コラム長
4. 掘削深度
5. 撹拌混合回数
6. 仕事量
7. 固化材液の配合と固化材の使用量
8. コア供試体の一軸圧縮強度試験結果及びボーリングコアを用いた場合のコア採取率
9. 合否判定結果

構造担当 有限会社 藤木隆司建築設計事務所
１級建築士事務所 広島県知事登録 21(1)2157号
１級建築士登録 第126381号 構造一級 第5747号 藤木 隆司

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所 広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設 計	検 図	承認印	工事名称	令和6年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事		図面番号
						製 図	担 当	承認年月日	図面名称	EV棟 地盤改良(テノコラム)地業特記仕様書	縮尺 (A2:100% A3:70.7%) NS	S ――1015

ボーリング柱状図

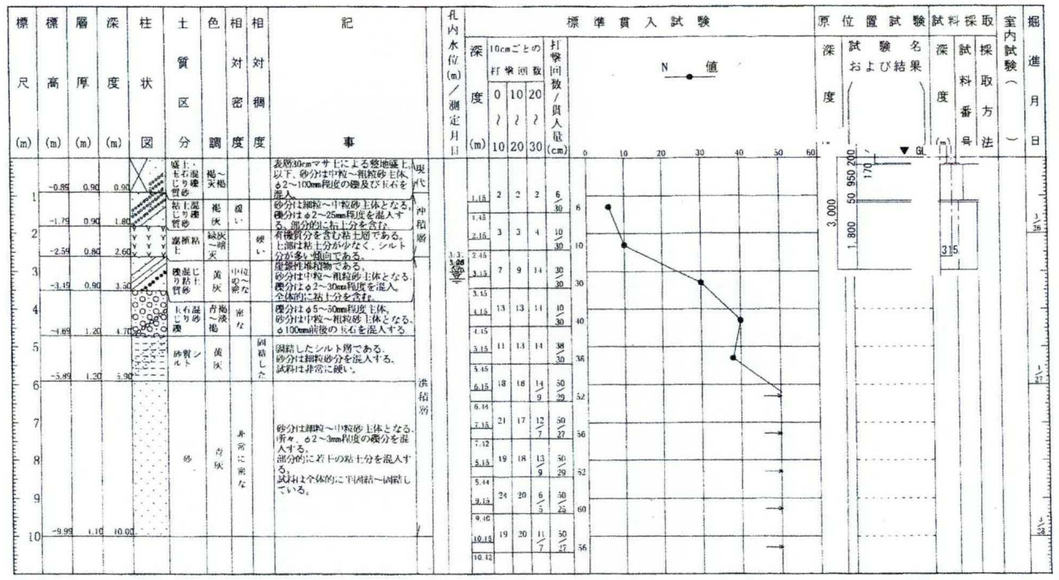
調査名　令和6年度 小学校施設整備事業 板城西小学校長寿命化改良及びEV棟増築設計業務

ボーリングNo

事業・工事名　令和6年度 小学校施設整備事業

シートNo

ボーリング名	Bor. No. 1	調査位置	広島県東広島市黒瀬町小多田257					北緯	34° 20' 47.5000"
発注機関	広島県東広島市都市交通部営繕課			調査期間	令和 7年 3月 26日 ～ 7年 3月 31日			東経	132° 42' 58.9000"
調査業者名	協同組合 建築設計団 SOU間 電話（0823-43-1007）	主任技師	宮本 貴弘	現場代理人	藤井 正博	コア鑑定者	北原 義隆	ボーリング責任者	藤井 正博
孔口標高	KBM +0.01m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	
総掘進長	10.00m							試錐機	東邦D0-DR型
								ハンマー落下用具	半自動落下装置
								エンジン	ヤンマーNFD-10型
								ポンプ	東邦BG-3C型



ボーリング柱状図

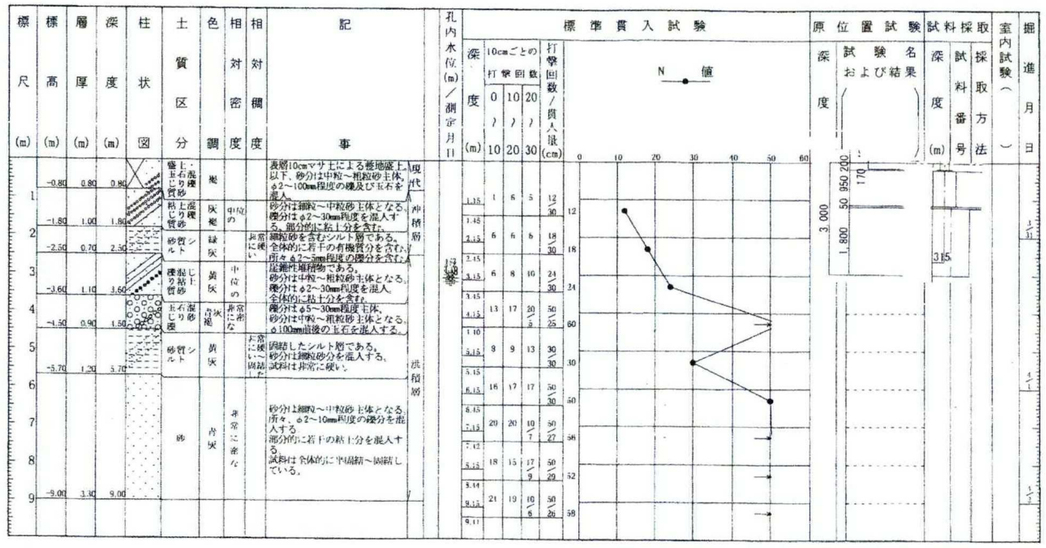
調査名　令和6年度 小学校施設整備事業 板城西小学校長寿命化改良及びEV棟増築設計業務

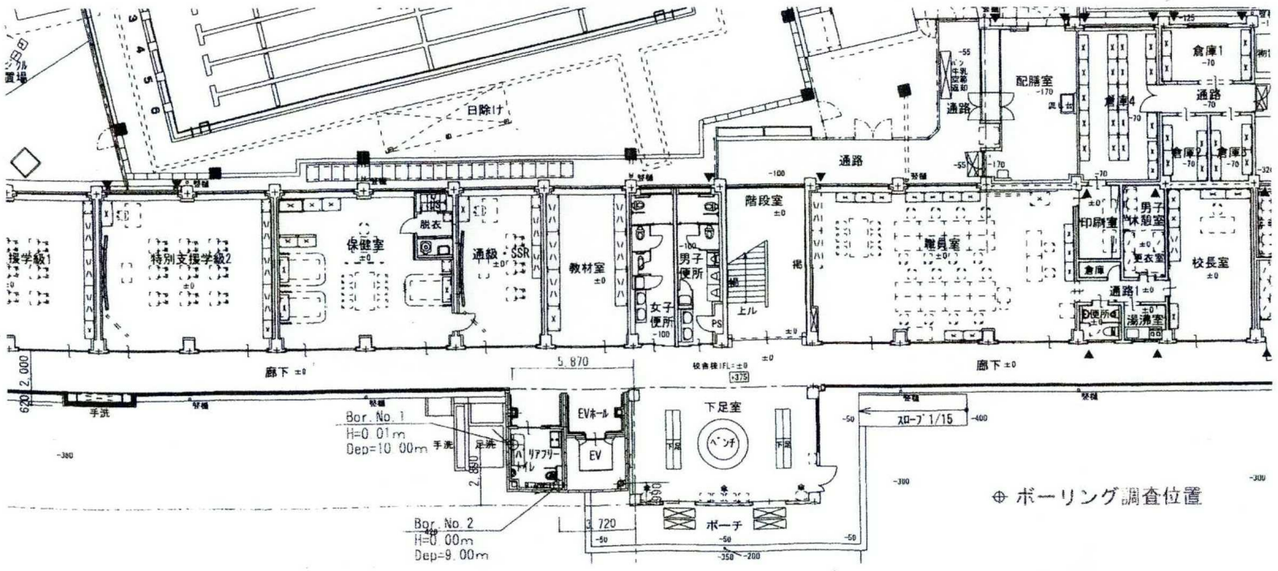
ボーリングNo

事業・工事名　令和6年度 小学校施設整備事業

シートNo

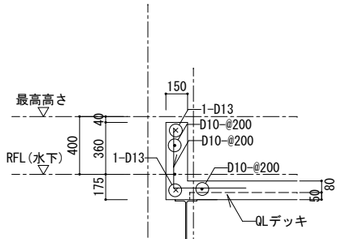
ボーリング名	Bor. No. 2	調査位置	広島県東広島市黒瀬町小多田257					北緯	34° 20' 47.5300"
発注機関	広島県東広島市都市交通部営繕課			調査期間	令和 7年 3月 31日 ～ 7年 4月 3日			東経	132° 42' 59.0100"
調査業者名	協同組合 建築設計団 SOU間 電話（0823-43-1007）	主任技師	宮本 貴弘	現場代理人	藤井 正博	コア鑑定者	北原 義隆	ボーリング責任者	藤井 正博
孔口標高	KBM± 0.00m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	
総掘進長	9.00m							試錐機	東邦D0-DR型
								ハンマー落下用具	半自動落下装置
								エンジン	ヤンマーNFD-10型
								ポンプ	東邦BG-3C型



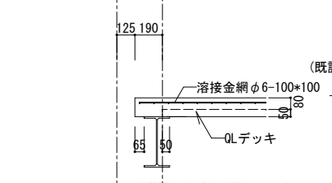


構造担当 有限会社　藤木隆司建築設計事務所
1級建築士事務所　広島県知事登録　21(1)2157号
1級建築士登録　第126381号　構造一級　第5747号　藤木　隆司

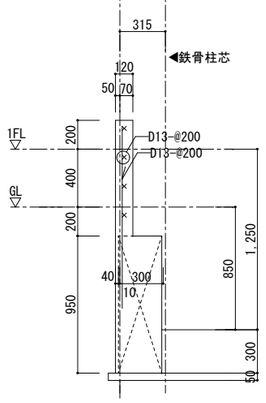
訂正	月．日	協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設計	検図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事
					製図	担当	承認年月日	図面名称	EV棟 基礎地盤説明書
								縮尺	(A2:100% A3:70.7%) NS
								図面番号	S ――1016

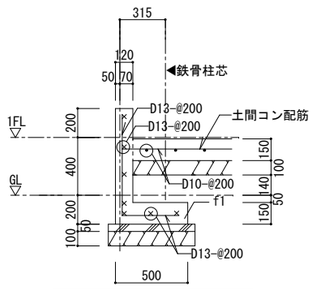


パラペット配筋図　1/30

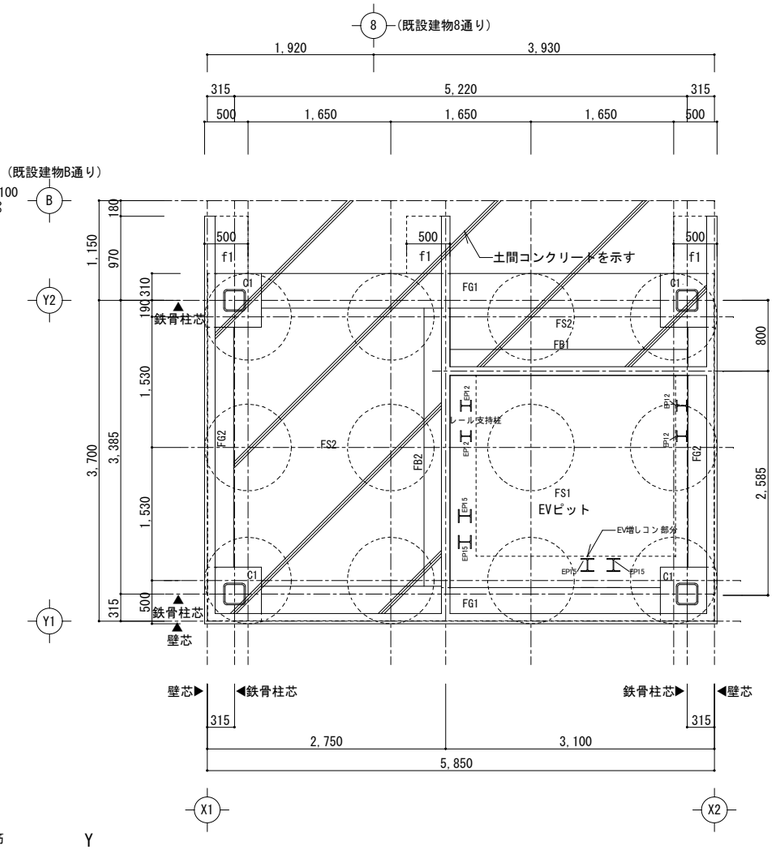


一般階持ち出し部分配筋図　1/30





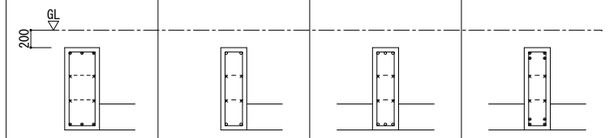
土間コンクリート腰壁配筋図　1/30

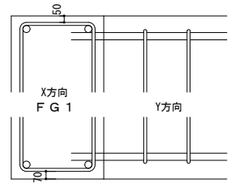


基礎伏図　1/50

地盤改良　：深層混合処理工法
基礎形状　：べた基礎
設計荷重度　：100.0kN/㎡
補強深度　：○ GL-3.0m ― 1000φ*12本

地中梁リスト

符号	FG1	FG2	FB1	FB2	
BXD	400×950	300×950	300×950	300×950	
位置	全域	全域	全域	全域	
断面図					
上バ筋	3－D25	2－D22	3－D22	4－D25	
下バ筋	3－D25	2－D22	3－D22	4－D25	
ST	□ D13－@200	□ D13－@200	□ D13－@200	□ D13－@200	
腹筋	4－D13	4－D13	4－D13	4－D13	
幅止メ筋	D10－@1000	D10－@1000	D10－@1000	D10－@1000	

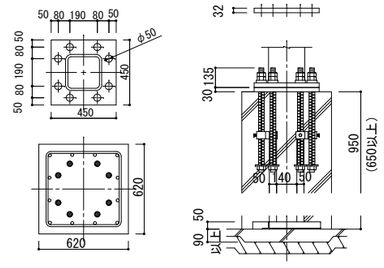


基礎スラブリスト

※　コンクリート強度　21N/mm².スランプ18cm

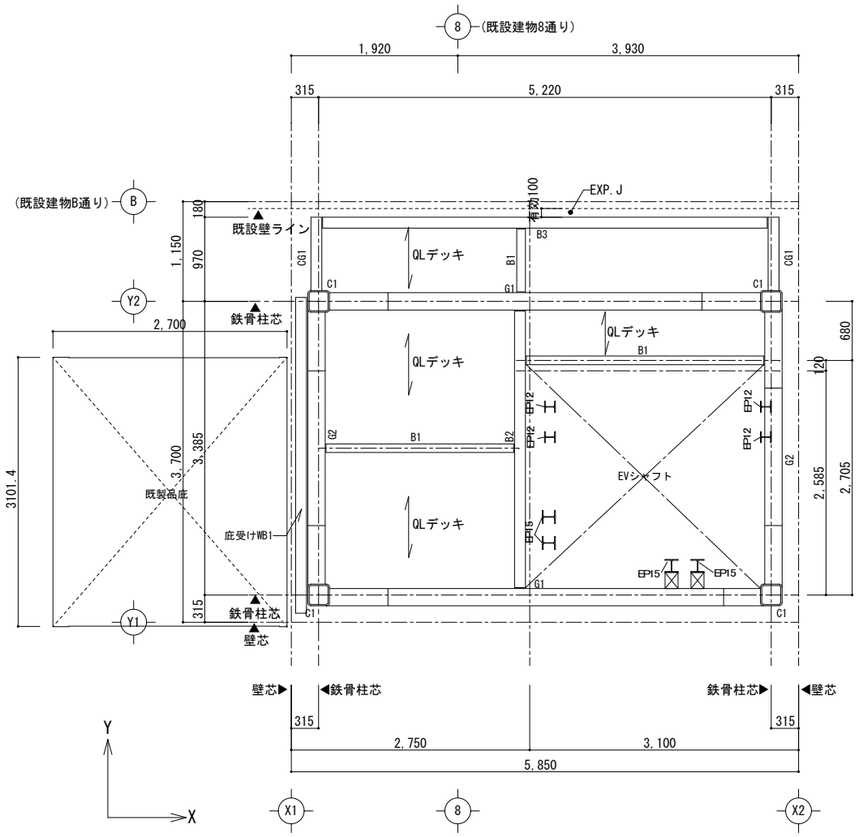
符号	版厚	位置	短辺方向 端部	短辺方向 中央-周辺部	長辺方向 端部	長辺方向 中央-周辺部	備考
FS1	300	上筋	D16-@200	←	D16-@200	←	
		下筋	D16-@200	←	D16-@200	←	
FS2	300	上筋	D16-@200	←	D16-@200	←	
		下筋	D16-@200	←	D16-@200	←	
		上筋					
		下筋					

柱脚詳細図　S=1:30

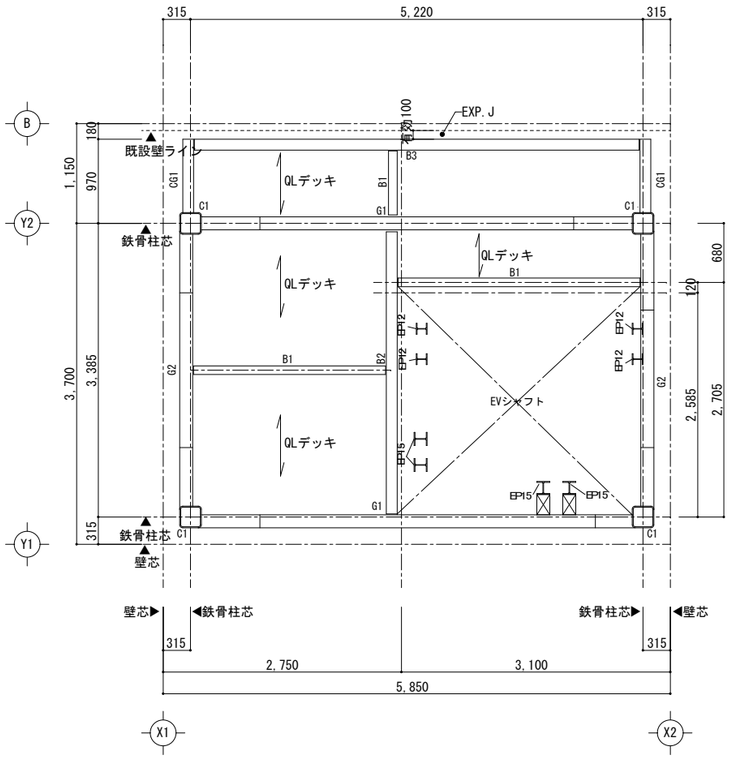
符号	C1
形状図	
主材	□-250×250×16
ベースプレート	450×450×32
アンカーボルト	8-M33(BPM-SD490)
立上り筋	12-D19(SD345)
フープ筋	D13@100(SD295)
ｺﾝｸﾘｰﾄ設計基準強度	21N/mm² 以上

構造担当 有限会社　藤木隆司建築設計事務所
1級建築士事務所　広島県知事登録　21(1)2157号
1級建築士登録　第126381号　構造一級　第5747号　藤木　隆司

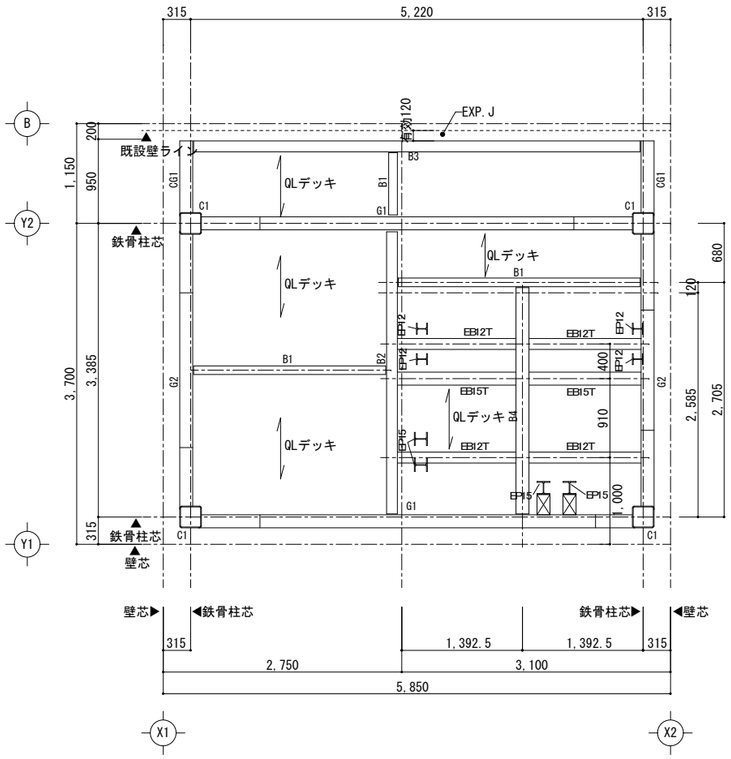
訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設計	検図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製図	担当	承認年月日	図面名称	EV棟 基礎伏図・基礎リスト・配筋図	縮尺 (A2:100% A3:70.7%) 1/50	S ――1017



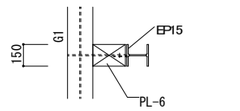
２階床梁伏図　1/50

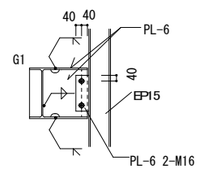


３階床梁伏図　1/50



Ｒ階床梁伏図　1/50



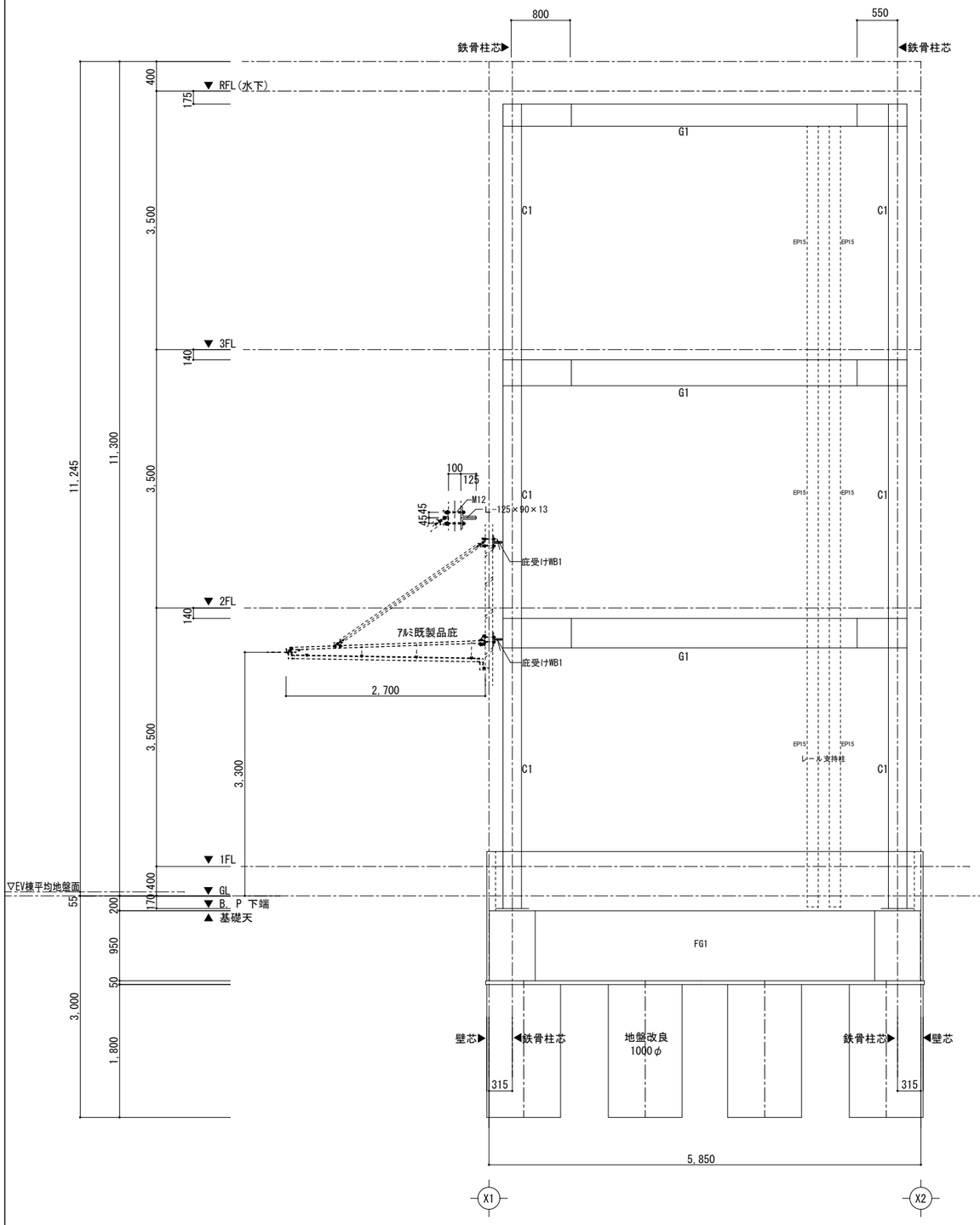


EP15　取り付け図

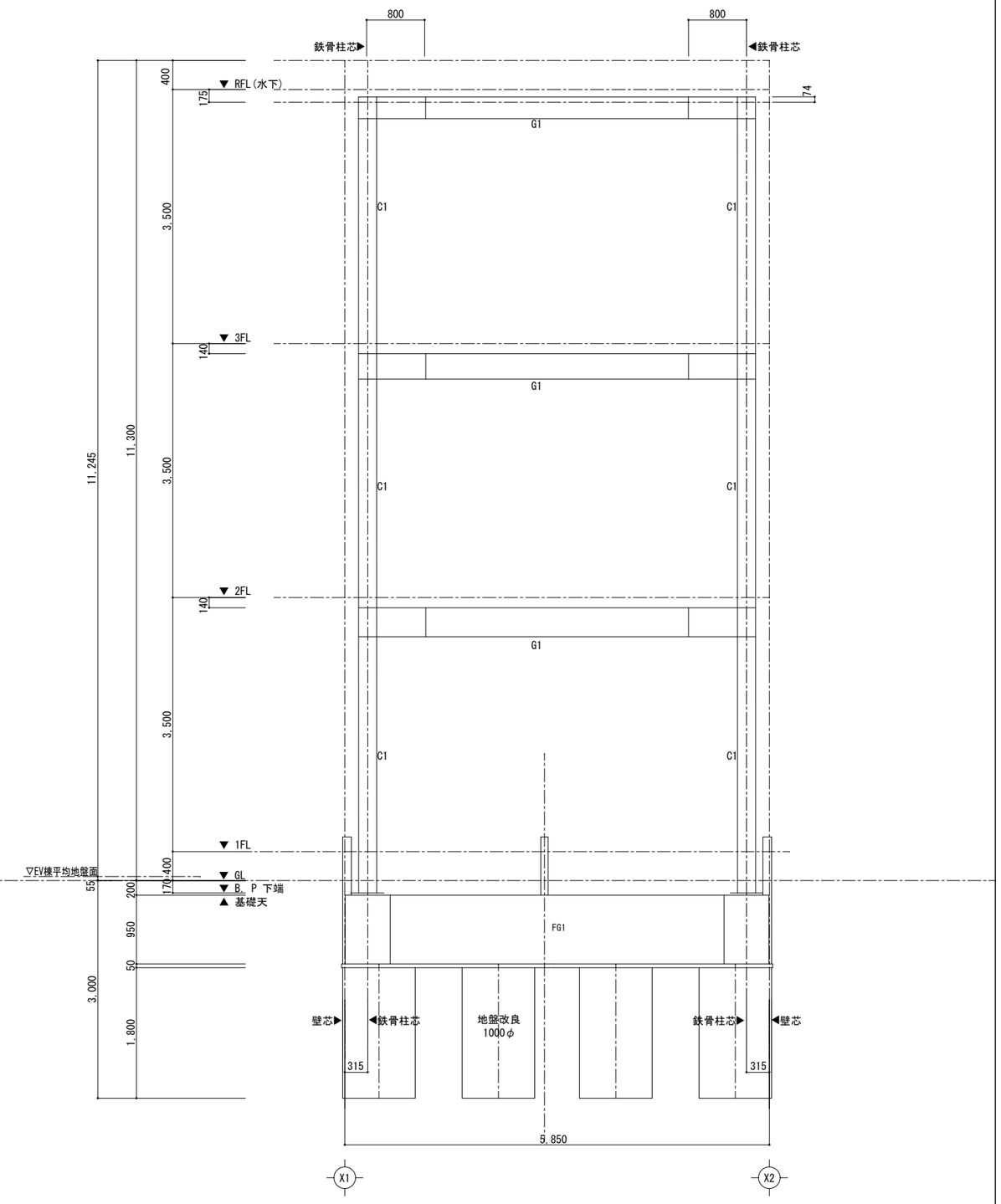
EV 鉄骨部材記号表　（ 建築工事）			
部材記号	部材用途	部材サイズ	備考（ レール支持柱は各階の梁に固定する事）
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10	仕口　PL-6 2-M6　柱脚　アンカー2-M6 ベースPL-16
EP12	レール支持柱	H-125x125x6.5x9	仕口　PL-6 2-M6　柱脚　アンカー2-M6 ベースPL-16
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6	
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6	
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10	
EHST9	吊元（ 荷重9.8kN用）	t12（ φ75穴付）	
EB15T	トロリービーム（ 荷重19.6kN）	H-150x150x7x10	仕口　PL-6 2-M6
EB12T	トロリービーム（ 荷重9.8kN）	H-125x125x6.5x9	仕口　PL-6 2-M6

構造担当 有限会社　藤木隆司建築設計事務所
１級建築士事務所　広島県知事登録　21(1)2157号
１級建築士登録　第126381号　構造一級　第5747号　藤木　隆司

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事		図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	EV棟 ２階・３階・Ｒ階　床梁伏図	縮尺 (A2:100%　A3:70.7%) 1/50	S ——1018



Y1通り　軸組図　1/50



Y2通り　軸組図　1/50

構造担当 有限会社　藤木隆司建築設計事務所
１級建築士事務所　広島県知事登録　21(1)2157号
１級建築士登録　第126381号　構造一級　第5747号　藤木　隆司

訂正	月．日		協同組合建築設計団ＳＯＵ間 1級建築士事務所　広島県知事登録24(1)第5062号 広島県広島市安佐南区長束五丁目33番19号	1級建築士 前岡 正伸 第234595号	設計年月日	設　計	検　図	承認印	工事名称	令和8年度 小学校施設整備事業 板城西小学校校舎長寿命化改良及び増築工事	図面番号
						製　図	担　当	承認年月日	図面名称	EV棟 Y1・Y2　通り　軸組図　　縮尺 (A2:100% A3:70.7%) 1/50	S ——1019